

---

Groupmax Version 6i  
クライアント 運用・構築ガイド

解説・手引書

3020-3-B61-10

**HITACHI**

このマニュアルは、次ページに示すプログラムプロダクトの発行によって、第1版（3020-3-B61）の内容を変更したものです。

#### 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

#### 商標類

Apple は、米国 Apple Computer, Inc. の登録商標です。

EURORA PRO は、イリノイ大学 Board of Trustees の登録商標で、米国 Qualcomm 社にライセンスされています。

Lotus Notes は、米国 Lotus Development Corp. の商品名称です。

Microsoft は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Microsoft Access は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Microsoft Excel は、米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

Microsoft Outlook は、米国 Microsoft Corp. の米国及びその他の国における商標です。

Microsoft Outlook Express は、米国 Microsoft Corp. の米国及びその他の国における商標です。

Microsoft SQL Server は、米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

Microsoft Word は、米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

NetWare は、米国 Novell, Inc. の登録商標です。

ODBC は、米国 Microsoft Corp. が提唱するデータベースアクセス機構です。

OLE は、米国 Microsoft Corp. が開発したソフトウェア名称です。

OLE は、Object Linking and Embedding の略です。

ORACLE は、ORACLE Corporation の登録商標です。

PC-9800 は、日本電気（株）の商品名称です。

SQL Server は、米国法人 Sybase, Inc. の商標です。

SYBASE SQL Server は、米国 Sybase, Inc. の商品名称です。

Visual C++ は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Windows NT は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

一太郎は、（株）ジャストシステムの登録商標です。

平成 13 年 1 月（第 1 版）3020-3-B61（廃版）

平成 14 年 7 月（第 2 版）3020-3-B61-10

< プログラムプロダクト一覧 >

P-2646-6144 Groupmax クライアントセット 06-50 (適用 OS:Windows 95, Windows 98, Windows NT 4.0, Windows 2000, Windows Me, Windows XP)

P-2646-6644 グループウェアクライアントセット 06-50 (適用 OS:Windows 95, Windows 98, Windows NT 4.0, Windows 2000, Windows Me, Windows XP)

P-2646-6244 ワークフロークライアントセット 06-50 (適用 OS:Windows 95, Windows 98, Windows NT 4.0, Windows 2000, Windows Me, Windows XP)

P-2646-6544 スケジュールクライアントセット 06-50 (適用 OS:Windows 95, Windows 98, Windows NT 4.0, Windows 2000, Windows Me, Windows XP)

P-2446-5744 簡単導入セット 06-50 (適用 OS:Windows 95, Windows 98, Windows NT 4.0, Windows 2000, Windows Me, Windows XP)

P-2446-5844 ワークフロー導入セット 06-50 (適用 OS:Windows 95, Windows 98, Windows NT 4.0, Windows 2000, Windows Me, Windows XP)

## 変更内容

変更内容 (3020-3-B61-10)

追加・変更機能	変更箇所
Windows XP をサポートした	-

なお、単なる誤字・脱字などはお断りなく修正しました。

# はじめに

Groupmax Version 6i を効率良く運用するためには、Groupmax サーバの運用とともに、エンドユーザの使用するクライアントの環境を管理・運用する必要があります。

このマニュアルは、Groupmax Version 6i のクライアント環境を構築・管理する際の作業の流れ、注意事項及び障害が発生した場合の障害資料の採取方法について説明したものです。

このマニュアルでは、各クライアント製品のユーザーズガイド及びオンラインヘルプに記載されていない事項について説明しています。一般的な機能の操作方法については、各クライアント製品のユーザーズガイド及びオンラインヘルプを参照してください。

注：本プログラムプロダクトの正式総称は「Groupmax Version 6i」ですが、以下の記述では単に「Groupmax」と記述します。

## 対象読者

このマニュアルは次の方を対象にしています。

- Groupmax が導入されているクライアント環境の管理者
- 今後、Groupmax の導入を予定しているシステム管理者

また、Microsoft<sup>(R)</sup> Windows<sup>(R)</sup> 95、Microsoft<sup>(R)</sup> Windows<sup>(R)</sup> 98、Microsoft<sup>(R)</sup> Windows NT<sup>(R)</sup> 4.0、Microsoft<sup>(R)</sup> Windows<sup>(R)</sup> 2000、Microsoft<sup>(R)</sup> Windows<sup>(R)</sup> Me 又は Microsoft<sup>(R)</sup> Windows<sup>(R)</sup> XP の基本操作を習得されている方を対象としています。

## マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す三つの章と付録から構成されています。

### 第 1 章 Groupmax 環境の構築

Groupmax のクライアント製品のインストール、環境設定及び各クライアントへの配布について、推奨する手順と注意事項を説明しています。

### 第 2 章 クライアント運用時のノウハウ

Groupmax のクライアント製品運用時のベターユース、注意事項及び各クライアント製品のトラブルシュートについて説明しています。

### 第 3 章 クライアント環境の保守

Groupmax を使用中に障害が発生した場合の障害情報の採取方法について説明しています。

### 付録 A メニューのカスタマイズ

Integrated Desktop のメニューのカスタマイズ方法について説明しています。

## 関連マニュアル

このマニュアルは次のマニュアルと関連がありますので必要に応じてお読みください。

- Groupmax Integrated Desktop Version 6 ユーザーズガイド (3020-3-B38)

Groupmax の統合作業環境システム Groupmax Integrated Desktop の各クライアント機能と操作方法を説明しています。Groupmax Integrated Desktop の機能には、電子メールシステム Groupmax Mail、電子アドレス帳システム Groupmax Address、文書管理システム

## はじめに

Groupmax Document Manager , ワークフローシステム Groupmax Workflow , エージェントシステム Groupmax Agent があります。

- ・ Groupmax Scheduler Version 6 ユーザーズガイド ( 3020-3-B41 )  
個人のスケジュール管理に加え, 他者のスケジュール予約や会議室予約もできる Groupmax Scheduler Client の機能と操作方法について説明しています。
- ・ Groupmax Facilities Manager Version 6 ユーザーズガイド ( 3020-3-B35 )  
会議室や応接室などの共同施設の管理を行なう Groupmax Facilities Manager Client の機能と操作方法を説明しています。
- ・ Groupmax Form Version 6 ユーザーズガイド ( 3020-3-B36 )  
電子帳票システム Groupmax Form の機能と操作方法を説明しています。
- ・ Groupmax Remote Installation Client Version 3 ( 3020-3-A41 )
- ・ Windows NT Groupmax Remote Installation Server Version 3 ( 3020-3-A40 )  
日立のプログラムプロダクトを, 遠隔地にあるパーソナルコンピュータにインストールするためのシステム Groupmax Remote Installation の機能と操作方法について説明しています。
- ・ Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド ユティリティ編 ( 3000-3-472 )
- ・ Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド ユティリティ編 ( 3020-3-B53 )  
Groupmax Address 及び Groupmax Mail を利用したユーザ情報や組織情報の一括登録方法などについて説明しています。

### 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を次のように定義します。

- パーソナル  
コンピュータの入出力  
の動作
- データの流れ



### 操作方法の説明で使用する記号

このマニュアルでは, 次に示す記号を使用して操作方法を説明しています。

記号	意味
[ ]	ウィンドウ, メニュー, ウィンドウのコマンド, ダイアログの名称, ボタン, タブ及びキーボードのキーを示します。 (例) [ファイル]メニュー [OK] ボタン
[A] + [B]	一方のキーを押しながらもう一方のキーを押す操作を示します。
[A] - [B]	- の前に示した [A] メニューから, [B] コマンドを選択することを示します。
「 」	ウィンドウ又はダイアログ中に表示される項目を示します。

### このマニュアルでの表記

このマニュアルでは, 製品名称又は総称を次に示す略称で表記しています。

製品名称又は総称	略称
Groupmax Version 6i	Groupmax
Groupmax Integrated Desktop Version 6	Integrated Desktop
Groupmax Directory Client Version 3	Directory Client
Groupmax Remote Installation Server Version 3	Remote Installation Server
Groupmax Remote Installation Client Version 3	Remote Installation Client
Groupmax Facilities Manager Client Version 6	Facilities Manager
Groupmax Scheduler Client Version 6 又は Groupmax Scheduler Client-Light Version 3	Scheduler 又は Scheduler Client
Groupmax Form Client Version 6 又は Groupmax Form Client-Design Version 6	Form 又は Form Client
Groupmax Form Client-Design Version 6	Form Client-Design
Groupmax Address Server Version 6	Groupmax Address Server
Groupmax Agent Server Version 5	Groupmax Agent Server
Groupmax Workflow Version 6	Groupmax Workflow
Groupmax Document Manager Version 6	Document Manager
Groupmax Mail Server Version 6	Groupmax Mail Server
Groupmax Mail-SMTP Version 6	Groupmax Mail-SMTP
Groupmax Mail Client Version2.0	Mail Client
Groupmax Document Manager Client Version2.0	Document Manager Client
Groupmax Facilities Manager Client Version2.0	Facilities Manager
Groupmax Scheduler Client Version2.0	Scheduler
Groupmax Form Client Version2.0	Form
Groupmax World Wide Web Desktop Version 6	Groupmax WWW
Groupmax World Wide Web Version 3	
Groupmax World Wide Web Version2.0	
Millemasse/FS for Groupmax 及び Millemasse/FS 登録クライアント for Groupmax	Millemasse
Bibliotheca2/TextSearch	Bibliotheca2/TS
Infoshare/TextSearch	Infoshare/TS
Lotus Notes	Notes
Keymate/Multi Version 2	Keymate/Multi
Keymate/Sign for Windows	Keymate/Sign
Microsoft <sub>(R)</sub> Windows <sub>(R)</sub> 95 Operation System	Windows 95
Microsoft <sub>(R)</sub> Windows <sub>(R)</sub> Operation System Version3.1	Windows 3.1
Microsoft <sub>(R)</sub> Windows <sub>(R)</sub> 98 Operation System	Windows 98

## はじめに

製品名称又は総称	略称
Microsoft <sub>(R)</sub> Windows NT <sub>(R)</sub> Workstation Operating System Version 4.0 又は Microsoft <sub>(R)</sub> Windows NT <sub>(R)</sub> Server Network Operating System Version 4.0	Windows NT 4.0
Microsoft <sub>(R)</sub> Windows <sub>(R)</sub> 2000 Professional Operating System 又は Microsoft <sub>(R)</sub> Windows <sub>(R)</sub> 2000 Server Operating System 又は Microsoft <sub>(R)</sub> Windows <sub>(R)</sub> 2000 Advanced Server Operating System	Windows 2000
Microsoft <sub>(R)</sub> Windows <sub>(R)</sub> Millennium Edition Operating System	Windows Me
Microsoft <sub>(R)</sub> Windows <sub>(R)</sub> XP Home Edition 又は Microsoft <sub>(R)</sub> Windows <sub>(R)</sub> XP Professional Edition	Windows XP
Microsoft Access <sub>(R)</sub>	Access
Microsoft <sub>(R)</sub> Excel	Excel
Microsoft <sub>(R)</sub> Exchange	Microsoft Exchange
Microsoft <sub>(R)</sub> Office 97	Microsoft Office
Microsoft <sub>(R)</sub> Outlook98	Outlook
Microsoft <sub>(R)</sub> Word	Word

注 マニュアル本文内では、Windows NT 4.0 を Windows NT と表記しています。また、OS による機能差がない場合は、Windows 95、Windows 98、Windows NT、Windows2000、Windows Me 及び Windows XP を総称して Windows と表記しています。

注 マニュアル本文内では「16ビット版」又は「バージョン番号(02-20など)」を付加することによって、Integrated Desktop のクライアント機能や Version 6 の製品名称の略称と区別しています。

### マニュアルで使用する英略語

このマニュアルでは、次に示す英略語を使用します。

英略語	正式名称
API	<u>A</u> pplication <u>P</u> rogramming <u>I</u> nterface
CPU	<u>C</u> entral <u>P</u> rocessing <u>U</u> nit
DBMS	<u>D</u> atabase <u>M</u> anagement <u>S</u> ystem
DHCP	<u>D</u> ynamic <u>H</u> ost <u>C</u> onfiguration <u>P</u> rotocol
DLL	<u>D</u> ynamic <u>L</u> inking <u>L</u> ibrary
FTP	<u>F</u> ile <u>T</u> ransfer <u>P</u> rotocol
HTML	<u>H</u> yper <u>T</u> ext <u>M</u> arkup <u>L</u> anguage
LAN	<u>L</u> ocal <u>A</u> rea <u>N</u> etwork
ODBC	<u>O</u> pen <u>D</u> atabase <u>C</u> onnectivity
OLE	<u>O</u> bject <u>L</u> inking and <u>E</u> mbedding
OS	<u>O</u> perating <u>S</u> ystem
PPP	<u>P</u> oint-to- <u>P</u> oint <u>P</u> rotocol



英略語	正式名称
RTF	<u>R</u> ich <u>T</u> ext <u>F</u> ormat
SQL	<u>S</u> tructured <u>Q</u> uery <u>L</u> anguage
TCP/IP	<u>T</u> ransmission <u>C</u> ontrol <u>P</u> rotocol / <u>I</u> nternet <u>P</u> rotocol
URL	<u>U</u> niform <u>R</u> esource <u>L</u> ocator
VGA	<u>V</u> ideo <u>G</u> raphics <u>A</u> rray
WWW	<u>W</u> orld <u>W</u> ide <u>W</u> eb

### 常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としておりますが、次の用語については常用漢字以外の漢字を使用しています。

宛先（あてさき）      桁（けた）      揃える（そろえる）  
 捺印（なついん）      貼り付け（はりつけ）      閉塞（へいそく）

### KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト、1,024<sup>2</sup> バイト、1,024<sup>3</sup> バイト、1,024<sup>4</sup> バイトです。



# 目次

<b>1. Groupmax 環境の構築</b> .....	<b>1</b>
1.1 Groupmax 環境の統一 .....	2
1.1.1 Groupmax 環境を統一する .....	2
1.1.2 Groupmax 環境を統一する作業の例 .....	2
1.2 カスタマイズ情報の作成 .....	4
1.2.1 クライアント製品をインストールする .....	4
1.2.2 インストールした環境でセットアップする .....	6
1.2.3 環境をカスタマイズする .....	7
1.3 ユーザの環境にクライアント製品をインストールする .....	14
1.3.1 リモートインストールに関する注意事項 .....	14
1.4 カスタマイズした環境をユーザに配布する .....	15
1.4.1 カスタマイズ情報の配布機能の概要 .....	15
<b>2. クライアント運用時のノウハウ</b> .....	<b>17</b>
2.1 この章の見方 .....	18
2.2 Groupmax のログイン及びログアウト .....	19
2.2.1 注意事項 .....	19
2.2.2 知っておきたい機能 .....	20
2.2.3 トラブル対処方法 .....	21
2.3 Groupmax クライアント全体について .....	24
2.3.1 注意事項 .....	24
2.3.2 トラブル対処方法 .....	27
2.4 デスクトップ環境を使用するとき .....	30
2.4.1 注意事項 .....	30
2.4.2 知っておきたい機能 .....	31
2.4.3 トラブル対処方法 .....	32
2.5 エージェント機能を使用するとき .....	34
2.5.1 注意事項 .....	34
2.5.2 知っておきたい機能 .....	35
2.5.3 トラブル対処方法 .....	36
2.6 メール及び回覧を使用するとき .....	38
2.6.1 注意事項 .....	40
2.6.2 知っておきたい機能 .....	45
2.6.3 トラブル対処方法 .....	47
2.7 掲示板を使用するとき .....	49
2.7.1 注意事項 .....	49
2.7.2 トラブル対処方法 .....	49
2.8 スケジュールを登録・管理するとき .....	50
2.8.1 注意事項 .....	51
2.8.2 知っておきたい機能 .....	53
2.8.3 トラブル対処方法 .....	54
2.9 共用キャビネット（文書管理）を使用するとき .....	56

## 目次

2.9.1 注意事項	57
2.9.2 知っておきたい機能	61
2.9.3 トラブル対処方法	62
2.10 ワークフロー案件を登録・処理するとき	63
2.10.1 注意事項	63
2.10.2 知っておきたい機能	64
2.11 電子帳票を利用するとき	68
2.11.1 注意事項	70
2.11.2 知っておきたい機能	76
2.11.3 トラブル対処方法	80
2.12 以前のバージョンの 16 ビット版クライアント製品との関連	86
2.12.1 注意事項	86
2.13 OS や他社製品との関連	91
2.13.1 注意事項	92
2.13.2 知っておきたい機能	97
2.13.3 トラブル対処方法	98
<b>3. クライアント環境の保守</b>	<b>101</b>
3.1 障害対策の概要及び詳細説明の記載場所	102
3.2 障害報告時に併せて連絡していただきたい項目	105
3.3 共通して採取する障害情報	107
3.3.1 障害情報採取の設定ツールでの障害情報採取	107
3.3.2 レジストリキーの値の変更による障害情報採取	109
3.4 機能別に採取する障害情報	113
3.4.1 統合セットアップで障害が発生した場合の情報採取	113
3.4.2 メール機能で障害が発生した場合の情報採取	113
3.4.3 エージェント機能で障害が発生した場合の情報採取	115
3.4.4 スケジュール管理機能で障害が発生した場合の情報採取	119
3.4.5 電子帳票機能で障害が発生した場合の情報採取	119
3.4.6 共用キャビネットで障害が発生した場合の情報採取	126
3.4.7 ワークフロー案件処理機能で障害が発生した場合の情報採取	127
3.4.8 Groupmax Process Manager のトレース情報の採取	128
3.5 レジストリキーの設定方法	131
3.5.1 レジストリキーの値を変更する方法	131
3.5.2 レジストリキーに値の項目を追加して値を設定する方法	131
3.5.3 レジストリキーを追加・作成して値を設定する方法	132
<b>付録</b>	<b>133</b>
付録 A メニューのカスタマイズ	134
付録 A.1 メニューのカスタマイズ方法	134
付録 A.2 メニュー項目一覧	135
<b>索引</b>	<b>149</b>

# 目次

---

図 1-1 Groupmax 環境を統一するための作業例 .....	3
図 3-1 [ 障害情報採取の設定 ] ウィンドウ .....	108

# 表目次

表 1-1 各作業環境の特徴	10
表 2-1 第 2 章に記載している Groupmax 使用時の各場面と記載場所	18
表 2-2 記載項目と記載場所 (Groupmax のログイン及びログアウト)	19
表 2-3 記載項目と記載場所 (Groupmax クライアント全体について)	24
表 2-4 記載項目と記載場所 (デスクトップ環境を使用するとき)	30
表 2-5 使用環境と環境ファイル	31
表 2-6 記載項目と記載場所 (エージェント機能を使用するとき)	34
表 2-7 記載項目と記載場所 (メール及び回覧を使用するとき)	38
表 2-8 記載項目と記載場所 (掲示板を使用するとき)	49
表 2-9 記載項目と記載場所 (スケジュールを登録・管理するとき)	50
表 2-10 記載項目と記載場所 (共用キャビネット (文書管理) を使用するとき)	56
表 2-11 サンプルの種類と画面サイズ	62
表 2-12 記載項目と記載場所 (ワークフロー案件を登録・処理するとき)	63
表 2-13 レジストリに設定できるデータの名前とデフォルトの表示文字列	64
表 2-14 記載項目と記載場所 (電子帳票を利用するとき)	68
表 2-15 値が NULL やスペースの場合に外部データベースに書き込まれる値	72
表 2-16 Form の伝票上の属性と Document Manager で返される値	75
表 2-17 終了時の自動コミットの選択に対応するデータ更新	78
表 2-18 記載項目と記載場所 (Groupmax 16 ビット版クライアント製品との関連)	86
表 2-19 記載項目と記載場所 (OS や他社製品との関連)	91
表 2-20 Document Manager が提供しているサンプルマクロ	97
表 2-21 Mail が提供しているサンプルマクロ	98
表 3-1 機能ごとの採取する情報とファイル	102
表 3-2 障害情報とその記載場所	103
表 A-1 機能指向環境のメニュー項目に対応するレジストリキー一覧	136
表 A-2 業務指向環境のメニュー項目に対応するレジストリキー一覧	144
表 A-3 仮想オフィス環境のメニュー項目に対応するレジストリキー一覧	146

---

# 1 . Groupmax 環境の構築

---

この章では、Groupmax 環境を構築するときの作業の流れ、注意事項などについて説明しています。

なお、この章では環境構築の作業の流れを中心に説明しています。作業の詳細については、各関連マニュアルを参照してください。

- 
- 1.1 Groupmax 環境の統一
  - 1.2 カスタマイズ情報の作成
  - 1.3 ユーザの環境にクライアント製品をインストールする
  - 1.4 カスタマイズした環境をユーザに配布する

### 1.1 Groupmax 環境の統一

ユーザの作業環境を管理したり、障害などが発生した場合にユーザからの問い合わせに対応しやすくするためには、各ユーザの Groupmax 環境を統一し、管理しやすい環境を構築することをお勧めします。

ここでは、Groupmax 環境を統一する方法について説明します。

#### 1.1.1 Groupmax 環境を統一する

Groupmax 環境を統一する方法としては、次の二つがあります。

ユーザが少数の場合

Groupmax のクライアントの管理者（以降、管理者と呼びます）が 1 台 1 台のパーソナルコンピュータに直接、インストール及び環境をセットアップする。

ユーザが多数の場合

管理者がユーザの環境に対してリモートインストールし、あらかじめ作成しておいた Groupmax の環境情報を配布する。

ユーザが少数であっても、（職場が離れているなどの）職場環境によっては、リモートインストール及び配布による運用をお勧めします。

Groupmax では、リモートインストールをするためのプログラムとして、Remote Installation Server、及び Remote Installation Client を提供しています。

それぞれの機能及び使用方法については、マニュアル「Windows NT Groupmax Remote Installation Server Version 3」及び「Groupmax Remote Installation Client Version 3」を参照してください。また、Integrated Desktop をリモートインストールする場合は、マニュアル「Groupmax Integrated Desktop Version 6 ユーザーズガイド」の Integrated Desktop のリモートインストールについて説明している章も併せて参照してください。

#### 1.1.2 Groupmax 環境を統一する作業の例

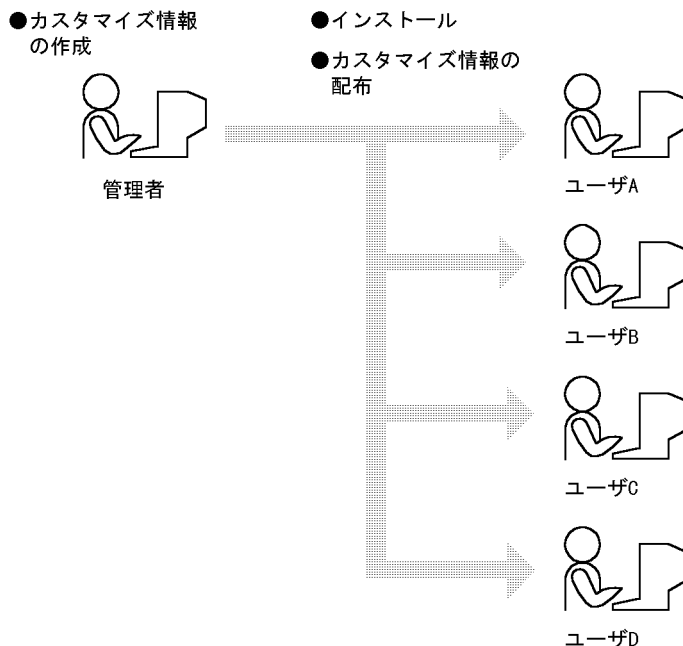
Groupmax 環境を統一する作業例の手順を示します。

1. 管理者の作業環境をカスタマイズして、カスタマイズ情報を作成する
2. ユーザの環境にクライアント製品をインストールする
3. カスタマイズ情報をユーザの環境に配布する

Groupmax 環境を統一するための作業例を、図 1-1 に示します。



図 1-1 Groupmax 環境を統一するための作業例



作業の概要は次のとおりです。

#### 管理者の作業環境をカスタマイズして、カスタマイズ情報を作成する

作業環境の設定を使いやすいように変更します。この変更作業を作業環境のカスタマイズといいます。また、カスタマイズした情報をカスタマイズ情報といいます。カスタマイズ情報を各ユーザに配布することで、ユーザは同じ作業環境で Groupmax のクライアント製品を使用できるようになります。

カスタマイズ情報の作成方法については、「1.2 カスタマイズ情報の作成」を参照してください。

#### ユーザの環境にクライアント製品をインストールする

ユーザの作業環境にクライアント製品をインストールします。インストールの方法には、各ユーザのパーソナルコンピュータに直接インストールする方法と、リモートインストーラを使用してインストールする方法があります。各ユーザのパーソナルコンピュータに直接インストールするのが困難な場合は、リモートインストーラを使用する方法をお勧めします。

リモートインストールについては、「1.3 ユーザの環境にクライアント製品をインストールする」を参照してください。

#### カスタマイズ情報をユーザに配布する

カスタマイズ情報をユーザに配布します。配布することによって、ユーザが統一した作業環境で作業できるようになります。

カスタマイズ情報の配布については、「1.4 カスタマイズした環境をユーザに配布する」を参照してください。

## 1.2 カスタマイズ情報の作成

ユーザの Groupmax 環境を統一するために、管理者の作業環境をカスタマイズします。このカスタマイズした情報を、カスタマイズ情報といいます。

カスタマイズ情報の作成手順を次に示します。

1. クライアント製品をインストールする
2. クライアント製品をセットアップする
3. クライアント製品の環境をカスタマイズする

作成したカスタマイズ情報は、ユーザに配布します。ユーザへの配布については、「1.4 カスタマイズした環境をユーザに配布する」を参照してください。

### 1.2.1 クライアント製品をインストールする

クライアント製品は、各クライアントセットに付属する CD-ROM からインストールします。クライアント製品の種類については、購入したクライアントセットによって異なります。

#### (1) インストールの概要

御購入のクライアントセットから、Groupmax 統合インストーラを使用してインストールします。

インストールでは、「標準」又は「カスタム」を選択できます。「標準」を選択すると、クライアントセットに含まれる製品がすべてインストールされます。「カスタム」を選択すると、クライアントセットに含まれる製品の中から選択してインストールできます。どちらを選択するかは、業務の内容や、インストール先のハードディスク容量などを考慮して決定してください。

スケジュールクライアントセットには、Integrated Desktop は含まれていません。Integrated Desktop と連携させたい場合は、Integrated Desktop を含むクライアントセットを併せて御購入ください。また、Scheduler Client がインストールされている環境に、Scheduler Client Light を含むクライアントセットをインストールする場合は、インストールで「カスタム」を選択して Scheduler Client Light をインストールの対象から外してください。

インストールの方法の詳細、及び注意事項については、次のマニュアルを参照してください。

- Integrated Desktop を含むクライアントセットのインストール  
マニュアル「Groupmax Integrated Desktop Version 6 ユーザーズガイド」
- スケジュールクライアントセット単独のインストール  
マニュアル「Groupmax Scheduler Version 6 ユーザーズガイド」、又は  
「Groupmax Facilities Manager Version 6 ユーザーズガイド」

#### (2) インストールに関する注意事項

クライアント製品をインストールする場合は、1.2.1(1) で示した各マニュアルを参照してください。ここでは、現在各マニュアルに記述されていない注意事項を説明します。

### バージョンアップしてインストールする場合

同じパーソナルコンピュータに同じクライアント製品のバージョンリビジョンが複数混在しないようにしてください。同じクライアント製品のバージョンリビジョンが複数混在すると、アプリケーションエラーなどが発生する場合があります。なお、Integrated Desktop 及び Directory Client がインストールされている環境で Integrated Desktop だけをバージョンアップした場合、アドレス機能及びメールの宛先指定が使用できなくなります。必ず Directory Client も同時にバージョンアップしてください。

バージョンアップするとき、Integrated Desktop のインストーラに以前の組み込み状況を検知させて、既に組み込まれているクライアントセットでインストールすることもできます。以前のバージョンと組み込み状況を変更しない場合は、この機能を使用することをお勧めします。

### Windows 3.1 から Windows 95 又は Windows 98 にアップデートした環境にインストールする場合

Windows 3.1 から Windows 95 又は Windows 98 にアップデートした環境の場合、クライアント製品のインストール中、又はプログラムの動作中に不正なページフォルトが発生して、異常終了する場合があります。この場合は、Windows がインストールされているディレクトリにある SYSTEM.INI ファイルの [ 386Enh ] セクションに次の記述があれば削除してください。

- device=vrasd.386
- device=vfocusd.386

### Document Manager Client , 又は Workflow Client をインストールする場合

ワークフロークライアントセット、又は文書管理クライアントセットを御購入の場合で、「カスタム」を選択して、Document Manager Client , Workflow Client をインストールする場合は、Address Client も併せてインストールしてください。

### Scheduler , 又は Facilities Manager をインストールする場合

Windows NT , Windows 2000 又は Windows XP を使用している場合で、Scheduler 又は Facilities Manager をインストールする場合、一般ユーザでの統合セットアップはできません。統合セットアップは Administrator 権限のユーザ ID で Windows NT , Windows 2000 又は Windows XP にログオンしてから実行してください。

### Form をインストールする場合

Form Client の「カスタム」を選択してインストールする場合は、既に組み込まれている Form Client をアンインストールの後、インストールしてください。また、アンインストールするときは、インストールディレクトリにインストールされているほかの Groupmax 製品を削除しないようにしてください。

Form Client-Design をインストールした後で、異なるバージョンリビジョン ( 特例も含む ) の Form Client をインストールしないでください。インストール

## 1 . Groupmax 環境の構築

するとアプリケーションエラーなどが発生する場合があります。

### PC-9800 シリーズへインストールする場合

PC-9800 シリーズでクライアント製品を御使用になりたい場合は、画面サイズが、640 × 480 ドット以上表示できることを確認の上、インストールしてください。

## 1.2.2 インストールした環境でセットアップする

インストールした環境をセットアップし、ユーザに配布するテンプレートとなる情報のセットアップ部分を作成します。

ここでは、セットアップの概要と、セットアップ時の注意事項を説明します。

### (1) セットアップの概要

Integrated Desktop のメール機能、掲示板機能、共用キャビネット（文書管理）機能、ワークフロー案件処理機能、及びエージェント機能と、Scheduler（スケジュール管理）、Facilities Manager（施設予約）をインストールした場合は、一括してセットアップ（統合セットアップ）ができます。

スケジュールクライアントセットだけをインストールして、Scheduler、又は Facilities Manager を単独で使用する場合は、それぞれセットアップが必要です。

セットアップの詳細、セットアップの手順、注意事項については、次に示すマニュアル又はオンラインヘルプを参照してください。

- Integrated Desktop の統合セットアップ  
マニュアル「Groupmax Integrated Desktop Version 6 ユーザーズガイド」及び統合セットアップのオンラインヘルプの Groupmax の統合セットアップについて説明している箇所
- Scheduler 単独のセットアップ  
マニュアル「Groupmax Scheduler Version 6 ユーザーズガイド」
- Facilities Manager 単独のセットアップ  
マニュアル「Groupmax Facilities Manager Version 6 ユーザーズガイド」

### (2) セットアップに関する注意事項

環境をセットアップする場合は、1.2.2(1) で示した各マニュアル及びオンラインヘルプを参照してください。ここでは、現在各マニュアルに記述されていない注意事項を説明します。

#### 統合セットアップの権限について

Windows NT、Windows 2000 又は Windows XP を使用している場合で、Scheduler 又は Facilities Manager をインストールした場合、一般ユーザでの統合セットアップはできません。統合セットアップは Administrator 権限のユーザ ID で Windows NT、Windows 2000 又は Windows XP にログオンしてから実行してください。

#### 統合セットアップで Groupmax 設定プロパティの項目を設定する場合

統合セットアップで Groupmax 設定プロパティの項目を設定する場合、運用環境に応じて、設定してください。

運用するクライアント製品にかかわらず、必ず Groupmax Address Server に対する設定をしてください。Groupmax Address Server に対する設定は、[ サーバ ] タブで指定します。

運用するすべてのクライアント製品のポート番号を設定してください。ポート番号は、[ サーバ ] タブで設定します。

Integrated Desktop の一覧画面で日本語名を表示させたい場合は、[ 表示 ] タブのユーザ名称で「フルネーム」表示を選択してください。

Groupmax のログインでニックネームを使用してログインする運用にしたい場合は、[ ログイン ] タブで、「ログイン名称の種別」の項目にニックネームを選択してください。

エンドユーザの運用として、常時 Groupmax を使用し、またパーソナルコンピュータのリソースにある程度余裕がある場合は、[ 起動 ] タブの「起動モジュール」をスタートアップに登録することで、Integrated Desktop の起動性能を向上させることができます。ただし、この登録をすると、Groupmax にログインしていなくても、パーソナルコンピュータのリソースを消費します。運用するユーザの環境に応じて、登録してください。また、Windows NT、Windows 2000 又は Windows XP の場合、Administrator 権限でログオンして作業してください。

[ Desktop 環境 ] タブで「個人フォルダ用のデフォルトパス」をネットワーク上のフォルダに設定しないでください。設定すると、Groupmax クライアントの動作が不安定になる場合があります。

### 統合セットアップでユーザを削除する場合

統合セットアップでユーザを削除する場合、文書管理（共用キャビネット）機能で、削除するユーザの作業中文書がないことを確認してください。

## 1.2.3 環境をカスタマイズする

ユーザがすぐに作業できるように、環境の設定を変更できます。この設定の変更をカスタマイズといいます。

Integrated Desktop にはカスタマイズ情報を配布する機能があります。ここではこの機能を利用して配布できるカスタマイズ情報の概要と、カスタマイズ時の注意事項を説明します。

### (1) カスタマイズの概要

設定を変更して配布する情報（カスタマイズ情報）には、例えば次のようなものがあります。

統合セットアップで設定する IP アドレスやポート番号など、サーバとの接続に必要な情報

ウィンドウのサイズやアイコンの表示方法など、表示に関係する情報

ツールバーのチェック状態やオプションの設定状態など、各項目の設定状態に

## 1 . Groupmax 環境の構築

### 関する情報

これらの情報を設定して配布することによって、各ユーザが同じ環境で作業することができるようになります。

カスタマイズの方法、カスタマイズ時の注意事項、及び配布できるカスタマイズについての詳細は、マニュアル「Groupmax Integrated Desktop Version 6 ユーザーズガイド」の作業環境のカスタマイズについて説明している章、及び配布対象となるカスタマイズ情報について説明している章を参照してください。

### (2) カスタマイズに関する注意事項

クライアント製品をカスタマイズする場合は、1.2.3(1)で示したマニュアルを参照してください。ここでは、現在各マニュアルに記述されていなかったり、記述されていても戸惑いやすい注意事項を説明します。

### Version2.0 または Version3 から Version 6 にバージョンアップした場合

Version2.0 から Version 6 にバージョンアップした場合、ツールバーのカスタマイズ情報はデフォルト値に戻ります（ただし、Scheduler のツールバーは前回の設定を引き継ぎます）。Version2.0 でツールバーのカスタマイズをしていた場合は、Version 6 でカスタマイズし直してください。

Integrated Desktop Version2.0 で仮想オフィス環境を使用していた場合は、Integrated Desktop Version 6 を上書きインストールしても、仮想オフィス環境のビットマップ及びメタファの設定内容は変更されません。なお、「仮想オフィス環境を使用していた」とは、仮想オフィス環境を一回でも表示したことがある場合を指します。仮想オフィス環境をカスタマイズしないで、デフォルトの状態で使用していた場合も含まれます。

Integrated Desktop Version 6 のデフォルトの設定状態で仮想オフィス環境を利用する場合は、次のどちらかの方法で Integrated Desktop Version2.0 の仮想オフィス環境の情報を格納したファイルを削除してください。

ツールを利用するか又はエクスプローラのファイルを直接操作して、Integrated Desktop Version2.0 の仮想オフィス環境に関連するファイルを削除する

カスタマイズ情報の配布機能を利用して、Groupmax Integrated Desktop Version 6 の仮想オフィス環境を設定する

それぞれの操作方法の詳細は、マニュアル「Groupmax Integrated Desktop Version 6 ユーザーズガイド」を参照してください。

### 表示条件を設定する場合

接続するサーバの機能によっては、INBOX や送信ログを表示すると、エラーが表示される場合があります。表示条件は、接続するサーバの機能に合わせて設定してください。

例えば、閲覧機能を運用しないサーバに接続する場合は、INBOX と送信ログで、それぞれ次のカスタマイズをしてください。

1. [表示] から [表示条件の設定] を選択する

[表示条件の設定] ダイアログボックスが表示されます。次のようにカスタマイ

ズしてください。

接続：「かつ」、項目：「種別」、値：「Mail ( 回覧)」、判定：「以外」

2. [ OK ] を選択する

### **Groupmax WWW や以前のバージョンの 16 ビット版クライアントと混在する環境で運用する場合**

Groupmax WWW や以前のバージョンの 16 ビット版クライアントは、メールの本文に書式情報を付けることはできません。このため、Integrated Desktop から発信した書式付きメールを Groupmax WWW や以前のバージョンの 16 ビット版クライアントで受信すると、書式情報が添付ファイルとして受信されます。書式情報が不要な場合は、Integrated Desktop で次のカスタマイズをしてください。

1. [ ツール ] の [ Groupmax の設定 ] から [ Mail の設定 ] を選択する  
[ オプション ] ダイアログボックスが表示されます。
2. [ 選択機能 ] タブの本文モードを「プレーンテキストモード」に設定する
3. [ OK ] を選択する

注 プレーンテキストモードを選択した場合は、メールの本文でのフォントの指定や、行揃えなどの書式指定ができません。

### **接続システムを選択する場合**

Integrated Desktop の [ ツール ] - [ オプション ] の画面の [ 接続システム ] タブで、機能を選択してください。例えば、接続する Groupmax Mail Server に掲示板がない場合は、接続システムで掲示板は選択しないでください。

サーバとして存在しない機能を選択すると、次のメッセージが表示されます。

「 × × × ( クライアント製品名 ) の一覧取得に失敗しました。サーバに接続できません」

## **(3) カスタマイズ時に知っておきたい情報**

作業環境のカスタマイズ時に知っておきたい情報について説明します。

### **Integrated Desktop の各作業環境の特徴**

Integrated Desktop の各作業環境は、表 1-1 に示すような特徴を持っています。作業環境は、使用形態やエンドユーザの状況を検討して選択してください。

## 1 . Groupmax 環境の構築


表 1-1 各作業環境の特徴

作業環境名	長所	短所
機能指向環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>パーソナルコンピュータの操作に慣れているユーザに使いやすい</li> <li>機能がツリー構造で表示されるため、各機能を統合して管理できる</li> <li>インストール及び統合セットアップ後にすぐ活用できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カスタマイズできる範囲が狭い</li> <li>一つのリストビューを各機能で共用しているため、複数の機能を同時に使用できない</li> </ul>
業務指向環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務パネルなどでパーソナルコンピュータの操作に慣れているユーザやパネル型のランチャなどを利用しているユーザに使いやすい</li> <li>業務に合わせた環境を構築できる</li> <li>各機能ごとにリストビューを別ウィンドウとして表示させるため、複数の機能を同時に使用できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務を運用できる形態にするには、アイコンの登録など各種設定が必要</li> <li>機能ごとにウィンドウを表示させるため、タスクバーのアイコン数が多くなる</li> <li>エージェントの生成ができない（機能指向環境での生成が必要）</li> </ul>
仮想オフィス環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>パーソナルコンピュータなどになじみの少ないユーザでも分かりやすい</li> <li>グループウェアを初めて使うユーザでも使いやすい</li> <li>インストール後にすぐ使用でき、カスタマイズもできる</li> <li>各機能ごとにリストビューを別ウィンドウとして表示させるため、複数の機能を同時に使用できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オフィス環境を表現したイラストの範囲内ではカスタマイズできないため、業務指向環境よりカスタマイズできる範囲が狭い</li> <li>機能ごとにウィンドウを表示させるため、タスクバーのアイコン数が多くなる</li> <li>エージェントの生成ができない（機能指向環境での生成が必要）</li> </ul>

### データを効率よくバックアップしたい場合

Integrated Desktop の個人フォルダにはローカルフォルダや受信控えなどのデータが格納されます。データを効率よくバックアップしたい場合は、プログラムとは別のディスクに個人フォルダを作成するようにしてください。

### 表示されている項目を頻繁に最新情報に更新する場合


INBOX が表示されている状態で最新の着信状態を確認する場合、[ 表示 ] - [ 最新の情報に更新 ] を選択する必要があります。メールを頻繁に受信するユーザなどは、ツールバーに [ 最新情報 ] ボタン (  ) を表示させて、最新情報に更新するときにご利用すると便利です。

### VGA などの小さな画面でメッセージエディタの本文を多く表示する場合

メッセージエディタでは、メール属性などを画面上部に表示させています。そのため、VGA などを使った表示領域の小さいパーソナルコンピュータの場合、一度に表示できるメール本文が少なくなります。

必要に応じて表示できる本文の量を変更したい場合は、メッセージエディタの



[メール属性表示] ボタン (  ) で、「主題」、「宛先」、「属性」、及び「添付」の表示・非表示を切り替えてください。なお、メッセージエディタに [メール属性表示] ボタンが表示されていない場合は、[表示] - [ツールバーの設定] を選択し、[ツールバーの変更] ダイアログボックスで設定してください。

### 業務指向画面に任意のドライブをアイコンとして登録する場合

業務指向画面では、ワークスペース上にディスクドライブのアイコンを登録して、パーソナルコンピュータの基本操作環境として使用できます。

その場合、次に示す方法で登録してください。

1. アイコンとして登録するディスクドライブのショートカットを作成する
2. Integrated Desktop の業務指向画面で [ファイル] - [登録] を選択する
3. [アイコンの登録] ダイアログボックスで「アプリケーション」を選択する
4. 作成したショートカットのファイル名を直接入力する
5. [登録] ボタンをクリックする

なお、アイコンは、エクスプローラや Windows のデスクトップ画面上から、ファイルやショートカットなどをワークスペースにドラッグ & ドロップして登録することもできます。また、Internet Explorer 4.0 以降がインストールされている場合は、WWW ブラウザのインターネットショートカットもワークスペースにドラッグ & ドロップして登録できます。

### エンドユーザが Integrated Desktop の環境設定を容易に変更できないようにしたい場合

Integrated Desktop の統合セットアップの設定内容には、ポート番号などエンドユーザに誤って変更してもらいたくない項目があります。エンドユーザが設定内容を容易に変更できないようにしたい場合は、[スタート] メニューから「Groupmax 統合セットアップ」を削除してください。

### 常に暗号化メールを使用する場合

メール送信時、メールを暗号化したい場合は、メッセージエディタを起動する前に Keymate/Multi をあらかじめ起動させておく必要があります。暗号化メールを頻繁に使用する場合、Integrated Desktop の起動とともに起動させるアプリケーションとして Keymate/Multi を登録しておけば、操作を簡略化できます。

### 複数のユーザで 1 台のパーソナルコンピュータを使用する場合

複数のユーザで 1 台のパーソナルコンピュータを使用する場合、ローカル宛先台帳と署名ファイルをユーザごとに用意しておくとう便利です。ユーザごとに各ファイルを用意する場合は、Groupmax 統合セットアップの [Groupmax 設定のプロパティ] ダイアログボックスで設定してください。ローカル宛先台帳は [Address] タブで、署名ファイルは [Mail] タブで、設定できます。

### メールサイズを確認したい場合

メールボックスにたまったメールから、サイズの大きい不要なメールを削除したい場合などは、INBOX のリストビューの表示項目に、メールファイルのサイズを表示する項目を設定してください。表示項目は、[表示] - [表示項目の設定] を選択すると表示される、[表示項目の設定] ダイアログボックスで設定できます。

### 到着日時表示の 2000 年対策をする場合

INBOX のリストビューに表示される到着日時の年表示は、初期形式では西暦の下 2 桁を表示するようになっていました。そのため、西暦 2000 年では年表示が「00」になります。年表示を 4 桁表示にしたい場合は、Groupmax 統合セットアップの [ Groupmax 設定のプロパティ ] ダイアログボックスで [ 表示 ] タブを選択して、「年」の表示形式を 4 桁にしてください。

### 低速回線環境での送受信を速くしたい場合

メールの本文をプレーンテキストで作成すれば、速く送受信できます。また、記事も本文をプレーンテキストで作成すれば、速く掲示したり参照したりできます。

サーバとクライアントを接続するネットワークが、低速の専用線や低速のモデムなどを利用したダイヤルアップ接続の場合、サーバとクライアントとのデータ転送には時間がかかります。このため、LAN 環境に比べて、クライアントの応答に時間がかかったり、専用線の回線使用率が増大したりします。

応答時間の短縮や回線使用率の軽減をしたい場合は、メールの本文をリッチテキストでなく、プレーンテキストで作成してください。プレーンテキストモードは、次に示す方法で設定できます。

1. Integrated Desktop 主画面の [ ツール ] - [ Groupmax の設定 ] - [ Mail の設定 ... ] を選択する
2. [ オプション ] ダイアログボックスの [ 選択機能 ] タブを選択する
3. 「本文モード」でプレーンテキストをチェックする

ただし、プレーンテキストを使用した場合、フォント指定などの書式指定の変更などができなくなります。

### 共用キャビネットの文書を更新することが多い場合

頻繁に共用キャビネットの文書を更新する場合、文書を常に編集モードで開くようにしておくとう便利です。

共用キャビネットの文書のアクセス形式には、参照モードと編集モードがあります。初期設定では参照モードになっていますので、編集モードに変更してください。編集モードは、次に示す方法で設定できます。

1. Integrated Desktop 主画面の [ ツール ] - [ Groupmax の設定 ] - [ Document Manager の設定 ... ] を選択する
2. [ Document Manager の設定 ] ダイアログボックスで [ 文書の取り出し ] タブを選択する
3. 「サーバから取り出す時のモード」で編集をチェックする

### イベントが発生したときに音を鳴らしたい場合

イベントが発生したときに音を鳴らしたい場合、エージェント機能を使うと、イベントが発生したときにアプリケーションを起動し、音声ファイルを演奏させることができます。

音声ファイルを実行するアプリケーションの起動時の標準モードが自動演奏ではない場合は、起動時に自動演奏されるように設定してください。

アプリケーションは、エージェント定義ウィンドウの「エージェント動作」の部分にある [ 詳細 ] ボタンをクリックして、[ 動作 - アプリケーション指定 ] ダイアログボックスで登録できます。次に [ 動作 - アプリケーション指定 ] ダイアログボッ

クスでのコマンドラインの指定例を示します。

(例) 自動演奏を起動オペランドで指定するアプリケーションの場合

プログラム, オペランド, 及びファイル

- mplay32.exe (アプリケーションプログラム)
- /play (ファイルを開いた時に演奏を開始するオペランド)
- /close (演奏終了時にファイルを閉じるオペランド)
- mail.wav (音声ファイル)

コマンドライン

「アプリケーションをインストールしたディレクトリ ¥mplay32.exe /play /close mail.wav」

なお、この機能を使用するとき、Windows システムでアプリケーション起動時に音を鳴らすように設定している場合は、設定を解除してください。

### ローカルフォルダへのメール保存時の名前の付与方法を変更したい場合

受信したメールを Integrated Desktop のローカルフォルダに格納する場合、保存時の名前はメールの主題や受信日時等により自動的に付与されます。保存時の名前について、主題や受信日時等の適用順序の入替や、転送や返信時に自動付加された「Fw」や「Re」を含めた名前の付与を、設定する事ができます。名前の付与方法の変更は、次に示す方法で設定できます。

1. Integrated Desktop 主画面の [ ツール ] - [ Groupmax の設定 ] - [ Mail の設定 ... ] を選択する
2. [ オプション ] ダイアログボックスで [ ファイル ] タブを選択する
3. 「保存時のファイル名設定」でファイル名の付与の方法を設定する

---

## 1.3 ユーザの環境にクライアント製品をインストールする

ユーザの環境にクライアント製品をインストールします。

ユーザのパーソナルコンピュータから直接インストールすることが困難な場合は、リモートインストールによるインストールをお勧めします。

リモートインストールの方法については、マニュアル「Windows NT Groupmax Remote Installation Server Version 3」、及び「Groupmax Remote Installation Client Version 3」を参照してください。また、Integrated Desktop をリモートインストールする場合は、マニュアル「Groupmax Integrated Desktop Version 6 ユーザーズガイド」の Integrated Desktop のリモートインストールについて説明している章も併せて参照してください。

### 1.3.1 リモートインストールに関する注意事項

クライアント製品をリモートインストールする場合は、この節の最初で示したマニュアルを参照してください。ここでは、現在各マニュアルに記述されていない注意事項を説明します。

#### 更新インストールと新規インストールについて

クライアント製品をリモートインストールする場合には、インストール先の環境に Groupmax が既にインストールされているかどうかを確認してください。

Groupmax がインストールされている環境とされていない環境が混在している場合は、リモートインストールする前に、別グループに分けてください。既にインストールされているグループは、「更新インストール」を指定してインストールしてください。また、インストールされていないグループは、「新規インストール」を指定してインストールしてください。Groupmax が既にインストールされている環境に、「新規インストール」でリモートインストールを行うと、クライアント製品が正しくインストールされない場合があるので注意してください。

## 1.4 カスタマイズした環境をユーザに配布する

カスタマイズした作業環境を Integrated Desktop のカスタマイズ情報の配布機能を使用してユーザに配布できます。ここでは、配布の概要について説明します。

### 1.4.1 カスタマイズ情報の配布機能の概要

カスタマイズ情報の配布機能とは、カスタマイズした作業環境を、ユーザのパーソナルコンピュータに配布するための機能です。この機能を利用すれば、ユーザの環境を一つ一つカスタマイズする手間が省けます。

Integrated Desktop では、カスタマイズ情報の配布機能として、カスタマイズ情報マスタ作成ツールをサポートしています。カスタマイズ情報マスタ作成ツールを使用すると、配布用のデータを作成できます。

カスタマイズ情報マスタ作成ツールを使用して作成したデータを配布する方法には次の三つがあります。

- フロッピーディスクを利用する

- 共用のファイルサーバを利用する

- リモートインストーラを利用する

配布方法については、マニュアル「Groupmax Integrated Desktop Version 6 ユーザーズガイド」及び Integrated Desktop のカスタマイズ情報の配布機能のオンラインヘルプのカスタマイズ情報の配布機能について説明している箇所を参照してください。

#### 注意事項

カスタマイズ情報の配布は、すべての Groupmax 製品のインストールが完了してから行ってください。

リモートインストールなどで Groupmax 製品をインストールする際、Groupmax 製品のインストールと同時にカスタマイズ情報を配布をすると、インストールや配布が失敗することがあります。リモートインストールの場合も、インストールとカスタマイズ情報の配布は別に行うことをお勧めします。



---

## 2. クライアント運用時のノウハウ

---

ここでは、Groupmax のクライアント製品運用時の注意事項，知っておきたい機能及びトラブル発生時の対処方法について，それぞれの場面や機能に分けて説明します。

---

- 2.1 この章の見方
- 2.2 Groupmax のログイン及びログアウト
- 2.3 Groupmax クライアント全体について
- 2.4 デスクトップ環境を使用するとき
- 2.5 エージェント機能を使用するとき
- 2.6 メール及び回覧を使用するとき
- 2.7 掲示板を使用するとき
- 2.8 スケジュールを登録・管理するとき
- 2.9 共用キャビネット（文書管理）を使用するとき
- 2.10 ワークフロー案件を登録・処理するとき
- 2.11 電子帳票を利用するとき
- 2.12 以前のバージョンの 16 ビット版クライアント製品との関連
- 2.13 OS や他社製品との関連

## 2.1 この章の見方

この章の内容は、利用者が必要なときに検索しやすいように Groupmax 使用時の場面ごとに説明しています。

この章に記載している Groupmax 使用時の各場面とその記載場所を、表 2-1 に示します。

表 2-1 第 2 章に記載している Groupmax 使用時の各場面と記載場所

記載している場面	説明概要	記載場所 (節番号)
Groupmax のログイン及びログアウト	Groupmax ログイン及びログアウトでの注意事項、知っておきたい機能及びトラブル対処方法を説明しています。	2.2
Groupmax クライアント全体について	Groupmax のクライアント製品全体に共通する注意事項及びトラブル対処方法を説明しています。	2.3
デスクトップ環境を使用するとき	デスクトップ環境 (Integrated Desktop) 使用時の注意事項、知っておきたい機能及びトラブル対処方法を説明しています。	2.4
エージェント機能を使用するとき	エージェント (Agent) を作成したり編集したりするときの注意事項、知っておきたい機能及びトラブル対処方法を説明しています。	2.5
メール及び回覧を使用するとき	メール機能 (Mail 及び Address) 使用時の注意事項、知っておきたい機能及びトラブル対処方法を説明しています。	2.6
掲示板を使用するとき	掲示板 (Mail) 使用時の注意事項及びトラブル対処方法を説明しています。	2.7
スケジュールを登録・管理するとき	スケジュール機能を使用したり、予約するときの注意事項、知っておきたい機能及びトラブル対処方法を説明しています。	2.8
共用キャビネット (文書管理) を使用するとき	共用キャビネット (Document Manager) 使用時の注意事項、知っておきたい機能及びトラブル対処方法を説明しています。	2.9
ワークフロー案件を登録・処理するとき	ワークフロー案件処理機能 (Workflow) 使用時の注意事項及びトラブル対処方法を説明しています。	2.10
電子帳票を利用するとき	Form で作成された電子帳票を利用するときの注意事項、知っておきたい機能及びトラブル対処方法を説明しています。	2.11
以前のバージョンの 16 ビット版クライアント製品との関連	Groupmax の 32 ビット版クライアント製品と、16 ビット版クライアント製品を使用するときの注意事項、及びトラブル対処方法を説明しています。	2.12
OS や他社製品との関連	Groupmax クライアント製品とその OS である Windows 95, Windows 98, Windows NT, Windows2000, Windows XP 及び Windows Me との関連についての注意事項を説明しています。また、Groupmax クライアント製品と他社の製品とを連動させるときの注意事項を説明しています。	2.13

場面ごとの記載事項の詳細は、各節の最初を参照してください。



## 2.2 Groupmax のログイン及びログアウト

ここでは、Groupmax のログイン、ログアウト及び Groupmax の起動と終了について、注意事項、知っておきたい機能及びトラブル対処方法を説明します。

記載している項目と記載場所を、表 2-2 に示します。

表 2-2 記載項目と記載場所 (Groupmax のログイン及びログアウト)

種別	記載項目	記載場所
注意事項	パスワード及びユーザ ID は Groupmax クライアント製品間で統一する	2.2.1(1)
	「2 回目以降は [ Groupmax ログイン ] ダイアログを表示しない」を設定する場合の注意事項	2.2.1(2)
知っておきたい機能	Integrated Desktop 終了時に Groupmax 全体を終了させるには	2.2.2(1)
トラブル対処方法	ログイン時に「プログラム開始エラー」が表示されたとき	2.2.3(1)
	回線切断時の再ログインで「Mail (個人) システムとの接続に失敗しました」というメッセージが表示されたとき	2.2.3(2)
	「メールサーバのバックアップ中です」というメッセージが表示されたとき	2.2.3(3)
	「掲示板フォルダが作成できません」又は「同一ユーザで既にログインされています」というメッセージが表示されたとき	2.2.3(4)
	Groupmax 終了時に「×××が処理中です。終了処理を中断します ...」というメッセージが表示されたとき	2.2.3(5)
	ログイン時に Groupmax モバイル以外の自動ダイヤルが実行されるとき	2.2.3(6)

### 2.2.1 注意事項

#### (1) パスワード及びユーザ ID は Groupmax クライアント製品間で統一する

##### 概要

Groupmax の各クライアント製品を連動させて使用する場合は、各クライアント製品に登録するユーザ ID とパスワードを統一してください。

##### 詳細説明

サーバ側で Groupmax Address Server を使用している場合は、Groupmax の各クライアント製品のユーザ ID とパスワードは統一されます。

Groupmax Address Server を使用していない場合は、利用者が各クライアント製品に対して同じユーザ ID とパスワードを登録しなければなりません。

また、パスワードを変更する場合も、各クライアント製品のパスワードを同時に変更してください。

## 2. クライアント運用時のノウハウ

**注意** Groupmax のクライアント製品の中には、ユーザ ID の先頭に「# (シャープ)」を設定できるものがありますが、Scheduler 及び Facilities Manager ではユーザ ID の先頭に「#」は設定できません。Scheduler や Facilities Manager を他のクライアント製品と連動して使用する場合は、ユーザ ID の先頭に「#」を設定しないでください。

### (2) 「2 回目以降は [ Groupmax ログイン ] ダイアログを表示しない」を設定する場合の注意事項

[ Groupmax 統合セットアップ ] - [ Groupmax 設定のプロパティ ] ダイアログボックスの [ ログイン ] タブの「[ Groupmax ログイン ] ダイアログの表示」で「2 回目以降は [ Groupmax ログイン ] ダイアログを表示しない」を設定する場合、セキュリティを確保するため、次のような運用をお勧めします。

Windows NT, Windows 2000 又は Windows XP を使用する

Groupmax のパスワードと、Windows NT, Windows 2000 又は Windows XP へのログオンパスワードで異なる文字列を使用する

1 台のパーソナルコンピュータを一人が占有する

また、Keymate/Multi がインストールされている場合、パーソナルコンピュータに保存するパスワードが自動的に暗号化されます。

Windows 95, Windows 98 又は Windows Me をお使いの場合には、セキュリティが低くなるので、設定するのはお勧めしません。また、1 ユーザで、複数のユーザ ID とパスワードの保存はできません。

## 2.2.2 知っておきたい機能

### (1) Integrated Desktop 終了時に Groupmax 全体を終了させるには

#### 概要

Integrated Desktop の主画面のシステムメニューから [ 閉じる ] を選択したときに、Groupmax 全体を終了させるように設定できます。


#### 詳細説明

レジストリの設定内容は次のとおりです。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥Gmax
Desktop Client¥0210¥
TreeList¥CloseButton= ( Groupmax/Desktop ) //機能指向環境
Business¥CloseButton= ( Groupmax/Desktop ) //業務指向環境
Virtual¥CloseButton= ( Groupmax/Desktop ) //仮想オフィス環境
「CloseButton」キーの値に「Groupmax」を設定すると [ 閉じる ] の操作で
```

Groupmax 全体を終了できます。なお、「Desktop」を設定すると Integrated Desktop だけが終了します。

「CloseButton」キーの値に「Groupmax」を設定した場合、Integrated Desktop 終了時に常に Process Manager も終了するようになります。ただし、ユーザによっては、操作状況に合わせて、Groupmax 全体を終了させたり、Integrated Desktop だけを終了させたりできるようにしたい場合も考えられま

す。そのような場合は、上記のようにレジストリを設定しないで、Integrated Desktop のツールバーに [ Gmax 終了 ] ボタン (  ) を表示させておいてください。そして、Groupmax 全体を終了させたいときは、[ Gmax 終了 ] ボタンをクリックし、Integrated Desktop だけを終了させたいときは、システムメニューから [ 閉じる ] を選択するようにしてください。Groupmax 全体の終了は、Scheduler にてスケジュール登録画面や予約画面を表示した状態で行なうことはできません。終了操作は、これらの画面を閉じた後に行なう必要が有ります。

### 2.2.3 トラブル対処方法

#### (1) ログイン時に「プログラム開始エラー」が表示されたとき

##### 現象

Groupmax にログインしたとき「プログラム開始エラー」となり、Groupmax が起動できないことがあります。

##### 要因と対処方法

Groupmax を起動するドライブの直下に autoexec.bat ファイルがない場合に、このような現象が発生します。

また、インストール時、autoexec.bat ファイルを書き換えるかどうかを選択するときに「書き換えない」を選択したため、autoexec.bat ファイルにパスが追加されていない可能性があります。このような場合は autoexec.bat ファイルに次のパスを追加してください。

「Groupmax をインストールしたディレクトリ ¥common¥program」

Groupmax を使用する場合は、起動ドライブにある autoexec.bat ファイルを削除したり、移動したりしないでください。

#### (2) 回線切断時の再ログインで「Mail (個人) システムとの接続に失敗しました」というメッセージが表示されたとき

##### 現象

ネットワーク、ダイヤルアップなどが切断され、再ログインをするときに、次のようなメッセージが表示され、ログインできないことがあります。

「Mail (個人) システムとの接続に失敗しました。同一ユーザでログインされています」

##### 要因と対処方法

回線の接続によってログインできない現象は、別のパーソナルコンピュータから接続したり、サーバ側の DHCP システムなどで IP アドレスが動的に変更されたりする環境で発生します。また、クライアントのネットワーク環境、及び機器の属性や設定に依存することもあります。

このような現象が発生したら、メッセージ表示後、TCP/IP の通信路開放時間 (システムによって異なるがおおよそ 10 分程度) を目安にしばらく時間を置いてから再ログインしてください。

## 2. クライアント運用時のノウハウ

**注意** 同一 IP アドレスからのログイン要求も、最初はこのメッセージが出力されません。数回試してもログインできない場合は、この現象になります。

### (3) 「メールサーバのバックアップ中です」というメッセージが表示されたとき

#### 現象

ユーザの接続しているメールサーバの稼働中バックアップ実行中にメールの送信や削除をしようとする時、次に示すメッセージが表示され、エラーとなります。

「メールサーバのバックアップ中です。しばらくしてから再度実行してください。」

#### 要因と対処方法

サーバ側で稼働中バックアップが実行中の場合、メールボックスへの更新が発生しないように、メールボックスが一時的に閉塞されます。しばらく時間をおいてから再度実行してください。

### (4) 「掲示板フォルダが作成できません」又は「同一ユーザで既にログインされています」というメッセージが表示されたとき

#### 現象

ログインしたままで電源が切断されるなど、Windows が正常に終了しなかった場合、再起動すると次のどちらかのメッセージが表示されることがあります。

- 「掲示板フォルダが作成できません。同一ユーザが既にログインしています。」
- 「同一ユーザで既にログインされています。」

#### 要因と対処方法

対処方法はクライアント製品によって異なります。

- メール機能を使用している場合  
10分ほど経過してから再ログインしてください。
- 共用キャビネット（文書管理）を使用している場合  
10分ほど経過してから再ログインしてください。
- ワークフロー機能を使用している場合  
クライアントの IP アドレスが、前回ログインしたクライアントと異なる場合（PPP 接続の場合など）が考えられます。以下の方法で現象が発生しなくなります。
  - (1) システム管理者に連絡して、ワークフローサーバの環境設定の「再ログイン (re-login)」を「yes」に変更し、ワークフローのサーバを再起動する。
  - (2) ワークフローサーバの環境設定の「再ログイン (re-login)」を「client」に変更し、ワークフローのサーバを再起動する。対象クライアントのログイン種別を「後着ログイン」に変更する。（クライアント側のログイン種別は Workflow Client 環境設定ツールを使用して各クライアント単位で設定可能です。）それ以外の場合や環境設定を変更できない場合は、システム管理者に連絡してワークフローのサーバを再起動してください。

**(5) Groupmax 終了時に「×××が処理中です。終了処理を中断します...」というメッセージが表示されたとき**

現象

Integrated Desktop の起動直後、共用キャビネット使用直後などに Groupmax を終了すると「×××が処理中です。終了処理を中断します。×××の終了を確認して再度終了してください」というエラーメッセージが表示されることがあります。

要因と対処方法

サーバの回線速度が遅い環境で、このような現象が発生することがあります。この現象は、Groupmax を終了したときのプロセス監視時間をレジストリで変更することで対処できます。

レジストリの設定内容は次のとおりです。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\HITACHI\Gmax
```

```
Client\0210\ProcessManager\ShutdownTimeout = xx
```

「ShutdownTimeout」キーは DWORD 値属性で作成し、xx には秒数を指定します。レジストリ未設定時は 60 秒になっているので、60 秒を超える値を設定してください。

**(6) ログイン時に Groupmax モバイル以外の自動ダイヤルが実行されるとき**

現象

Integrated Desktop を起動すると、起動したパーソナルコンピュータが LAN 接続されていてもダイヤルアップ接続が実行される場合があります。

要因と対処方法

Windows 95 システムのインターネット接続として、[インターネットのプロパティ] ダイアログボックスで必要時にインターネットに接続するように設定している場合、TCP/IP の通信が発生した時点で、システムは自動的にダイヤルが開始される場合があります。[インターネットのプロパティ] ダイアログボックスで設定を解除しておいてください。

### 2.3 Groupmax クライアント全体について

ここでは、Groupmax クライアント製品全体、又は複数の Groupmax クライアント製品に共通した注意事項及びトラブル対処方法を説明します。  
記載している項目と記載場所を、表 2-3 に示します。

表 2-3 記載項目と記載場所 (Groupmax クライアント全体について)

種別	記載項目	記載場所
注意事項	他製品のインストールが正常にできないときは、Groupmax を終了させ safe モードで実行する	2.3.1(1)
	不要な作業用ファイルは削除する	2.3.1(2)
	不要な処理結果ログファイルは削除する	2.3.1(3)
トラブル対処方法	ネットワークドライブからのインストール中にインストールが中断されたとき	2.3.2(1)
	クライアント製品のインストール又は動作中に異常終了したとき	2.3.2(2)
	誤った日付や時刻が表示されるとき	2.3.2(3)
	クライアントプログラム (Groupmax または他社製品) を使用中に「リソースが不足している」というメッセージが表示されるとき	2.3.2(4)

#### 2.3.1 注意事項

##### (1) 他製品のインストールが正常にできないときは、Groupmax を終了させセルフローディングモードで実行する

###### 概要

Integrated Desktop を使用しているパーソナルコンピュータに、他の Groupmax 製品や他社のアプリケーションをインストールする場合で、インストールが正常にできないときは Groupmax を終了させ、safe モードでインストールしてください。

###### 詳細説明

アプリケーションなどのインストールは、Groupmax (Process Manager) を終了し、Groupmax の常駐化プロセスを解除した後に実行します。  
ただし、Groupmax の常駐化プロセスを解除しても、他に同じようなプロセスが存在することがあるので、インストールが正常にできない場合は safe モード又は同等の状態インストールしてください。

##### (2) 不要な作業用ファイルは削除する

###### 概要

Groupmax のいろいろな機能を操作すると、機能によっては自動的に一時的な作業用ファイルが作成されることがあります。この作業用ファイルは、その操作が終われば不要になります。不要なファイルをそのままにしておくとディスクの容量不足や Groupmax の性能劣化の原因となります。

不要な作業用ファイルは削除してください。

詳細説明1：メール機能を使用したときに作成される作業ファイル

メール機能を使用した場合、テンポラリディレクトリ（インストール先ディレクトリ ¥Mail¥Tmp）に不要な作業用ファイルが残ることがあります。

このような不要な作業用ファイルを削除するには、インストール先ディレクトリ ¥Common¥Program¥GmDelMan.exe をスタートアップに登録して、Windows の起動時にこのプログラムが起動されるような設定にしてください。通常は作業ファイルはメッセージエディタ終了時など、不要になったタイミングで削除されます。しかし、添付ファイルを開いた状態でメッセージエディタを終了したり、メッセージエディタなどを強制終了したりすると、作業ファイルが残ることがあります。

注 ただし、GmDelMan.exe は、Integrated Desktop 起動中には起動しないでください。

詳細説明2：サーバエージェント機能を使用したときに作成される作業ファイル

クライアントでテンプレートを使用してサーバエージェントを生成する場合、Agent Client はファイル転送用フォルダに Groupmax Agent Server から次に示すファイルを自動的にダウンロードします。なお、「ファイル転送用フォルダ（ディレクトリ）」は、インストール先ディレクトリ ¥Agent¥Tmp に設定されています。

- テンプレート定義ファイル
- 定義画面で使用する詳細ダイアログボックスの DLL ファイル

これらのファイルが不要になった場合は、エクスプローラなどを使用して次に示す場所のファイルを削除してください。

- テンプレート定義ファイル  
ファイル転送用フォルダ（ディレクトリ）¥template の下のフォルダ及びファイル
- 詳細ダイアログボックスの DLL ファイル  
ファイル転送用フォルダ（ディレクトリ）¥library の下のフォルダ及びファイル

詳細説明3：機能指向環境又は仮想オフィス環境から、エクスプローラなどへファイルをドラッグ & ドロップしたときに作成される作業用ファイル

この作業用ファイルは、通常、一定時間の経過後に同一ユーザで再度ログインすると自動的に削除されますが、Groupmax を次のように運用している場合は作業用ファイルを意識的に削除する必要があります。

- 1 台のパーソナルコンピュータを複数のユーザで使用している場合  
例えば、出張先などで一時的に Integrated Desktop を使用した場合です。この場合、今後そのユーザでログインされることがないと、一時的に Integrated Desktop を利用したユーザの作業用ファイルがパーソナルコンピュータに残ってしまいます。このような不要なファイルは削除した方がハードディスクの容量を有効に活用できます。
- ネットワーク上にユーザ環境ファイルを一括管理している場合  
例えば、ネットワークの共用ファイルサーバなどにユーザの個人フォルダ

## 2. クライアント運用時のノウハウ

を登録して一括管理している場合です。このような運用の場合、作業用ファイルが発生することを考慮したファイル（ハードディスク容量）管理をする必要があります。

エクスプローラなどへドラッグ & ドロップすると作業用ファイルが作成されるファイルやフォルダを次に示します。

- 機能指向環境の INBOX，受信控え，送信ログ及び OUTBOX のメール
- 機能指向環境の掲示板の記事及び共用キャビネットの文書
- [ 共用キャビネットの検索 ] ウィンドウから検索した文書ファイル
- 分類索引帳エディタに登録されたフォルダなど

これらのファイルやフォルダをドラッグ & ドロップすることによって作成される作業用ファイルのサイズは、ドラッグ & ドロップしたファイルサイズと同じです。

また、作業用ファイルが作成される場所は、システムのテンポラリディレクトリ ¥ ユーザ ID です。

ドラッグ & ドロップで作成される作業用ファイルは、次に示す方法で削除できます。

1. Groupmax 統合セットアップの [ Groupmax 設定のプロパティ ] ダイアログボックスの Desktop 環境タブの [ ユーザ ... ] ボタンをクリックする  
[ ユーザ情報 ] ダイアログボックスが表示されます。
2. ユーザー一覧に表示されているユーザ ID から、不要なユーザ ID を削除する
3. エクスプローラなどでシステムのテンポラリディレクトリ ¥ ユーザ ID のディレクトリを削除する  
不要な作業用ファイルが削除されます。

詳細説明 4 : Form で作成された伝票を参照したり操作したりしたときに作成される作業用ファイル

Form で作成された伝票を参照したり操作したりした場合、Form の共有データ管理などのためにシステムのテンポラリディレクトリに作業用ファイルが作成されます。Form の作業用ファイルは次の四つの形式です。

- GRPFRMSSEntryTablexxxxxxx
- GRPFORMC0100SxxxxxxxExxxx
- GRPFORMC0100PxxxxxxxExxxx
- Etxxxx.tmp

これらの作業用ファイルは、通常は Form を終了したときに自動的に削除されます。ただし、Form を強制終了したときやシステムがハングアップしたときなどに、テンポラリディレクトリに残る場合があります。

作業用ファイルが残ってしまった場合は、Form を起動していない状態でエクスプローラまたは Form が提供している一時ファイル削除ツール（インストール先ディレクトリ ¥ Form ¥ Tools ¥ etdeltmp.exe などを使用して作業用ファイルを削除してください。

### (3) 不要な処理結果ログファイルは削除する

概要



Integrated Desktop で [ モバイル ] - [ 送信と格納 ], [ モバイル ] - [ OUTBOX から一括送信 ] 又は [ モバイル ] - [ 受信控えへ一括格納 ] を選択すると、処理結果の詳細がログファイルに記録されます。  
何度も一括送信処理及び一括格納処理をするとログファイルのサイズが大きくなり、ディスク容量不足や Groupmax の性能劣化の原因になることがあります。  
処理結果のログファイルは定期的に削除してください。

### 詳細説明

以下にログファイルの削除手順を示します。

1. [ モバイル ] - [ 処理結果の表示 ] で [ 処理結果 ] ダイアログボックスを表示する
2. 「処理結果」の「OUTBOX (個人メール) からの送信」の項目を選択して、[ 削除 ] をクリックする
3. 「処理結果」の「受信控え (個人メール) へ格納」の項目を選択して [ 削除 ] をクリックする

なお、「処理結果」の表示項目は次のように表示されます。

- 「OUTBOX (個人メール) からの送信」の項目  
OUTBOX (個人メール) からの送信 (11 件) [ 成功 : 6 失敗 : 2 キャンセル : 3 ] 19xx/1/28/ 12:19 完了
- 「受信控え (個人メール) へ格納」の項目  
受信控え (個人メール) への格納 (未読 : 20 件 / 対象 : 10 件) [ 成功 : 6 失敗 : 2 キャンセル : 2 ] 19xx/1/28/ 12:19 完了

## 2.3.2 トラブル対処方法

### (1) ネットワークドライブからのインストール中にインストールが中断されたとき

#### 現象

ネットワークドライブから Groupmax クライアント製品をインストールする場合、インストールが中断されたり、Windows が起動できなくなったりすることがあります。

#### 要因と対処方法

このような現象は、ネットワーク環境の負荷によって発生します。パーソナルコンピュータを再起動してからインストールを再実行してください。  
また、このような場合、パーソナルコンピュータ内のファイル構成が壊れることがあります。再実行した後は、スキャンディスクなどでファイル構成をチェックすることをお勧めします。

### (2) クライアント製品のインストール又は動作中に異常終了したとき

#### 現象

Windows 3.1 から Windows 95 又は Windows 98 へアップデートした環境の場合、インストール中又はプログラム動作中に不正なページフォルトが発生し、異常終了することがあります。

#### 要因と対処方法

## 2. クライアント運用時のノウハウ

この場合、Windows がインストールされているディレクトリの下にある SYSTEM.INI ファイルの [ 386Enh ] セクションから、次の二つの記述を削除してください。

- device=vrasd.386
- device=vfocusd.386

### (3) 誤った日付や時刻が表示されるとき

#### 現象

例えば、メールの受信時刻など、Groupmax で機能を実行したときの時刻が表示される場合、実際に機能が実行された時刻とは異なる時刻が表示されることがあります。

#### 要因と対処方法

Groupmax の時刻に関する情報は、サーバから取得した時刻情報をクライアントのタイムゾーンで変更します。このとき、環境変数 TZ の設定値を参照します。この設定がない場合、又は日本標準時 (JST-9) になっていない場合は、日付や時刻に関する情報が異なって表示されることがあります。

このような場合は、[ コントロールパネル ] の [ 日付と時刻 ] のタイムゾーンに「<GMT+9:00> 東京、大阪、札幌 ...」が設定されていることを確認し、次のように環境変数 TZ を設定・変更してください ( は半角スペースを示します)。

- OS が Windows 95, Windows 98 又は Windows Me の場合  
AUTOEXEC.BAT に「SET TZ=JST-9」を設定後、パーソナルコンピュータを再起動してください。
- OS が Windows NT, Windows 2000 又は Windows XP の場合  
[ コントロールパネル ] の [ システム ] を開き、「SET TZ=JST-9」を設定後、再ログインしてください。

注 環境変数を設定するときは、上記の「 」以外の箇所にスペースを入力しないようにしてください。また、式の最後にも、スペースを入力しないようにしてください。

### (4) クライアントプログラム (Groupmax または他社製品) を使用中に「リソースが不足している」というメッセージが表示されるとき

#### 現象

クライアントプログラム (Groupmax または他社製品) を使用中に「リソースが不足している」という意味のメッセージが表示されることがあります。

#### 要因と対処方法

この現象は、Windows 95, Windows 98 又は Windows Me の場合に、USER リソースが不足すると発生します。USER リソースとは、Windows 95, Windows 98 又は Windows Me においてシステム全体で使用される共通のメモリ領域であり、プログラムが動作するために必要なウインドウやプロセスを生成した場合などに使用されます。

この領域は、実際の搭載メモリサイズとは関係なく一定のサイズであるため、同時に多くのウインドウを表示したりプログラムを起動した場合などに、この現象が

発生しやすくなります。プログラムの終了し忘れなど、同時に使用するプログラムが多くならないように注意してください。また、スタートアップに登録されているプログラムを見直し、不要なプログラムを起動しないようにすることも効果的です。

Groupmax では、以下の方法で標準で常駐するモジュールの一部を解除することができます。

- Mail Client

本書の「2.6.2 知っておきたい機能」の「(6) メッセージエディタのメモリ常駐を解除するには」に記載の方法で設定する。

- Form Client

本書の「2.11.2 知っておきたい機能」の「(1) 伝票のメモリ常駐を解除するには」に記載の方法で設定する。

- Scheduler Client

Scheduler Setup の「起動モジュールをスタートアップに登録」にて、「登録しない」を選択

これらの指定により Groupmax の起動時間が長くなりますので、ご使用環境での評価のうえ、ご利用ください。

## 2.4 デスクトップ環境を使用するとき

ここでは、Integrated Desktop のデスクトップ環境を利用するときの注意事項、知っておきたい機能及びトラブル対処方法を説明します。

記載している項目と記載場所を、表 2-4 に示します。

表 2-4 記載項目と記載場所（デスクトップ環境を使用するとき）

種別	記載項目	記載場所
注意事項	ネットワーク上にユーザ環境を構築する場合、ハードディスクの容量、個人フォルダの管理、ユーザ環境のバックアップに注意する	2.4.1(1)
	ツールバーのカスタマイズは繰り返し指定しないようにする	2.4.1(2)
	Integrated Desktop のファイルをエクスプローラを使用して移動するときは移動先に注意する	2.4.1(3)
知っておきたい機能	プロセスの常駐を解除してパーソナルコンピュータのメモリを有効活用する	2.4.2(1)
	メニューをカスタマイズするには	2.4.2(2)
トラブル対処方法	ドラッグ & ドロップで移動又はコピーしたローカルフォルダが表示されないとき	2.4.3(1)
	「サーバに接続されていません。INBOX、送信ログまたは掲示板を開いてください」というメッセージが表示されたとき	2.4.3(2)
	一部のサーバが停止しているとき	2.4.3(3)

### 2.4.1 注意事項

#### (1) ネットワーク上にユーザ環境を構築する場合、ハードディスクの容量、個人フォルダの管理、ユーザ環境のバックアップに注意する

##### 概要

ネットワーク上にユーザ環境ファイルを一括管理する場合は、Integrated Desktop が一時的に作成する作業ファイルによってハードディスクの容量不足が発生しないように注意してください。

また、ユーザ環境をすぐに復元できるように、こまめに環境をバックアップする必要があります。

##### 詳細説明

ハードディスクの容量不足は、システムが不安定になる原因となります。

Integrated Desktop が一時的に作成する作業ファイルについては、「2.3 Groupmax クライアント全体について」を参照し、不要なファイルは削除するなどして管理してください。

各ユーザの個人フォルダをネットワーク上のサーバに格納して運用する場合は、次のことを守ってください。

- 使用するクライアント製品のインストール先をすべて同じにする
- 各クライアントで、サーバの個人フォルダ格納先を常に同じドライブに割

り当てる

また、ネットワークを利用していると、誤って個人フォルダを格納しているコンピュータを先に電源断してしまったり、ネットワークに負荷がかかって通信状態が悪化し、書き込み処理が正常に実行されなかったりというような障害が発生することも考えられます。Integrated Desktop 起動時のオプションで「前回終了時の状態で起動する」を設定している場合でも、終了時の画面情報ファイルを保存しているときに上記の障害が発生すると、Integrated Desktop の起動画面は初期状態に戻ってしまいます。

ネットワーク上にユーザ環境を構築する場合は、常にユーザ環境をバックアップしてすぐに復元できるような環境を構築してください。

## (2) ツールバーのカスタマイズは繰り返し指定しないようにする

### 概要

ツールバーの移動、又は環境ファイルの読み込み及び保存を繰り返し指定すると、環境ファイルが破壊され、ツールバーが表示されないなどの不具合が発生することがあります。ツールバーの移動や環境ファイルの読み込み・保存は、繰り返し指定しないようにしてください。

### 詳細説明

ツールバーのカスタマイズを繰り返して不具合が発生した場合は、そのユーザの環境ファイルを削除することでツールバーを初期状態に戻せます。ただし、ツールバー以外のカスタマイズ情報も初期化されます。

ユーザの使用環境とその環境ファイルの対応を表 2-5 に示します。

表 2-5 使用環境と環境ファイル

ユーザの使用環境	環境ファイル
機能指向環境	ユーザの個人フォルダ ¥desktop¥function¥win****.dat
業務指向環境	ユーザの個人フォルダ ¥desktop¥business¥mainwin.dat
仮想オフィス環境	ユーザの個人フォルダ ¥desktop¥virtual¥mainwin.dat

## (3) Integrated Desktop のファイルをエクスプローラを使用して移動するときは移動先に注意する

機能指向主画面又は個人フォルダの画面から、個人フォルダの下のファイルをエクスプローラの「個人フォルダ ¥Desktop¥Function¥Folder」の下にドラッグ & ドロップして移動しないでください。

ドラッグ & ドロップしたファイルが破壊されたり削除されたりする場合があります。

## 2.4.2 知っておきたい機能

### (1) プロセスの常駐を解除してパーソナルコンピュータのメモリを有効活用する

#### 概要

Integrated Desktop では、起動時の性能を向上するために幾つかのプロセスをメモリに常駐しています。Integrated Desktop を利用していないときに、パー

## 2. クライアント運用時のノウハウ

ソナルコンピュータのメモリを有効に活用するには、必要に応じて常駐プロセスを解除してください。これは、使用しているパーソナルコンピュータの搭載メモリが非常に少ない場合に有効です。

### 詳細説明

常駐されているプロセスを解除するには、常駐停止プログラム（gauninst.exe 又は GDMCRST.EXE）を実行します。常駐停止プログラムを実行する場合は、あらかじめ Groupmax を終了させておいてください。

常駐プロセスの解除には、次の方法があります。

- Integrated Desktop の常駐プロセスを解除する方法  
Groupmax インストールディレクトリ（通常は C:\GMAXCL）下の常駐停止プログラム（\Address\Program\gauninst.exe）を実行します。
- Integrated Desktop のメール機能の常駐プロセスを解除する方法  
Groupmax インストールディレクトリ（通常は C:\GMAXCL）下の常駐停止プログラム（\Mail\Program\gmuninst.exe）を実行します。
- Integrated Desktop の文書管理機能の常駐プロセスを解除する方法  
Groupmax インストールディレクトリ（通常は C:\GMAXCL）下の常駐停止プログラム（\DocMan\Program\GDMCRST.EXE）を実行します。常駐停止プログラム実行時に、「/F」又は「-F」オプションを付加すると、メッセージ「Document Manager サービスプロセスを終了しました。」の出力を抑止できます。

なお、常駐プロセスを解除している場合、Integrated Desktop や常駐を解除した機能を起動するときの性能は、プロセスを常駐しているときに比べて悪くなります。

再度、Integrated Desktop を起動すると、プロセスは常駐されます。

## (2) メニューをカスタマイズするには

### 概要

レジストリに、「MenuCustomizeFlag」キー及びメニュー用のキーを追加し、そのキーに値を設定すると、Integrated Desktop の機能指向主画面、業務指向主画面及び仮想オフィス主画面のメニュー項目をカスタマイズできます。

### 詳細説明

メニュー項目のカスタマイズ方法の詳細と、カスタマイズできるメニュー項目については、「付録 A メニューのカスタマイズ」を参照してください。

なお、レジストリキーを設定したり、値を設定したりする際は、注意して操作してください。操作を誤った場合は、Windows が起動されなくなることがありますので、あらかじめ変更するレジストリファイルのバックアップを作成しておくことをお勧めします。

## 2.4.3 トラブル対処方法

### (1) ドラッグ & ドロップで移動又はコピーしたローカルフォルダが表示されないとき

#### 現象

Integrated Desktop 主画面で、ローカルフォルダを別のローカルフォルダにドラッグ & ドロップで移動又はコピーした場合、移動又はコピー先にローカルフォルダが表示されないことがあります。

### 要因と対処方法

ドラッグ & ドロップした場合、ドロップ先のローカルフォルダにサブフォルダがないと、移動又はコピーしたはずのローカルフォルダが表示されないことがあります。

この場合は [ 表示 ] - [ 最新の情報に更新 ] を指定して、表示を更新するとローカルフォルダが表示されます。

## (2) 「サーバに接続されていません。INBOX、送信ログまたは掲示板を開いてください」というメッセージが表示されたとき

### 現象

機能指向環境又は業務指向環境使用中に「サーバに接続されていません。INBOX、送信ログまたは掲示板を開いてください」のメッセージが表示されることがあります。

### 要因と対処方法

このような場合は、Integrated Desktop を再起動してください。

## (3) 一部のサーバが停止しているとき

### 現象

Integrated Desktop から接続する Groupmax サーバが複数のサーバに分散している環境では、ログイン時に一部のサーバが停止している場合、ログイン処理に時間がかかることがあります。

### 要因と対処方法

停止しているサーバが分かる場合は、オフラインでログインして停止しているサーバへの接続設定を解除してから、オンラインにするとログインにかかる時間が短縮されます。

## 2.5 エージェント機能を使用するとき

ここでは、エージェントを利用するときの注意事項及びトラブル対処方法を説明します。

記載している項目と記載場所を、表 2-6 に示します。

表 2-6 記載項目と記載場所（エージェント機能を使用するとき）

種別	記載項目	記載場所
注意事項	着信監視エージェント生成時にエラーが発生すると、停止中のエージェントが生成される	2.5.1(1)
	活動状態のエージェントを編集・保存した場合、エージェントは停止状態になる	2.5.1(2)
	エージェントでメッセージをダイアログボックスに表示するとき、ダイアログボックスを閉じるまでほかの操作はできない	2.5.1(3)
	Integrated Desktop からエージェントを起動する場合、異なる環境の画面を起動しない	2.5.1(4)
	エージェントに対する操作は一つ一つ実行する	2.5.1(5)
	ワークフローを監視するクライアント着信監視エージェントは一つだけ	2.5.1(6)
知っておきたい機能	Integrated Desktop の起動時間を早くするには	2.5.2(1)
トラブル対処方法	初期化ファイルが壊れてエージェントマネージャが起動できないとき	2.5.3(1)
	[ エージェント定義 ] ウィンドウでエージェントの作成時にエラーが検出されたとき	2.5.3(2)
	メールが到着しても着信通知されないとき	2.5.3(3)

### 2.5.1 注意事項

- (1) **着信監視エージェント生成時にエラーが発生すると、停止中のエージェントが生成される**

着信監視エージェントを生成時に、サーバとの接続などでエラーが発生した場合、停止中のエージェントが生成されます。

活動中の着信エージェントが登録してある状態で、更にエージェントマネージャの起動時にサーバとの接続などでエラーが発生した場合、着信監視エージェントは活動中のままになります。
- (2) **活動状態のエージェントを編集・保存した場合、エージェントは停止状態になる**

活動状態のエージェントを編集して保存した場合、エージェントは停止状態になります。エージェントを活動状態にする場合は、Integrated Desktop 主画面の [ エージェント ] - [ 活動 ] を選択してください。
- (3) **エージェントでメッセージをダイアログボックスに表示するとき、ダイアログボックスを閉じるまでほかの操作はできない**

エージェントでメッセージをダイアログボックスに表示するとき、ダイアログボックスを閉じるまでほかの操作はできません。ほかの操作をするときは、ダイアログボックスを閉じてから操作してください。



### (4) Integrated Desktop からエージェントを起動する場合、異なる環境の画面を起動しない

Integrated Desktop からエージェントを起動する場合、起動している環境の画面（機能指向環境、業務指向環境、仮想オフィス環境）と異なる環境の画面を同時に起動しないでください。エージェントマネージャの動作が不安定になることがあります。

### (5) エージェントに対する操作は一つ一つ実行する

#### 概要

エージェントの操作を複数同時に実行すると、Integrated Desktop から応答がなくなることがあります。

#### 詳細説明

エージェントに対する一つの操作が完了してから、その次の操作をしてください。

例えば、機能指向画面からテンプレートエージェントを選択し、メニューから [ファイル] - [開く] を実行するとき、[エージェント定義] ウィンドウが表示されるまで、エージェントに対してほかの操作はしないでください。

### (6) ワークフローを監視するクライアント着信監視エージェントは一つだけ

エージェント連携では、ワークフローを監視するクライアント着信監視エージェントは、一つだけ起動できます。

## 2.5.2 知っておきたい機能

### (1) Integrated Desktop の起動時間を早くするには

#### 概要

エージェントは、Integrated Desktop のログイン画面入力後、30 秒経ってから起動するように標準設定されています。この遅延起動時間の設定を短くすると、エージェントの起動開始時間を早くできます。

#### 詳細説明

遅延起動時間は、Groupmax のインストールディレクトリ Gmaxcl\Agent\tmp の下のレジストリファイルを実行すると変更できます。

レジストリファイルで次のような設定ができます。

- Delay00.reg：遅延起動時間 0 秒設定
- Delay10.reg：遅延起動時間 10 秒設定
- Delay20.reg：遅延起動時間 20 秒設定
- Delay30.reg：遅延起動時間 30 秒設定

**注意** Integrated Desktop 起動処理と重なる時間を設定すると、二つの処理が重なるため、両方の起動が遅くなります。処理速度はパーソナルコンピュータの性能によって異なります。環境に合わせて遅延起動時間を設定してください。

### 2.5.3 トラブル対処方法

#### (1) 初期化ファイルが壊れてエージェントマネージャが起動できないとき

##### 現象

エージェントマネージャを起動しようとする、「エージェントシステムの初期化ファイルが壊れています」というエラーメッセージが表示され、エージェントマネージャが起動できないことがあります。

##### 要因と対処方法

この現象は、何らかの原因で、エージェントシステムの初期化ファイルが壊れた場合に、エージェントマネージャを起動しようすると発生します。

次に、この現象が発生したときの対処方法について説明します。

ただし、この操作を実行すると、個人エージェントが Groupmax をインストールしたときの状態に戻ります。

1. [ Groupmax 統合セットアップ ] を起動し、[ Groupmax 設定のプロパティ ] ダイアログボックスを表示する
2. [ Groupmax 設定のプロパティ ] ダイアログボックスで [ Desktop 環境 ] タブを選択する
3. [ ユーザ ] ボタンをクリックし、[ ユーザ情報 ] ダイアログボックスを表示する
4. [ ユーザ情報 ] ダイアログボックスで [ ユーザー一覧 ] リストから、この現象が発生したユーザを選択し、[ 個人フォルダの変更 ] ボタンをクリックする
5. [ 個人フォルダの変更 ] ダイアログボックスで、個人フォルダのパスを確認する
6. 5. で確認したパスの下の Agent ディレクトリにある次のファイルを削除する
  - ・ AgtLfSrv.dat
  - ・ AgtPtMem.dat

#### (2) [ エージェント定義 ] ウィンドウでエージェントの作成時にエラーが検出されたとき

##### 現象

[ エージェント定義 ] ウィンドウでエージェント作成時、定義内容が誤っていたり、動作環境が整っていないなどの理由でエラーが発生した場合、エラーダイアログボックスが表示されます。表示されたエラーダイアログボックスで [ 確認 ] ボタンをクリックして、[ エージェント定義 ] ウィンドウも閉じた場合、エラーが発生したため、停止状態のエージェントが作成されます。

##### 要因と対処方法

この場合、該当するエージェントを削除し、正しい設定でエージェントを作成し直すか、動作環境を整えた後、エージェントを活動状態にしてください。

#### (3) メールが到着しても着信通知されないとき

##### 現象

メールが届いているのに「Mail (個人) 着信監視」アイコンの絵柄が変更されないなど、着信監視のエージェントが動作しないことがあります。

### 要因と対処方法

次に示す二つの要因が考えられます。

1. [ Groupmax 設定のプロパティ ] ダイアログボックスの設定に問題がある
2. メールが届いて、着信通知される前に INBOX で [ 最新の情報に更新 ] を実行した

以下に対処方法を示します。

#### 1 の対処方法

[ Groupmax 設定のプロパティ ] ダイアログボックスの [ Mail ] タブで次のことをチェックしてください。

- 「着信通知を行う」がチェックされているか  
「着信通知を行う」がチェックされていない場合、「着信通知を行う」をチェックしてください。
- 着信通知方式として「イベント通知」又は「ポーリング」のどちらを指定しているか  
着信通知方式が「イベント通知」の場合、メールの監視間隔は 10 分です。メールが届いてもすぐにエージェントは動きません。10 分ごとに動作します。  
着信通知方式が「ポーリング」の場合、メールの監視間隔は、Mail クライアントで設定したポーリング間隔です。これは Integrated Desktop 主画面の [ ツール ] - [ Groupmax の設定 ] - [ Mail の設定 ] を選択して、[ オプション ] ダイアログボックスの [ 着信監視 ] タブを開くと確認できます。指定した監視間隔で動作するので、メールが届いてもすぐにエージェントは動きません。デフォルトは 30 分です。

#### 2 の対処方法

INBOX を使用しているとき、エージェントで監視するのは、[ 最新の情報に更新 ] を実行した後に届いたメールが対象になります。INBOX で [ 最新の情報に更新 ] を実行すると、メールが届いていても新着の状態でなくなってしまう、エージェントは動きません。

エージェントが動作しているかを確認するときは、エージェントが動作するまでの間に INBOX で [ 最新の情報に更新 ] を実行しないでください。

## 2.6 メール及び回覧を使用するとき

ここでは、メール及び回覧の送受信や宛先台帳を操作するときの注意事項、知っておきたい機能及びトラブル対処方法を説明します。

記載している項目と記載場所を、表 2-7 に示します。

表 2-7 記載項目と記載場所（メール及び回覧を使用するとき）

種別	記載項目	記載場所
注意事項	ダイヤルアップ接続のパーソナルコンピュータからログインするときは、ほかのパーソナルコンピュータからログアウトしてから	2.6.1(1)
	メール着信のメッセージが表示されたら、[ 最新の情報に更新 ] を実行してメールの一覧を表示する	2.6.1(2)
	同名のファイル同士は、異なるディレクトリ下にあっても添付ファイルに指定できない	2.6.1(3)
	送信メールのオプションで「配信日時指定」と「配信通知しない」を指定したときの受信状態	2.6.1(4)
	エクスプローラから OUTBOX へドラッグ & ドロップするときは、[ 発信種別 ] ダイアログボックスをクリックしてから、フォーカスを移動する	2.6.1(5)
	マージン値はプリンタ設定値の最小値より大きく設定する	2.6.1(6)
	「全件表示」及び「全件表示する場合に分割取得を行う」を指定した場合の注意事項	2.6.1(7)
	主題・宛先領域にコピー & ペーストなどでタブが入ったら、取り除いてから送信する	2.6.1(8)
	デフォルトの書式として、プロポーショナルフォントを設定すると、プレーンテキストモードで各行の桁が揃わなくなる	2.6.1(9)
	メッセージエディタの本文中にファイルやデータを貼り付けた場合、送信先に届くかどうかは貼り付け元の環境に依存する	2.6.1(10)
	02-20 版以前で設定したデフォルトフォントのまま、「デフォルトフォントの切り替え」を設定すると、更新されない属性がある	2.6.1(11)
	受信メール表示を高速にしたい場合、GMAIL.EXE の常駐を終了しない	2.6.1(12)
	組織メールの設定で、組織選択画面が複数表示される場合、最初に設定したものが有効になる	2.6.1(13)
	添付ファイルを保存前にダブルクリックで開くと、関連付けられたアプリケーションが表示するファイル名と、メッセージエディタが表示するファイル名が異なることがある	2.6.1(14)
	メッセージエディタでデフォルトフォントを設定すると、デフォルトフォントで印刷できる	2.6.1(15)
	[ 宛先指定 ] ダイアログボックスでユーザー一覧を表示する場合、メモリ不足になると、ユーザー一覧が表示されないことがある	2.6.1(16)
	メール、回覧、記事の各エディタを連続で複数起動すると、システムリソース不足になることがある	2.6.1(17)

## 2. クライアント運用時のノウハウ

種別	記載項目	記載場所
	エディタ起動中にツールバーを押すと、内部処理エラーの表示が出ることがある	2.6.1(18)
	02-31-/B 版以前に保存されたファイルは、作成時の本文モード（リッチテキスト / プレーンテキスト）で表示されないことがある	2.6.1(19)
	Keymate/Multi がインストールされているときの注意事項	2.6.1(20)
	メッセージエディタでメッセージを保存する場合、ファイルの種類を変更するには、ファイル名を変更するか、拡張子を入力する	2.6.1(21)
	サーバへの送信処理が通信エラーなどで失敗しても、通信プロトコルの処理状態によっては、サーバで正常に処理済みのことがある	2.6.1(22)
	INBOX，受信控え，送信ログ及び OUTBOX でメール種別ごとに表示できる最大件数	2.6.1(23)
	オンライン状態では、受信控えよりも INBOX を使用する	2.6.1(24)
	メッセージエディタのサイズを変えると、垂直スクロールバーが消えることがある	2.6.1(25)
	OUTBOX の複数のメールを一度に開いて、開いた順に「後で送信」にすると、開けないことがある	2.6.1(26)
	ローカル宛先エディタで全角 128 文字でグループ名を登録すると、ルートのビットマップの位置がずれることがある	2.6.1(27)
	ツールバーの変更画面でボタンをドラッグ & ドロップしているとき、[ Alt ] + [ Tab ] でのアプリケーションの切り替えをしない	2.6.1(28)
	ローカルグループの名前が長いと、[ グループ選択 ] ダイアログボックスに名前がすべて表示されないことがある	2.6.1(29)
	ローカル宛先エディタで [ ローカル宛先台帳への登録 ] を繰り返すと登録性能が悪くなる	2.6.1(30)
	Windows のオプションで拡張子を表示しないでマシンを使用している場合、添付ファイルの名称を変更するときは拡張子を付けて指定する	2.6.1(31)
	E-mail で Reply-To が指定されたメールを Groupmax で受信した場合、返信メールの宛先には発信者アドレスが指定される	2.6.1(32)
	E-mail 連携での添付ファイルは 24 個まで	2.6.1(33)
	E-mail でテキストファイルを添付した場合、添付ファイルの内容が本文中に貼り付くことがある	2.6.1(34)
	Outlook Express で送信されたメールの添付ファイルがそのまま本文になることがある	2.6.1(35)
	E-mail で Errors-To が指定されていても、エラーメールは発信者に戻る	2.6.1(36)
知っておきたい機能	遅延配信機能で送信したメールを消すには	2.6.2(1)
	宛先台帳の [ 宛先指定 ] ダイアログボックスの「宛先ツリー」の表示枠を広げるには	2.6.2(2)
	添付ファイルのサイズを小さくするには	2.6.2(3)
	モバイル環境でローカルドライブにメールを保存するには	2.6.2(4)

## 2. クライアント運用時のノウハウ

種別	記載項目	記載場所
	同報メールの受信者に当人以外の宛先を知らせないようにするには	2.6.2(5)
	メッセージエディタのメモリ常駐を解除するには	2.6.2(6)
トラブル対処方法	[プロパティ] ダイアログボックスが前面に表示されないとき	2.6.3(1)
	リストボックスへフォーカスを移動しても表示されないとき	2.6.3(2)
	メッセージエディタでツールバーの中のボタンが表示されないとき	2.6.3(3)
	「Mail ( 回覧 ) の一覧取得に失敗しました」というメッセージが表示されたとき	2.6.3(4)
	「送信処理に失敗しました。許可されたサイズを超えています」というメッセージが表示されたとき	2.6.3(5)
	メールが到着しても着信通知されないとき	2.6.3(6)


### 2.6.1 注意事項

#### (1) ダイアルアップ接続のパーソナルコンピュータからログインするときは、ほかのパーソナルコンピュータからログアウトしてから

[ 統合セットアップ ] - [ Groupmax 設定のプロパティ ] ダイアログボックスの [ ダイアルアップ接続 ] タブで「ダイアルアップ接続を使用する」を選択すると、後からのログイン要求が優先されます。そのため、03-10 版以前のような二重ログインによるエラーメッセージは出力されませんが、先にログインしていたユーザの接続が強制的に切断されるので、運用には十分注意してください。

**注意 「ダイアルアップ接続を使用する」を選択しても、サーバの設定によっては後からのログイン要求は優先されません。**

#### (2) メール着信のメッセージが表示されたら、[ 最新の情報に更新 ] を実行してメールの一覧を表示する

メール着信のメッセージ表示後に、INBOX の [ 未処理 ] ボタン (  ) を押しても着信したメールは、一覧に表示されません。直前に受信又は送信したメールの一覧を表示させるときは、[ 表示 ] - [ 最新の情報に更新 ] を実行してください。

#### (3) 同名のファイル同士は、異なるディレクトリ下にあっても添付ファイルに指定できない

同名のファイル同士は、異なるディレクトリ下にあっても添付ファイルに指定できません。どちらかのファイル名を変更してから、添付ファイルに指定してください。

#### (4) 送信メールのオプションで「配信日時指定」と「配信通知しない」を指定したときの受信状態

「配信日時指定」と「配信通知しない」の両方を設定している状態で、送信ログで確認したいメールを選択してから、[ ファイル ] - [ プロパティ ] の [ 送信メール詳細 ] タブを見ると、状態が「未読」になっていて、相手に届いているかのように見えます。これは、受信状態が常に表示されている状態になっているためです。

**(5) エクスプローラから OUTBOX ヘッドラッグ & ドロップするときは、[ 発信種別 ] ダイアログボックスをクリックしてから、フォーカスを移動する**

エクスプローラから OUTBOX ヘッドラッグ & ドロップした場合、[ 発信種別 ] ダイアログボックスにフォーカスが移動（ダイアログボックスがポップアップ）しません。[ 発信種別 ] ダイアログボックスをクリックして、フォーカスを移動してから使用してください。

**(6) マージン値はプリンタ設定値の最小値より大きく設定する**

マージン値はプリンタ設定値の最小値より大きく設定してください。印刷時のマージンをプリンタ設定値の最小値に設定して印刷すると、メール属性部分の先頭文字が印刷されないことがあります。

**(7) 「全件表示」及び「全件表示する場合に分割取得を行う」を指定した場合の注意事項**

**概要**

[ Mail の詳細設定 ] ダイアログボックスで「全件表示」、及び「全件表示する場合に分割取得を行う」を指定している場合、動作に注意が必要です。

**詳細説明**

メニューの [ ツール ] - [ オプション ] を選択し、[ 接続システム ] タブの「詳細設定」ボタンをクリックします。そこで表示される、[ Mail の詳細設定 ] ダイアログボックスで「全件表示」、及び「全件表示する場合に分割取得を行う」を指定している場合、次に示す動作になります。

- 一覧に表示する件数が INBOX 及び送信ログの表示件数の設定よりも少なくなる

「フィルタリング」や「表示条件の設定」で検索条件を指定すると、一覧に表示する件数が INBOX 及び送信ログの表示件数の設定よりも少なくなることがあります。検索条件に一致するすべての案件を表示したい場合は、「全件表示する場合に分割取得を行う」を指定しないでください。

- メールを選択したままスクロールしているときに、新着メールが届くと、選択位置がずれる

INBOX で案件を選択したまま、選択部分が見えなくなるまで画面をスクロールした場合、スクロール中に新しい案件が到着すると選択位置がずれません。選択位置のずれを抑止するためには、「全件表示する場合に分割取得を行う」を指定しないでください。

**(8) 主題・宛先領域にコピー & ペーストなどでタブが入ったら、取り除いてから送信する**

主題・宛先領域にコピー & ペーストなどでタブが入ると、表示が不正になります。このまま送信するとシステムが不安定になる恐れがあるので、取り除いてから送信してください。

**(9) デフォルトの書式として、プロポーショナルフォントを設定すると、プレーンテキストモードで各行の桁が揃わなくなる**

[ ツール ] - [ オプション ] メニューのデフォルト書式にプロポーショナルフォントを指定した場合、プレーンテキストモードでメールを見ると、上下の行が揃わなくなります。プレーンテキストモードを使用する場合、デフォルトの書式のフォントにはプロポーショナルフォント以外のものを設定してください。

## 2. クライアント運用時のノウハウ

### (10) メッセージエディタの本文中にファイルやデータを貼り付けた場合、送信先に届くかどうかは貼り付け元の環境に依存する

メッセージエディタの本文中にファイルやデータを貼り付けた場合、貼り付け元の環境によっては、貼り付けたファイルやデータが送信先に届かないことがあります。メッセージエディタの本文中に貼り付けしないで、添付ファイルにするようにしてください。

### (11) 02-20 版以前で設定したデフォルトフォントのまま、「デフォルトフォントの切り替え」を設定すると、更新されない属性がある

02-20 版以前で設定されたデフォルトフォントのまま、「デフォルトフォントの切り替え」を実行すると、下線・取り消し線の属性は更新されません。現在のバージョンで再度設定してください。

### (12) 受信メール表示を高速にしたい場合、GMAIL.EXE の常駐を終了しない

受信メール表示を高速にするため、メッセージエディタを画面に表示していないときも、GMAIL.EXE が常駐しています。受信メール表示を高速にしたい場合、[ Ctrl ] + [ Alt ] + [ Delete ] などで終了しないでください。

### (13) 組織メールの設定で、組織選択画面が複数表示される場合、最初に設定したものだけが有効になる

組織メールを使用する設定で、複数のメッセージエディタからサーバに接続するような場合、組織選択画面が複数表示されることがあります。この場合、最初に設定したものだけが有効になります。

### (14) 添付ファイルを保存前にダブルクリックで開くと、関連付けられたアプリケーションが表示するファイル名と、メッセージエディタが表示するファイル名が異なることがある

メール及び記事の添付ファイルを保存する前にダブルクリックなどで開くと、関連付けられたアプリケーションが表示するファイル名とメッセージエディタが表示するファイル名が異なることがあります。

このとき、メッセージエディタから添付ファイルを保存するときのデフォルトファイル名は、メッセージエディタが表示している名称になります。

### (15) メッセージエディタでデフォルトフォントを設定すると、デフォルトフォントで印刷できる

インストール後、一度メッセージエディタでデフォルトフォントを設定すると、デフォルトフォントで印刷できます。

なお、デフォルトフォントのサイズを 20 ポイント以上にしていると、主題の両端が印刷されないことがあります。デフォルトフォントはできるだけ、20 ポイント未満にしてください。

### (16) [宛先指定] ダイアログボックスでユーザー一覧を表示する場合、メモリ不足になると、ユーザー一覧が表示されないことがある

[宛先指定] ダイアログボックスでユーザー一覧を表示する場合、メモリ不足になると、ユーザー一覧が表示されないことがあります。



**(17) メール、回覧、記事の各エディタを連続で複数起動すると、システムリソース不足になることがある**

メール、回覧、記事の各エディタを連続で複数起動すると、システムリソース不足のため、起動・終了処理が正常に実行されないことがあります。

**(18) エディタ起動中にツールバーを押すと、内部処理エラーの表示が出ることもある**

エディタの起動中にツールバーを押すと、内部処理エラーが表示されることがあります。エディタの起動を確認してからツールバーを押してください。

**(19) 02-31-/B 版以前に保存されたファイルは、作成時の本文モード（リッチテキスト/プレーンテキスト）で表示されないことがある**

02-31-/B 版より、受信メール、送信済みメール、記事表示画面を表示する場合、そのメール又は記事が作成されたときの本文モード（リッチテキスト/プレーンテキスト）で表示するようになりました。しかし、これらのメッセージタイプのローカルファイルを表示する場合、02-31-/B 版以前に保存されたファイルは、作成時の本文モードで表示されないことがあります。

**(20) Keymate/Multi がインストールされているときの注意事項**

Keymate/Multi がインストールされている場合、一度に複数のメッセージ（メール、記事、回覧）を一覧から開くと、メッセージエディタの間に Integrated Desktop が挟まれて表示されることがあります。

**(21) メッセージエディタでメッセージを保存する場合、ファイルの種類を変更するには、ファイル名を変更するか、拡張子を入力する**

メッセージエディタでメッセージを上書き保存・名前を付けて保存するときに表示される保存ダイアログボックスで、「ファイルの種類」を変更しても、ファイルの種類が変更されません。ファイルの種類を変更する場合、「ファイル名」に表示されているファイル名を変更するか、又は拡張子を入力してください。

**(22) サーバへの送信処理が通信エラーなどで失敗しても、通信プロトコルの処理状態によっては、サーバで正常に処理済みのことがある**

サーバへの送信処理が通信エラーなどで失敗しても、通信プロトコルの処理状態によっては、サーバで正常に処理済みのことがあります。再送するときは、送信ログで送信状態を確認してください。

**(23) INBOX、受信控え、送信ログ及び OUTBOX でメール種別ごとに表示できる最大件数**

INBOX、受信控え、送信ログ及び OUTBOX でメール種別（個人、組織、回覧）ごとに表示できる最大件数は 2,000 件です。

**(24) オンライン状態では、受信控えよりも INBOX を使用する**

**概要**

オンライン状態では、受信控えより、INBOX を使用してください。

**詳細説明**

オンライン状態で受信控えを使用する場合、次のことに注意してください。

- 「送信と格納」や「受信控えに一括格納」を実行するとき、INBOX を最新

## 2. クライアント運用時のノウハウ

表示にしてから操作する

- 着信通知が表示されたときも、INBOX を最新表示にしてから、「送信と格納」や「受信控えに一括格納」を実行する

### (25) メッセージエディタのサイズを変えると、垂直スクロールバーが消えることがある

メッセージエディタを最大化などでサイズを変えた場合、表示していた垂直スクロールバーが消えることがあります。再度サイズを変更すると、スクロールバーが表示されます。

### (26) OUTBOX の複数のメールを一度に開いて、開いた順に「後で送信」にすると、開けないことがある

OUTBOX の複数のメールを一度に開いて、開いた順に「後で送信」にすると、開けないことがあります。しばらくしてから開き直してください。

### (27) ローカル宛先エディタで全角 128 文字でグループ名を登録すると、ルートのビットマップの位置がずれることがある

ローカル宛先エディタで一つ目のグループ名を登録するときに、全角 128 文字で登録すると、表示されないでローカル宛先のルートのビットマップの位置がずれてしまうことがあります。このような場合、ローカル宛先エディタをいったん終了して、再起動してください。

### (28) ツールバーの変更画面でボタンをドラッグ & ドロップしているとき、[ Alt ] + [ Tab ] でのアプリケーションの切り替えをしない

ツールバーの変更画面でボタンをドラッグ & ドロップしているとき、[ Alt ] + [ Tab ] でのアプリケーションの切り替えをしないでください。マウスポインタの表示が不正になることがあります。

### (29) ローカルグループの名前が長いと、[ グループ選択 ] ダイアログボックスに名前がすべて表示されないことがある

ローカルグループの名前が長いと、ローカル宛先エディタで、「ローカル宛先台帳のファイル保存」を選択して表示される [ グループ選択 ] ダイアログボックスに、ローカルグループの名前がすべて表示されないことがあります。また、[ グループ選択 ] ダイアログボックスでの表示内容の変更は水平スクロールバーを使用してください。

### (30) ローカル宛先エディタで [ ローカル宛先台帳への登録 ] を繰り返すと登録性能が悪くなる

ローカル宛先エディタで [ ファイル ] - [ ローカル宛先台帳への登録 ] を繰り返すと、ローカル宛先台帳への登録性能は悪くなります。

### (31) Windows のオプションで拡張子を表示しないでマシンを使用している場合、添付ファイルの名称を変更するときは拡張子を付けて指定する

Windows のオプションでファイルの拡張子を表示しない形式でパーソナルコンピュータを使用している場合、添付ファイルの名称を変更するときは、拡張子を付けて指定してください。

### (32) E-mail で Reply-To が指定されたメールを Groupmax で受信した場合、返信メールの宛先には、発信者アドレスが指定される

E-mail でメーリングリストから発信されたメールなど Reply-To ヘッダ（発信者指定返信先）が指定されたメールを Groupmax で受信した場合、メッセージエディタから「返信」の操作をすると、返信先として Reply-To ヘッダではなく、発信者アドレスが指定されます。この場合、メッセージエディタで「返信」操作をするときに、返信宛先を入力してください。

### (33) E-mail 連携での添付ファイルは 24 個まで

E-mail から添付ファイルを 25 個以上指定したメールを Mail Client（メッセージエディタ）で受信すると、先頭から 24 個までは受信できますが、それ以上は受信できません。

したがって、E-mail と連携してメールをやり取りする場合には、送信側で添付するファイルを 24 個以内にしてください。

### (34) E-mail でテキストファイルを添付した場合、添付ファイルの内容が本文中に貼り付くことがある

E-mail でテキストファイルを添付したメールを Groupmax で受信すると、添付ファイルではなく、本文中に表示されることがあります。

### (35) Outlook Express で送信されたメールの添付ファイルがそのまま本文になることがある

#### 概要

Outlook Express の送信時のオプションで HTML 形式を指定した場合、Groupmax のメッセージエディタで受信したとき、HTML データとその内容のプレーンデータが本文になります。

#### 詳細説明

Outlook Express からメールを発信する場合、送信時のオプションで、HTML 形式を指定しないでください。

### (36) E-mail で Errors-To が指定されていても、エラーメールは発信者に戻る

E-mail でほかのメーリングリストから Errors-To ヘッダ（エラー時返信宛先指定）が指定されているメールを Groupmax Mail-SMTP を介して受信し、Groupmax のサーバ間転送でエラーが発生した場合、Errors-To で指定された宛先ではなく、エラー宛先として発信者にエラーメールが戻ります。この現象を回避するには、Groupmax Mail-SMTP で、エラーメールの返信先をカスタマイズして、エラーメールの宛先を変更してください。

## 2.6.2 知っておきたい機能

### (1) 遅延配信機能で送信したメールを消すには

遅延配信機能で送信したメールを配信期日の前に、配信一覧から削除しても送信されてしまいます。

送信を取り消すには、送信ログで目的のメールを選択してから、[メッセージ] - [取り消し] を選択してください。

## 2. クライアント運用時のノウハウ

### (2) 宛先台帳の [ 宛先指定 ] ダイアログボックスの「宛先ツリー」の表示枠を広げるには

[ 宛先指定 ] ダイアログボックスの「宛先ツリー」は 7 行程度しか表示できませんが、次に示す方法で、「宛先ツリー」の表示枠を広げることができます。

1. ローカル宛先エディタの [ ツール ] - [ オプション ] で [ 宛先指定 ] タブを選択する
2. 「800 × 600 対応」または「1024 × 768 対応」をチェックする

### (3) 添付ファイルのサイズを小さくするには

サイズの大きいファイルを添付して複数の宛先にメールを送信すると、サーバのディスク容量を多く消費したり、受信者のメールボックスを圧迫したりします。このようなとき、ファイルを記事に添付して掲示板に登録し、登録した記事のエイリアスをメールに添付すれば、ファイルサイズを小さくして送信することができます。

ただし、登録した記事へのアクセス権が受信者がない場合や、記事を登録した掲示板を送信者と受信者が共用していない場合は、メールの受信者は記事を参照することができません。

### (4) モバイル環境でローカルドライブにメールを保存するには

モバイル環境では、メールをローカルドライブに保存する場合、メールを一括受信して保存するようにしてください。

INBOX のメールを受信控えなどのローカルドライブに、ドラッグ & ドロップなどによって保存する場合、保存処理中にエラーが発生すると、保存処理中のメールの状態が未読から既読になってしまうことがあります。特にモバイル環境では、不慮の回線切断が考えられるため、メールは一括受信して保存するようにしてください。一括受信の場合、保存処理中にエラーが発生してもメールの状態は正しく保存されます。

### (5) 同報メールの受信者に当人以外の宛先を知らせないようにするには

アンケートの集計などメール受信者が当人以外の宛先を知る必要がない場合や、同報者が明らかなきときなど同報者名を宛先一覧に表示する必要がない場合は、メールの属性の「受信者名公開」を解除してからメールを送信してください。「受信者名公開」は、メッセージエディタで [ メッセージ ] - [ 送信属性 ... ] を選択して、[ 送信属性 ] ダイアログボックスで解除できます。

また、同報者の宛先の一部を他の受信者に知らせたくない場合は、他に知らせたくない宛先を指定する時に「BCC」を選択してください。

なお、「受信者名公開」の解除は Groupmax のメール内で有効です。E-mail 宛に送信する際、他の受信者に知らせたくない場合は「BCC」による指定を使って下さい。

### (6) メッセージエディタのメモリ常駐を解除するには

#### 概要

メールや記事の編集・表示を行なうメッセージエディタの起動性能を向上させるため、メッセージエディタは標準ではメモリに常駐されています。ただし、この状態ではメッセージエディタを起動していないときのリソース消費量が大きくなります。メッセージエディタの常駐を抑止するには、レジストリを次の方法で指定します。

### 詳細説明

レジストリの設定により、メッセージエディタの常駐を抑止します。

1. ディレクトリ「Windows」の REGEDIT.EXE を起動する
2. HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\HITACHI\Gmax Mail Client\0210\StandbyEditor 下の「MaxReceiveMail」と「MaxNewsView」の値を「0」にする。

この指定により、メッセージエディタの常駐/非常駐を制御するレジストリ情報を設定することができます。設定した情報は、Groupmax Integrated Desktop の「カスタマイズ情報配布機能」で配布することができます。

### 2.6.3 トラブル対処方法

#### (1) [プロパティ]ダイアログボックスが前面に表示されないとき

[プロパティ]ダイアログボックスは、Integrated Desktop のウィンドウの後ろに表示されることがあります。このような場合、フォーカスを移動して[プロパティ]ダイアログボックスを前面に表示し直してください。

#### (2) リストボックスへフォーカスを移動しても表示されないとき

リストボックスへフォーカスを移動しても、リストボックスに明示的にフォーカスが表示されないことがあります。この場合、リストボックス上でマウス操作などをしてフォーカスを移動すると、フォーカスが表示されるようになります。

#### (3) メッセージエディタでツールバーの中のボタンが表示されないとき

##### 現象

メッセージエディタで、文字付きのツールボタンを使用している場合、パーソナルコンピュータによっては、ツールバーの中のボタンが表示されなくなることがあります。

##### 要因と対処方法

次の操作を実行してください。

1. ツールバーをダブルクリック又はドラッグして、メッセージエディタから浮かせる
2. ツールバーが横一列になるように、枠線をドラッグする
3. ツールバーをドラッグして、メッセージエディタに貼り付ける

#### (4) 「Mail (回覧) の一覧取得に失敗しました」というメッセージが表示されたとき

##### 現象

回覧機能なしの設定がされているサーバと接続したときなど、回覧機能が使用できない場合、INBOX や送信ログのすべてのシステムタブを選択して一覧表示すると、次のメッセージが表示されます。

「Mail (回覧) の一覧の取得に失敗しました」

##### 要因と対処方法

このメッセージを表示されないようにするには、[表示] - [表示条件] を選択して、[表示条件の設定] ダイアログボックスで次の条件を設定してください。  
接続:「かつ」、項目:「種別」、値:「Mail (回覧)」、判定:「以外」

## 2. クライアント運用時のノウハウ

### (5) 「送信処理に失敗しました。許可されたサイズを超えています」というメッセージが表示されたとき

Groupmax ではサーバでメールの送信容量を規制できます。送信したメールの本文、宛先及び添付ファイルの容量が送信容量の規制値を超えると次のようなメッセージが表示されます。

「送信処理に失敗しました。許可されたサイズを超えています」

この場合、送信するメールの本文、宛先及び添付ファイルの容量を減らしてから送信し直してください。送信容量の規制値はシステム管理者に確認してください。

### (6) メールが到着しても着信通知されないとき

#### 現象

メールが届いているのに「Mail (個人) 着信監視」アイコンの絵柄が変更されないなど、着信監視のエージェントが動作しないことがあります。

#### 要因と対処方法

次に示す二つの要因が考えられます。

1. [ Groupmax 設定のプロパティ ] ダイアログボックスの設定に問題がある
2. メールが届いて、着信通知される前に INBOX で [ 最新の情報に更新 ] を実行した

以下に対処方法を示します。

#### 1 の対処方法

[ Groupmax 設定のプロパティ ] ダイアログボックスの [ Mail ] タブで次のことをチェックしてください。

- 「着信通知を行う」がチェックされているか  
「着信通知を行う」がチェックされていない場合、「着信通知を行う」をチェックしてください。
- 着信通知方式に「イベント通知」又は「ポーリング」のどちらを指定しているか

着信通知方式が「イベント通知」の場合、メールの監視間隔は 10 分です。メールが届いてもすぐにエージェントは動きません。10 分ごとに動作します。

着信通知方式が「ポーリング」の場合、メールの監視間隔は、Mail クライアントで設定したポーリング間隔です。これは Integrated Desktop 主画面の [ ツール ] - [ Groupmax の設定 ] - [ Mail の設定 ] の [ オプション ] ダイアログボックスの [ 着信監視 ] タブを開くと確認できます。指定した監視間隔で動作するので、メールが届いてもすぐにエージェントは動きません。デフォルトは 30 分です。

#### 2 の対処方法

INBOX を使用しているとき、エージェントで監視するのは、[ 最新の情報に更新 ] を実行した後に届いたメールが対象になります。INBOX で [ 最新の情報に更新 ] を実行すると、メールが届いていても新着の状態ではなくなってしまう、エージェントは動きません。

エージェントが動作しているかを確認するときは、エージェントが動作するまでの間に INBOX で [ 最新の情報に更新 ] を実行しないでください。

## 2.7 掲示板を使用するとき

ここでは、掲示板を操作するときの注意事項及びトラブル対処方法を説明します。記載している項目と記載場所を、表 2-8 に示します。

表 2-8 記載項目と記載場所（掲示板を使用するとき）

種別	記載項目	記載場所
注意事項	添付ファイルを保存前にダブルクリックで開くと、関連付けられたアプリケーションが表示するファイル名と、メッセージエディタが表示するファイル名が異なることがある	2.7.1(1)
	02-31-/B 版以前に保存されたファイルは、作成時の本文モード（リッチテキスト / プレーンテキスト）で表示されないことがある	2.7.1(2)
トラブル対処方法	「掲示に失敗しました。許可されたサイズを超えています」というメッセージが表示されたとき	2.7.2(1)

### 2.7.1 注意事項

**(1) 添付ファイルを保存前にダブルクリックで開くと、関連付けられたアプリケーションが表示するファイル名と、メッセージエディタが表示するファイル名が異なることがある**

メール及び記事の添付ファイルを保存する前にダブルクリックなどで開くと、関連付けられたアプリケーションが表示するファイル名とメッセージエディタが表示するファイル名が異なることがあります。

このとき、メッセージエディタから添付ファイルを保存するときのデフォルトファイル名は、メッセージエディタが表示している名称になります。

**(2) 02-31-/B 版以前に保存されたファイルは、作成時の本文モード（リッチテキスト / プレーンテキスト）で表示されないことがある**

02-31-/B 版より、受信メール、送信済みメール、記事表示画面を表示する場合、そのメール又は記事が作成されたときの本文モード（リッチテキスト / プレーンテキスト）で表示するようになりました。しかし、これらのメッセージタイプのローカルファイルを表示する場合、02-31-/B 版以前に保存されたファイルは、作成時の本文モードで表示されないことがあります。

### 2.7.2 トラブル対処方法

**(1) 「掲示に失敗しました。許可されたサイズを超えています」というメッセージが表示されたとき**

Groupmax ではサーバで記事の掲示容量を規制できます。掲示しようとした記事の容量が掲示容量の規制値を超えると次のようなメッセージが表示されます。

「掲示に失敗しました。許可されたサイズを超えています」

この場合、掲示する記事の本文及び添付ファイルの容量を減らしてから掲示し直してください。掲示容量の規制値はシステム管理者に確認してください。

## 2.8 スケジュールを登録・管理するとき

ここでは、Scheduler を使用してスケジュール作成、変更、表示、予約などをするとき、及び Facilities Manager を使用して施設の予約などをするときの注意事項、知っておきたい機能及びトラブル対処方法を説明します。

記載している項目と記載場所を、表 2-9 に示します。

表 2-9 記載項目と記載場所（スケジュールを登録・管理するとき）

種別	記載項目	記載場所
注意事項	Scheduler の起動時間を短縮したいときは、[ Scheduler Setup ] で設定する	2.8.1(1)
	サービス名かホスト名が正しくないと、Scheduler にログインできない	2.8.1(2)
	起動時に「サーバが見つかりません」というメッセージが出る場合	2.8.1(3)
	[ ツールバーの変更 ] ダイアログボックスで、スクロールバーが使えなくなる場合	2.8.1(4)
	ユーザ情報を変更するときは、クライアントごとに登録する	2.8.1(5)
	2038 年までスケジュール登録ができる	2.8.1(6)
	システムフォントは 125% 未満に設定する	2.8.1(7)
	[ メンバスケジュールの一覧 ] のメンバ名表示ボタンの表示方法	2.8.1(8)
	Facilities Manager の [ 日付選択 ] ダイアログボックスでのダブルクリックは、選択している日付に対して動作する	2.8.1(9)
	[ 週間スケジュール ] ウィンドウのスケジュール領域の要件や略記などは、すべて全角で表示される	2.8.1(10)
	パーソナルコンピュータによっては、Facilities Manager の [ メンバ選択 ] ダイアログボックスや [ グループ編集 ] ダイアログボックスで、グループ名称やメンバ名称がリストボックス内に表示しきれないことがある	2.8.1(11)
	[ アイコン登録内容の変更 ] ダイアログボックスで「アイコンの状態で実行」をチェックしても反映されない	2.8.1(12)
	[ 管理する施設 ] ウィンドウで、マウスの右クリックと左クリックを同時に実行すると、不正動作が発生することがある	2.8.1(13)
	Integrated Desktop と連携している場合	2.8.1(14)
	印刷するときにベクタグラフィックスを設定すると、背景と文字が重なることがある	2.8.1(15)
知っておきたい機能	アラーム機能の使用によるネットワークの負荷を軽減するには	2.8.2(1)
	「行先」の自動セットを設定するには	2.8.2(2)
	スケジュールタグの名称を変更するには	2.8.2(3)
トラブル対処方法	Facilities Manager の [ 予約受信状況一覧 ] ダイアログボックスでタイムアウトが発生するとき	2.8.3(1)
	[ 画面の設定 ] でフルドラッグを設定していて、マウスカーソルがウィンドウの外に出なくなったとき	2.8.3(2)



種別	記載項目	記載場所
	施設検索中にタイムアウトが発生するとき	2.8.3(3)
	[ 予約発信状況一覧 ] ダイアログボックスでタイムアウトが発生するとき	2.8.3(4)

## 2.8.1 注意事項

### (1) Scheduler の起動時間を短縮したいときは、[ Scheduler Setup ] で設定する

#### 概要

Scheduler の起動時間を短縮するために、Scheduler 起動モジュールをスタートアップに登録できます。

#### 詳細説明

Scheduler 起動モジュールをスタートアップに登録する場合は、[ Scheduler Setup ] の「起動モジュールをスタートアップに登録」で「登録する」を選択してください。

また、スタートアップに登録した後、起動モジュールを削除する場合は、[ Scheduler Setup ] の「起動モジュールをスタートアップに登録」で「登録しない」を選択してください。

### (2) サービス名かホスト名が正しくないとき、Scheduler にログインできない

サービス名かホスト名が正しくないと、Scheduler にログインできません。クライアント側の HOSTS ファイル、SERVICES ファイル及びスケジューラセットアップアイコンの内容を確認してください。

### (3) 起動時に「ホスト名が登録されていません。Groupmax Scheduler Client のセットアップを実行して下さい」というメッセージが出る場合

#### 概要

Scheduler をクライアントから起動すると、「ホスト名が登録されていません。Groupmax Scheduler Client のセットアップを実行して下さい」というメッセージが表示され、サーバと接続できないことがあります。

#### 詳細説明

この場合、[ Scheduler Setup ] でサーバ名が設定されていないことが考えられます。[ Scheduler Setup ] ダイアログボックスでサーバ名を指定してください。

### (4) [ ツールバーの変更 ] ダイアログボックスで、スクロールバーが使えなくなる場合

#### 概要

[ ツールバーの変更 ] ダイアログボックスで、「利用できるボタン」の個数によっては、スクロールバーが使えなくなるので注意してください。

#### 詳細説明

[ ツールバーの変更 ] ダイアログボックスで、「利用できるボタン」(「区切り」を除く) が次に示す個数の場合、そのうちから最上位以外に表示されているボタンを「ツールバーのボタン」に追加すると、「利用できるボタン」側のスクロールバーが使えなくなってしまう、更に最上端にある「区切り」がスクロー

## 2. クライアント運用時のノウハウ

ルダウン表示されません。このためマウスだけでは、「区切り」を選択できなくなります。

- 小さい文字なしボタン.....5 個
- 大きい文字なしボタン.....3 個

このような場合にはキーボードの [ ] キーを操作して、「区切り」をスクロールダウンさせてください。なお文字ありボタンの場合は、この問題は発生しません。

### (5) ユーザ情報を変更するときは、クライアントごとに登録する

ユーザ情報の変更で、あるユーザの登録先サーバを変更した場合、その情報は各クライアントのグループファイルに反映されません。グループファイルに反映する場合、各クライアントでそのユーザを再度グループ登録してください。

また、サーバでユーザ管理情報を更新した場合は、クライアントで作成したグループ登録データの中の管理情報が更新されたユーザを、いったん削除して再登録してください。削除・再登録していないと、管理情報が更新されたユーザに対する表示・予約でエラーが発生することがあります。

### (6) 2038 年までスケジュール登録ができる

2038 年まではスケジュール登録できます。2039 年以降の動作は保証できませんので、ご注意ください。

### (7) システムフォントは 125%未満に設定する

システムフォントを 125%以上に設定すると、文字が切れて表示されることがあるので、ご注意ください。

### (8) [メンバスケジュールの一覧]のメンバ名表示ボタンの表示方法

[メンバスケジュールの一覧]のメンバ名表示ボタンの表示方法は次のとおりです。

メンバ名が半角文字の場合、センタリングして表示される

半角文字と半角文字の間に半角スペース又は全角文字が入った場合、ワードラップする

### (9) Facilities Manager の [日付選択] ダイアログボックスでのダブルクリックは、選択している日付に対して動作する

Facilities Manager の [日付選択] ダイアログボックスでは、カレンダー部分の日付表示していない箇所でもダブルクリックが有効です。その場合、そのとき選択されている日付 (黄色の表示) がダブルクリックされたことになります。

### (10)[週間スケジュール] ウィンドウのスケジュール領域の用件や略記などは、すべて全角で表示される

[週間スケジュール] ウィンドウで、スケジュール領域の用件や略記などを半角文字で入力しても、すべて全角文字で表示されます。

- (11) パーソナルコンピュータによっては、Facilities Manager の [ メンバ選択 ] ダイアログボックスや [ グループ編集 ] ダイアログボックスで、グループ名称やメンバ名称がリストボックス内に表示しきれないことがある

パーソナルコンピュータによっては、Facilities Manager の [ メンバ選択 ] ダイアログボックスや [ グループ編集 ] ダイアログボックスで、グループ名称やメンバ名称がリストボックス内に表示しきれないことがあります。

- (12) [ アイコン登録内容の変更 ] ダイアログボックスで「アイコンの状態で実行」をチェックしても反映されない

[ アイコン登録内容の変更 ] ダイアログボックスで「アイコンの状態で実行」をチェックしても反映されません。

- (13) [ 管理する施設 ] ウィンドウで、マウスの右クリックと左クリックを同時に実行すると、不正動作が発生することがある

[ 管理する施設 ] ウィンドウで、マウスの右クリックと左クリックを同時に実行すると、不正動作が発生することがあります。

- (14) Integrated Desktop と連携している場合

Integrated Desktop と連携している場合、[ パスワードの変更 ] ダイアログボックスを表示しているときに、ツールバーのボタンをクリックすると、[ パスワードの変更 ] ダイアログボックスを閉じた後で、クリックしたツールバーのボタンの機能が実行されます。また、ウィンドウを閉じた後、タスクバー上に空のタスクが残ることがあります。そのタスクはクリックすると削除されます。

- (15) 印刷するときにベクタグラフィックスを設定すると、背景と文字が重なることがある

プリンタのプロパティのグラフィックスの設定で、グラフィックスモードをベクタグラフィックスに設定した場合、印刷したときに背景と文字が重なることがあります。この場合、ラスタグラフィックスに設定してください。

### 2.8.2 知っておきたい機能

- (1) アラーム機能の使用によるネットワークの負荷を軽減するには

#### 概要

秘書がいるユーザで、アラーム機能を使用している場合、標準では 10 分間隔でサーバとの通信が実行されています。同時接続ユーザが多い場合、ネットワークの負荷が高くなるおそれがあります。

#### 詳細説明

ネットワークの負荷を軽減するには、アラーム機能を使用しないか、又はサーバとの通信間隔を変更してください。

サーバとの通信間隔を変更するには、インストールディレクトリの Program ディレクトリにある appouenv.ini ファイルに、次の記述を追加してください。なお、単位は分で 1 から 60 の間で定義します。

[Option]

AlmInterval=10

ただし、appouenv.ini ファイルを修正するときには、十分に注意してください。

## 2. クライアント運用時のノウハウ

### (2) 「行先」の自動セットを設定するには

#### 概要

予約する施設のスケジュールからドラッグ入力で [ 予約 ] ウィンドウに遷移したり, [ 予約 ] ウィンドウで予約する施設を選択したりすると, 「行先」に自動的に施設名をセットできます。

#### 詳細説明

自動的に施設名をセットしたい場合, Scheduler Client をインストールしたディレクトリの Program ディレクトリにある appouenv.ini ファイルに, 次の記述を追加してください。

[Option]

IkisakiMode=1

ただし, appouenv.ini ファイルを修正するときには, 十分に注意してください。

### (3) スケジュールタグの名称を変更するには

#### 概要

メンバツリービューから組織名やグループ名をスケジュールタグにドラッグ & ドロップして, スケジュールタグに組織名やグループ名を表示できます。また, タグ部分に表示されている名称を変更することができます。

#### 詳細説明

この機能を利用したい場合, Scheduler Client をインストールしたディレクトリの Program ディレクトリにある appouenv.ini ファイルに, 次の記述を追加してください。

[Option]

IsTabLabelDispName=1

ただし, appouenv.ini ファイルを修正するときには, 十分に注意してください。

## 2.8.3 トラブル対処方法

### (1) Facilities Manager の [ 予約受信状況一覧 ] ダイアログボックスでタイムアウトが発生するとき

#### 現象

予約受信スケジュール件数が増えると, [ 予約受信状況一覧 ] ダイアログボックスでレスポンスが悪くなり, タイムアウトが発生する場合があります。

#### 要因と対処方法

Facilities Manager をインストールしたディレクトリの Program ディレクトリにある Roomuenv.ini ファイルに次の記述を追加してください。

[Option]

IsOutSendNew=0

### (2) [ 画面の設定 ] でフルドラッグを設定していて, マウスカーソルがウィンドウの外に出なくなったとき

#### 現象

コントロールパネルの [ 画面の設定 ] で、フルドラッグを設定している場合、[ 管理する施設 ] ウィンドウや [ 予約する施設 ] ウィンドウをリサイズすると、マウスカーソルがウィンドウの外に出なくなることがあります。

### 要因と対処方法

Windows ディレクトリの下に APPOAREA.INI ファイルに次の記述を追加してください。

[Resize]

IniDlg=0

なお、リサイズ実行後は、必ず [ F5 ] キーを押して画面を再表示してください。

### (3) 施設検索中にタイムアウトが発生するとき

#### 現象

施設検索中に、サーバが混み合っているなどの原因でタイムアウトすることがあります。

#### 要因と対処方法

Windows ディレクトリの下に appomous.ini ファイルに、次に示す設定例を参考にしてタイムアウト時間を設定してください。なお、appomous.ini ファイルがない場合には、空のファイルを作成してください。タイムアウト時間が未設定の場合は 60 秒が仮定されます。

< 設定例 >

タイムアウト時間に 120 秒を設定する場合

[APPOEG32]

timeout=120

### (4) [ 予約発信状況一覧 ] ダイアログボックスでタイムアウトが発生するとき

#### 現象

Facilities Manager と Scheduler を連動で、予約発信スケジュール件数が増えると、[ 予約発信状況一覧 ] ダイアログボックスでレスポンスが悪くなり、タイムアウトエラーが発生することがあります。

#### 要因と対処方法

Scheduler をインストールしたディレクトリの Program ディレクトリにある appouenv.ini ファイルに、次の記述を追加してください。

[Option]

IsRsvSendNew=0

## 2.9 共用キャビネット（文書管理）を使用するとき

ここでは、共用キャビネット（Document Manager）を使用するときの注意事項、知っておきたい機能及びトラブル対処方法を説明します。

記載している項目と記載場所を、表 2-10 に示します。

表 2-10 記載項目と記載場所（共用キャビネット（文書管理）を使用するとき）

種別	記載項目	記載場所
注意事項	共用キャビネットの文書をローカルディスクに [ Shift ] キーを押しながらドラッグ & ドロップしようとする時、マウスポインタが移動を表す形状になる	2.9.1(1)
	共用キャビネットの文書を利用して新規メールや新規記事を作成する場合、文書内のファイルの 25 個目以降は無効になる	2.9.1(2)
	リッチテキスト・捺印データをサポートしていないバージョンの Document Manager Client ( 02-20 版以前 ) との互換性	2.9.1(3)
	ユーザ定義属性が多量だったり、長い文字列を使用していると、「メモリ不足のため、一部表示できませんでした」というメッセージが表示されることがある	2.9.1(4)
	エクスプローラやアプリケーションなどで直接、作業領域にファイルを追加・削除したり、ファイル名を変更したりしない	2.9.1(5)
	URL 作成機能を使用するときの注意事項	2.9.1(6)
	レジストリで、サーバとのファイル転送用ディレクトリは NetWare サーバ上に設定しない	2.9.1(7)
	コピー元文書がリンクしている分類索引を継承する指定をしても、サーバの設定がクライアントの指定に従う設定になっていない場合は無視される	2.9.1(8)
	統合セットアップでユーザを削除する場合、削除するユーザの作業中文書がないことを確認してから、削除する	2.9.1(9)
	目的別一覧の [ 表示条件の設定 ] ダイアログボックスで固定長文字型の項目に条件を指定する場合の注意事項	2.9.1(10)
	ツールバーのボタンは「区切り」を含めて 509 個以下にする	2.9.1(11)
	折り畳んで表示する機能を利用する場合の注意事項	2.9.1(12)
	フォーム文書の添付ファイルを複写する場合、複写先にルートディレクトリ及び相対パスを指定しない	2.9.1(13)
	共用キャビネットの分類索引ウィンドウで、下位の文書をすべて表示メニューを選択した文書一覧からリンクの削除を行う場合の注意事項	2.9.1(14)
	文書の新規作成およびサーバへ保存時の全文検索登録チェックボックスの使用方法	2.9.1(15)
	Integrated Desktop と Millemasse を併用して使用する場合の注意事項	2.9.1(16)
知っておきたい機能	目的別一覧表示で折り畳んで表示する機能を使う場合に、前回表示したデータを使って一覧表示をするには	2.9.2(1)
	フォーム文書データベースのサンプルを使用する場合	2.9.2(2)

種別	記載項目	記載場所
トラブル対処方法	フォーム文書の目的別一覧表示が崩れたとき	2.9.3(1)
	目的別一覧定義を追加したはずなのに表示されないとき	2.9.3(2)

### 2.9.1 注意事項

**(1) 共用キャビネットの文書をローカルディスクに [ Shift ] キーを押しながらドラッグ & ドロップしようとする時、マウスポインタが移動を表す形状になる**

共用キャビネットの文書をローカルディスクに [ Shift ] キーを押しながらドラッグ & ドロップしようとする時、マウスポインタが移動を表す形状になりますが、実際は移動ではなく、文書がコピーされます。

**(2) 共用キャビネットの文書を利用して新規メールや新規記事を作成する場合、文書内のファイルの 25 個目以降は無効になる**

共用キャビネットの文書を OUTBOX に格納して新規メールを作成するとき、その文書に含まれるファイルが 25 個以上ある場合、25 個目以降は添付ファイルとして設定されません。また、共用キャビネットの文書を掲示板に格納して新規記事を作成するときも、その文書に含まれるファイルが 25 個以上ある場合、25 個目以降は添付ファイルとして設定されません。

**(3) リッチテキスト・捺印データをサポートしていないバージョンの Document Manager Client ( 02-20 版以前 ) との互換性**

**概要**

リッチテキスト及び捺印データをサポートしていないバージョンの Document Manager Client ( 02-20 版以前 ) ではフォーム文書にファイルを添付する機能に差異があります。

**詳細説明**

リッチテキスト及び捺印データをサポートしていないバージョンの Document Manager Client ( 02-20 版以前 ) の差異を次に示します。

- 02-20 版以前の Document Manager Client では、フォーム文書を参照する場合、添付ファイルに 02-30 版以降の Document Manager Client で登録した docmancl.rtd ファイルが含まれることがあります。このファイルは、リッチテキスト・捺印データファイルなので、更新・削除しないでください。
- 02-20 版以前の Document Manager Client で、domancl.rtd という添付ファイルを含むフォーム文書が登録されている場合、02-30 版以降では、そのフォーム文書を開くと、エラー ( GDMCE\_FILEVERSIONERROR ( 6073 ) ) になります。docmancl.rtd という名前の添付ファイルが既にある場合、あらかじめ名前を変えておくことをお勧めします。
- 02-30 版以降では、domancl.rtd という添付ファイルを含むフォーム文書を登録しようとする時、エラー ( GDMCE\_INVALIDFILENAME ( 6083 ) ) になります。

## 2. クライアント運用時のノウハウ

### (4) ユーザ定義属性が多量だったり、長い文字列を使用していると、「メモリ不足のため、一部表示できませんでした」というメッセージが表示されることがある

ユーザ定義属性が多量だったり、長い文字列を使用していると、「メモリ不足のため、一部表示できませんでした」というメッセージが表示されることがあります。

### (5) エクスプローラやアプリケーションなどで直接、作業領域にファイルを追加・削除したり、ファイル名を変更したりしない

#### 概要

エクスプローラやアプリケーションなどで直接、作業領域にファイルを追加・削除したり、ファイル名を変更したりしないでください。

ファイルを追加・削除したり、ファイル名を変更する場合は、[ファイル] - [ファイル一覧] ダイアログボックスで指定してください。

#### 詳細説明

エクスプローラやアプリケーションでファイル名を変更したり、削除した場合、Document Manager Client が認識できない状態になるため、文書を開いたり、サーバへ保存するときに、「サービスプロセスで入出力エラーが発生しました」や「指定したファイルが見つかりませんでした」というメッセージが出力されます。メッセージが出力されたときは、いったん [作業中文書] フォルダまたは [作業中文書一覧] ダイアログボックスから、該当する文書の [ファイル一覧] ダイアログボックスを開いたあと、作業を続けてください。

### (6) URL 作成機能を使用するときの注意事項

#### 概要

URL 作成機能を使用するときで、次の条件に当てはまる場合は注意が必要です。

- 文書ファイルに半角片仮名が含まれている場合
- GroupInfoshare/Gateway でダウンロードする場合
- 文書ファイル名に半角スペースが含まれている場合

#### 詳細説明

URL 作成機能を使用する場合の注意事項を次に示します。

- 文書ファイルに半角片仮名が含まれている場合  
対象となる文書ファイルの名称に半角片仮名が含まれると、文字コードの自動判定ができなくなるので、指定したファイルの表示、及びダウンロードができない場合があります。
- GroupInfoshare/Gateway でダウンロードする場合  
GroupInfoshare/Gateway では、ロングファイル名が使用できません。  
GroupInfoshare/Gateway の機能を使用してダウンロードする文書中のファイル名称は、「ファイル名 (8 バイト) + 拡張子 (3 バイト)」の範囲内で指定してください。
- 文書ファイル名に半角スペースが含まれている場合  
対象となる文書ファイルの名称に半角スペースが含まれると、使用する WWW ブラウザによっては、ファイル名称を正確に解析できません。そのため、文書ファイルの表示及びダウンロードができない場合があります。



- (7) レジストリで、サーバとのファイル転送用ディレクトリは NetWare サーバ上に設定しない  
レジストリで、サーバとのファイル転送用ディレクトリは NetWare サーバ上に設定しないでください。

ファイル転送用のディレクトリの設定に使用するキーは次のとおりです。

サブキー：HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥Gmax DocMan  
Client¥0210

値：WorkPathNameOnClient

なお、この値のデフォルト値は「インストールディレクトリ ¥DocMan¥Temp」です。

- (8) コピー元文書がリンクしている分類索引を継承する指定をしても、サーバの設定がクライアントの指定に従う設定になっていない場合は無視される

コピー元文書がリンクしている分類索引を継承する指定を [ Document Manager の設定 ] ダイアログボックスでしていても、サーバの設定がクライアントの指定に従う設定になっていない場合、無視されます。

- (9) 統合セットアップでユーザを削除する場合、削除するユーザの作業中文書がないことを確認してから、削除する

統合セットアップでユーザを削除する場合、削除するユーザの作業中文書がないことを確認してから、削除してください。

- (10) 目的別一覧の [ 表示条件の設定 ] ダイアログボックスで固定長文字型の項目に条件を指定する場合の注意事項

目的別一覧の [ 表示条件の設定 ] ダイアログボックスで項目が固定長文字型の場合、判定に次のどちらかを指定すると、値は 126 バイトまでしか指定できません。

「を含む」

「からはじまる」

- (11) ツールバーのボタンは「区切り」を含めて 509 個以下にする

[ 分類索引 ] ウィンドウ及び [ 文書データベース管理 ] ウィンドウ、分類索引帳エディタで、ツールバーのボタンは「区切り」を含めて 509 個以下に設定してください。510 個以上設定すると、再度画面を開いたとき、ツールバーが初期状態に戻ります。

- (12) 折り畳んで表示する機能を利用する場合の注意事項

折り畳んで表示する機能を利用する場合は、次の点に注意してください。

重複排除の表示項目に対応する属性値には必ずデータを入力してください。

データが入力されていない属性は無効とみなされ、その文書は表示されません。例えば、Form で文書を編集するときにデータの入力がないと文書を登録できないようにすると、データのない文書の登録を防げます。

なお、既に作成されている文書に属性値が入力されていない場合は、編集モードで開いてデータを入力して再登録するか、折り畳んで表示しない形式にすると、その文書を表示できます。

階層の表示項目がある目的別一覧では、応答文書の元の文書を削除すると応答

## 2. クライアント運用時のノウハウ

文書も表示されません。表示したい場合は、階層の表示項目が定義されていない目的別一覧で表示するか、折り畳んで表示しない形式にしてください。

重複排除の表示項目だけが定義された目的別一覧では、文書のアイコンや文書が特定できる情報が表示されずに空白行になります。文書のアイコンや文書が特定できる情報を表示するには、目的別一覧定義に重複排除以外の表示項目を追加してください。

### (13) フォーム文書の添付ファイルを複写する場合、複写先にルートディレクトリ及び相対パスを指定しない

フォーム文書の添付ファイルを複写する場合、複写先にルートディレクトリを指定するとエラーになります。また、相対パスを指定しても正しいパスに複写されません。

### (14) 共用キャビネットの分類索引ウィンドウで、下位の文書をすべて表示メニューを選択した文書一覧からリンクの削除を行う場合の注意事項

共用キャビネットの分類索引ウィンドウで、「下位の文書をすべて表示」メニューを選択した文書一覧からリンクの削除を行う場合、選択している分類へのリンクのみが削除されます。選択している分類の下位分類へのリンクは、文書一覧上からは削除されますが、サーバ上からは削除されません。文書一覧から削除された文書は、「最新の情報に更新」メニューにより表示することができます。

### (15) 文書の新規作成およびサーバへ保存時の全文検索登録チェックボックスの使用方法

文書の新規作成およびサーバへ保存時の [全文検索登録] チェックボックスは、全文検索をするためのテキストファイルを、Document Manager サーバへ文書を新規作成及び保存すると同時に、全文検索サーバに登録するか否かを選択するためのものです。新規作成および保存する文書を全文検索の対象とするか否かを選択するものではありません。

このため、[全文検索登録] チェックボックスを選択していない時にも、Document Manager サーバの AP 情報管理ファイルでテキストファイルの指定をしている場合は、「テキストファイルがありません。」の旨の警告メッセージが出力されます。新規作成する文書を全文検索の対象にたくない場合は、全文検索連携していない文書データベースを選択してください。文書の保存時やシステム文書データベースに全文検索連携の指定をされていて全文検索連携していない文書データベースがない場合、警告メッセージを抑止したいときは、ユーザプロファイルの [ConfirmMessage] セクションの NewDocOnClient または UpdateDocOnClient、(DDE 使用時は NewDocOnDde または UpdateDocOnDde) の値を 0 に変更してください。

### (16) Integrated Desktop と Millemasse を併用して使用する場合の注意事項

Integrated Desktop と Millemasse を併用して使用する場合は、Millemasse が Integrated Desktop とは異なる作業中文書格納ディレクトリを使用するために、Document Manager Client Development Kit の作業中文書格納ディレクトリのレジストリ設定を Integrated Desktop とは異なるパスに設定して、使用してください。作業中文書格納ディレクトリの設定に用いるキーは以下の通りです。

サブキー：HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥Gmax DocMan Client¥0210

Integrated Desktop の値：WorkPathNameOnClient

Document Manager Client Development Kit の値 (Millemasse が使用)：  
WorkPathNameOnDevKit

なお、上記レジストリを設定した場合でも、Integrated Desktop と Millemasse で同一文書を同時に操作しないでください。

### 2.9.2 知っておきたい機能

#### (1) 目的別一覧表示で折り畳んで表示する機能を使う場合に、前回表示したデータを使って一覧表示するには

##### 概要

折り畳んで表示する機能を使う場合、目的別一覧を切り替えるときや別のフォーム文書データベースに切り替えるとき、前回表示したデータを使うかどうかを設定できます。

前回表示したデータを使って一覧表示をする設定にすると、目的別一覧を切り替えるときの表示性能が向上することがあります。ただし、サーバからデータを取得していないので、最新データと不一致になることがあります。サーバの最新データを表示したい場合、メニューバーの [表示] - [最新の情報に更新] で表示を更新します。

##### 詳細説明

前回の表示データを使うかどうかの設定は、レジストリエディタで次に示すサブキーの値を設定します。なお、この設定を有効にするには、パーソナルコンピュータを再起動する必要があります。

サブキー：HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥Gmax DocMan Client¥0210

値：ViewCacheRead

データ：0... サーバからデータを取得して一覧表示する (デフォルト値)  
：1... 前回の表示データを使用して一覧表示する

#### (2) フォーム文書データベースのサンプルを使用する場合

##### 概要

フォーム文書データベースには、データベース作成時の各種定義操作を簡略化するためのサンプルがあります。サンプルは、フォーム文書データベースを新規に作成する際に、サンプル名を選択して利用することができます。

##### 詳細説明

サンプルの種類と必要な画面サイズを表 2-11 に示します。

表 2-11 に示す画面サイズより小さい画面でフォーム文書を表示した場合、[キャンセル] ボタンや [終了] ボタンなどが画面内に表示されないため、フォーム文書を閉じられないことがあります。その場合、[Alt] + [F4] を押して、フォーム文書を閉じてください。

## 2. クライアント運用時のノウハウ

表 2-11 サンプルの種類と画面サイズ

該当画面	画面サイズ(横*縦)
Q&A(対話式) 2	800 * 600
ディスカッション 2	
ディスカッション 3	
一問一答	
営業支援	
議事録 2	1024 * 768
業務日報 2	800 * 600
出張報告 2	
連絡 2	

注 Form のエディタでフォーム文書を HTML 変換すると、Web 環境で使えるサンプルになります。ただし、一部のボタン([コメント作成]や[キャンセル])は使えません。

### 2.9.3 トラブル対処方法

#### (1) フォーム文書の目的別一覧表示が崩れたとき

##### 現象

目的別一覧表示をしている状態で、コントロールパネルの[画面]をダブルクリックして表示される[画面のプロパティ]ダイアログボックスでフォントを変更すると、目的別一覧表示が崩れます。ただし、動作に問題はありません。

##### 要因と対処方法

次のどれかの操作をしてください。

- 別のフォルダを選択してから、もう一度同じフォーム文書データベースを選択する
- メニューバーの[表示] - [最新の情報に更新]を選択する
- メニューバーの[表示] - [目的別一覧]で別の目的別一覧を選択する

#### (2) 目的別一覧定義を追加したはずなのに表示されないとき

##### 現象

目的別一覧定義を追加した後、フォーム文書データベースのプロパティをいったん閉じて再度開くと、追加したはずの目的別一覧定義が表示されないことがあります。

##### 要因と対処方法

この場合は、フォーム文書データベース修復ツール(GDMCFDR.exe)を実行してください。修復ツールはインストールディレクトリ¥DocMan¥PROGRAMの下にあります。修復ツールの使い方は、同じディレクトリにインストールされているGDMCFDR.txtを参照してください。

また、フォーム文書データベース修復ツールは、目的別一覧が追加されているかどうかを確認したい場合にも有効です。

## 2.10 ワークフロー案件を登録・処理するとき

ここでは、ワークフロー案件を登録及び処理するときの注意事項及び知っておきたい機能を説明します。

記載している項目と記載場所を、表 2-12 に示します。

表 2-12 記載項目と記載場所（ワークフロー案件を登録・処理するとき）

種別	記載項目	記載場所
注意事項	Form で同報中のワークフロー案件を処理する場合、更新処理はしない	2.10.1(1)
	Form でワークフロー案件を処理する場合、案件を統合ノードでマージしない	2.10.1(2)
	ワークフローを監視するクライアント着信監視エージェントは一つだけ	2.10.1(3)
	ワークフロー案件に添付したファイルの名称の一部の文字が " ~ " に変換される	2.10.1(4)
知っておきたい機能	ワークフロー案件の「履歴」情報で、「処理内容」の表示文字列をレジストリで変更するには	2.10.2(1)
	[ ユーザ属性の設定 ] ダイアログボックスでケース名を特定していなくても表示するユーザ属性を指定できるようにするには	2.10.2(2)
	サーバの無応答監視時間を変更するには	2.10.2(3)
	ログインの種別として後着優先の運用をするには	2.10.2(4)
	ワークフロー案件の次の作業者を選択する画面のサイズや表示状態を変更するには	2.10.2(5)
	ワークフローサーバへログイン済みのユーザが、サーバとの接続が切断された場合に、再接続を試みずにエラーリターンさせるには	2.10.2(6)

### 2.10.1 注意事項

#### (1) Form で同報中のワークフロー案件を処理する場合、更新処理はしない

Form で同報中のワークフロー案件を処理する場合、更新処理はしないでください。同報中のワークフロー案件を更新処理する場合は、複写ノードでビジネスプロセス定義を構築するようにしてください。また複写した案件を1つにまとめる必要がある場合は、統合ノードは使用しないでください。

#### (2) Form でワークフロー案件を処理する場合、案件を統合ノードでマージしない

Form をご使用の場合、複数のケースをまとめるために統合ノードを使用することは避けてください。統合ノードを使用した場合、統合前のそれぞれのケースに添付されている情報は統合後に取得できなくなります。

複写した案件などの複数のケースを待ち合わせ、必要な情報を取得した後に不要となったケースは、分割ノードとシンクノードを使用することで削除してください。

## 2. クライアント運用時のノウハウ

### (3) ワークフローを監視するクライアント着信監視エージェントは一つだけ

エージェント連携では、ワークフローを監視するクライアント着信監視エージェントは、一つだけ起動できます。

### (4) ワークフロー案件に添付したファイルの名称の一部の文字が " ~ " に変換される

ワークフロークライアント Version 6 では、ワークフローサーバの環境設定により、Version 5 までファイル名に使用できなかった半角スペース、全角スペース及びシフト J I S コードの 0xF040 ~ 0xFCFC までの外字と漢字コードが使用できるようになります。ファイル名にこれらのコードが含まれるファイルをワークフロー案件に添付して Version 6 より古いクライアントでその案件を開くと、これらのコードは " ~ " に変換されます。サーバの環境設定については「システム管理者ガイド」環境設定ユーティリティの「添付ファイル名称チェック指定」を参照してください。

## 2.10.2 知っておきたい機能

### (1) ワークフロー案件の「履歴」情報で、「処理内容」の表示文字列をレジストリで変更するには

ワークフロー案件の「履歴」情報で「処理内容」の表示文字列を変更するには、レジストリを次のように設定します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥Gmax Desktop Client¥0210¥  
WfEdit¥History¥ データの名前 = 任意の表示文字列
```

ただし、このレジストリで変更できる文字列は履歴ダイアログボックス内だけで有効です。表示文字列を変更しても、ヘルプなどの表記には反映されません。

レジストリに設定できるデータの名前とそれに対応するデフォルトの表示文字列を、表 2-13 に示します。

表 2-13 レジストリに設定できるデータの名前とデフォルトの表示文字列

データの名前	デフォルトの表示文字列
PUT_CASE	案件投入
GO_CASE	案件送付
CONSULT	相談
ANSWARE	回答
SEND_BACK	差し戻し
TAKE_BACK	引き戻し
FROM_ROLE	ユーザトレーヘ
TO_ROLE	ロールトレーヘ
TO_USER	振替
SUSPEND	遷移中断
RESUME	遷移再開
CANCEL	キャンセル
MOVE_CASE	遷移
ERROR	遷移エラー
END_CASE	遷移終了
REMOVE_CASE	再送
CONNECT_BP	連携開始

データの名前	デフォルトの表示文字列
GOTO_EXT	連携成功
PUT_CASE_FROM_BP	連携投入
SEND_BACK_TO_BP	連携差戻
CONNECT_WF	他システムへ送付開始
CONNECTED	他システムへ送付成功
PUT_CASE_ADD_INF	他システムから投入

### (2) [ ユーザ属性の設定 ] ダイアログボックスでケース名を特定していなくても表示するユーザ属性を指定できるようにするには

#### 概要

[ ユーザ属性の設定 ] ダイアログボックスで、ケース名を特定していなくても表示するユーザ属性を指定できます。

#### 詳細説明

この機能を使用する場合、次に示すレジストリを設定してください。

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥Gmax Client¥0210¥Users¥  
ユーザ ID¥Workflow  
AllCaseAttrList = ON

ただし、一つの案件に複数のケースがあり、その中と同じ名称の属性が複数存在する場合、一覧上に表示する値は保証されません。正しく表示するにはケース名を特定してください。

### (3) サーバの無応答監視時間を変更するには

#### 概要

ワークフローサーバの無応答時間を監視します。ワークフローサーバにアクセスを要求してから指定された時間ワークフローサーバより応答が無い場合、要求はエラーリターンします。監視時間として、セッション共有の場合は10分、セッション非共有の場合は60分がデフォルト値になっています。

#### 詳細説明

次に示す操作で、監視時間を変更できます。

[ Workflow Client 環境設定 ] を起動し、[ Groupmax Workflow Client 環境設定のプロパティ ] ダイアログボックスを表示する  
[ Groupmax Workflow Client 環境設定のプロパティ ] ダイアログボックスで  
[ サーバ監視時間 ] タブを選択する  
無応答監視時間を設定する

#### 注意

取得する情報量や回線の状態により、サーバからの応答が遅くなくことがあります。サーバ応答監視時間オーバーで頻繁にアクセス要求がエラーリターンしないように十分考慮してサーバ無応答監視時間を設定してください。

### (4) ログインの種別として後着優先の運用をするには

#### 概要

ワークフローサーバにログイン済みの状態となっているユーザ ID を指定してロ

## 2. クライアント運用時のノウハウ

ログインの要求がなされる場合が有ります。この場合、ログイン済みの状態を優先して要求を却下する（先着優先）運用と、新たなログイン要求を有効として既存の接続を終了する（後着優先）運用を選択する事ができます。デフォルトでは先着優先である「先着ログイン」が設定されています。

### 詳細説明

次に示す操作で、ログインの種別を変更できます。

[ Workflow Client 環境設定 ] を起動し, [ Groupmax Workflow Client 環境設定のプロパティ ] ダイアログボックスを表示する

[ Groupmax Workflow Client 環境設定のプロパティ ] ダイアログボックスで

[ ログイン種別 ] タブを選択する

ログイン種別を設定する

### 注意

Groupmax Workflow Server の環境設定で、「再ログイン」に「Client」が設定されている場合のみ有効です。

## (5) ワークフロー案件の次の作業員を選択する画面のサイズや表示状態を変更するには

### 概要

ワークフローの案件処理において、以下に示す作業員を選択する画面のサイズやシステム宛先の表示状態を変更する事ができます。

- 次ノード処理ユーザ
- 相談先ユーザ
- 振り替えユーザ

デフォルトでは、画面サイズに「小」が、システム宛先の表示状態に「展開する」が設定されています。

### 詳細説明

次に示す操作で、ログインの種別を変更できます。

[ Workflow Client 環境設定 ] を起動し, [ Groupmax Workflow Client 環境設定のプロパティ ] ダイアログボックスを表示する

[ Groupmax Workflow Client 環境設定のプロパティ ] ダイアログボックスで

[ 候補者選択画面 ] タブを選択する

画面サイズ、システム宛先の表示状態を設定する

## (6) ワークフローサーバへログイン済みのユーザが、サーバとの接続が切断された場合に、再接続を試みずにエラーリターンさせるには

### 概要

通信回線上的問題やワークフローサーバの一時停止などでワークフローサーバとの接続が切れている場合、自動的にワークフローサーバとの接続を回復するかどうか設定できます。

デフォルトでは自動的にワークフローサーバとの接続を回復する「再接続」が設定されています。

### 詳細説明

次に示す操作で、サーバとの自動再接続の有無を設定できます。



## 2. クライアント運用時のノウハウ

[ Workflow Client 環境設定 ] を起動し , [ Groupmax Workflow Client 環境設定のプロパティ ] ダイアログボックスを表示する  
[ Groupmax Workflow Client 環境設定のプロパティ ] ダイアログボックスで  
[ 再接続 ] タブを選択する  
再接続として「再接続する」又は「エラーリターンする」を設定する

### 注意

サーバとの接続が切断されている場合は再接続を試みるための時間が必要となり、接続が維持されている時と比べて、クライアントからの処理要求が完了するまでに時間を要します。なお、サーバとの再接続を行わない設定においてサーバとの接続が切断された場合は、アプリケーションプログラムを一旦終了させログインからやり直してください。

## 2.11 電子帳票を利用するとき

ここでは、Form を利用して作成した電子帳票を操作するときの注意事項，知っておきたい機能及びトラブル対処方法を説明します。

記載している項目と記載場所を，表 2-14 に示します。

表 2-14 記載項目と記載場所（電子帳票を利用するとき）

種別	記載項目	記載場所
注意事項	Groupmax のパスワードを変更したとき，フォーム伝票の捺印はどうか	2.11.1(1)
	フォームのファイル（伝表，書式，手順）を以前のバージョンの Form Client で使用できるか	2.11.1(2)
	Form で作成したメニュー定義は以前のバージョンの 16 ビット版の Form では動作しない	2.11.1(3)
	オフライン接続中はログイン中のユーザ情報の一部が取得できない	2.11.1(4)
	伝票定義時に使用したフォントが，伝票実行時に組み込まれていないときは組み込まれているフォントで処理される	2.11.1(5)
	ローカルデータベースの内容を同時に更新しないこと	2.11.1(6)
	伝票ファイルから外部データベースに登録する値が NULL やスペースであるかどうか	2.11.1(7)
	データベース処理では特殊扱いされ，条件式で使用できなくなる文字があるので注意する	2.11.1(8)
	ローカルデータベースに対してレコードの更新又は追加実行中にファイルが未クローズ状態になったときは，そのままの状態で業務を続行しない	2.11.1(9)
	電子印のパスワードを忘れたときの処置について	2.11.1(10)
	Workflow 帳票棚の伝票のダウンロードはファイルの更新日時によって決まる	2.11.1(11)
	Document Manager のフォーム文書データベースに日付を含んだ伝票を登録する場合は，日付を指定できる範囲内で指定する	2.11.1(12)
	Document Manager のフォーム文書データベースの日付型に何も入力していないとデフォルト値が仮定される	2.11.1(13)
	小数を含んだ伝票データを Document Manager のフォーム文書データベースに登録すると，小数点以下は切り捨てられる	2.11.1(14)
	Form と Document Manager のフォーム文書データベースの属性には項目属性に違いがある	2.11.1(15)
	共用キャビネットに添付ファイル付き文書を登録するには，AP 情報管理ファイルの設定を変更する	2.11.1(16)
共用キャビネットに文書の作成者名を登録するには，AP 情報管理ファイルの設定を変更する	2.11.1(17)	
知っておきたい機能	伝票のメモリ常駐を解除するには	2.11.2(1)
	フォーム画面の表示倍率を変更するには	2.11.2(2)

## 2. クライアント運用時のノウハウ

種別	記載項目	記載場所
	コマンドラインで伝票を起動する場合のパラメタファイルの指定方法	2.11.2(3)
	Form で使用する年の、西暦 2000 年代の範囲を設定するには	2.11.2(4)
	外部データベースの更新を確定させる「自動コミット」及び「終了時の自動コミット」を使用するときと使用しないとき	2.11.2(5)
	ダブルクリック操作で電子印を読み込むには	2.11.2(6)
	Form Client だけがインストールされている場合での電子印のパスワード変更について	2.11.2(7)
	添付ファイル操作ダイアログボックスで添付ファイルを実行しても「更新」状態に変更しない方法は	2.11.2(8)
	Workflow 帳票棚の伝票を、ダウンロードされる前にユーザに配布するには	2.11.2(9)
	共用キャビネットの添付ファイル付き文書を、添付ファイルと同時に起動するには	2.11.2(10)
	帳票印刷時に白紙を出力させないようにするには	2.11.2(11)
トラブル対処方法	伝票の定義でアプリケーションエラーが発生するとき	2.11.3(1)
	伝票の新規作成ができないとき	2.11.3(2)
	Form Client の最新バージョンをインストールしたのに、ヘルプが最新にならないとき	2.11.3(3)
	「@ 外部呼出」で、存在する DLL を呼び出すと「DLL がありません」というメッセージが表示されるとき	2.11.3(4)
	INBOX から案件を表示しようとしたら「ファイルパスが見つかりません」というメッセージが表示されたとき	2.11.3(5)
	サブノードからワークフロー案件として伝票を投入しようとしたら「指定ノードからは新規 ID は指定できません」というメッセージが表示されたとき	2.11.3(6)
	伝票をワークフロー案件として投入しようとしたら「指定されたビジネスプロセスに案件を投入できません」というメッセージが表示されたとき	2.11.3(7)
	伝票をワークフロー案件として投入しようとしたら「データメモのサイズが上限を超えました」というメッセージが表示されたとき	2.11.3(8)
	INBOX でワークフロー案件にデータを入力しようとしたら「案件処理中でない場合は使用できないコマンドです」というメッセージが表示されたとき	2.11.3(9)
	共用キャビネットに文書を登録しようとしたら「TS サーバが使用できません」というメッセージが表示されたとき	2.11.3(10)
	プリンタドライバのバージョン変更後に印刷に関する操作でメモリ不足になったとき	2.11.3(11)
	伝票が、設定した用紙サイズで印刷されないとき	2.11.3(12)
	伝票が起動できないとき	2.11.3(13)
	印刷情報に設定したプリンタから印刷できないとき	2.11.3(14)
	伝票の印刷を実行するとアプリケーションエラーになるとき	2.11.3(15)

## 2. クライアント運用時のノウハウ

### 2.11.1 注意事項

#### (1) Groupmax のパスワードを変更したとき、フォーム伝票の捺印はどうか

##### 概要

電子印の認証に Groupmax Address Server を使用しない形式の電子印で、Groupmax のパスワードを変更した場合、捺印のためのパスワードに Groupmax のパスワードと同じ文字列を指定していると捺印できません。電子印の認証に Groupmax Address Server を使用する形式の電子印では、Groupmax のパスワードを変更した場合、変更したパスワードになり、そのパスワードで捺印できます。

##### 詳細説明

アドレス機能でパスワードを変更した場合、電子印の認証に Groupmax Address Server を使用しない形式の電子印では伝票の捺印で次のどちらかを指定していると捺印のパスワードも変更しなければ捺印できません。

- 「@ 捺印」コマンドでユーザ ID に ¥GUSERID、パスワードに ¥GPASSWORD をそれぞれ指定している
- 捺印項目で「ログイン中のユーザ ID・パスワードで捺印する」を指定している

これは、ここで指定したユーザ ID 及びパスワードと、捺印定義ファイルのユーザ ID 及びパスワードが一致しなくなるためです。

この場合、捺印できない旨のメッセージが表示されてから、ユーザ ID 及びパスワードの再入力ダイアログボックスが表示されます。ここで、捺印定義ファイルのユーザ ID 及びパスワードを入力すれば捺印できるようになります。

上記の二つの指定をしていなければ、アドレス機能の情報に関係なく、捺印定義ファイルのユーザ ID 及びパスワードで捺印できます。

#### (2) フォームのファイル（伝表、書式、手順）を以前のバージョンの Form Client で使用できるか

##### 概要

基本的に、フォームのファイル（伝表、書式、手順）は以前のバージョン（以降、下位バージョンと呼びます）との互換性はありません。

##### 詳細説明

フォームのファイル（伝表、書式、手順）は下位バージョンとの互換性はありません。

上位バージョンで作成したファイルを下位バージョンで実行した場合、上位バージョンの新規機能が設定されている場合は起動できません。

#### (3) Form で作成したメニュー定義は以前のバージョンの 16 ビット版の Form では動作しない

32 ビット版の Form で作成したメニュー定義は、16 ビット版の Form では動作しないので注意してください。

**(4) オフライン接続中はログイン中のユーザ情報の一部が取得できない**

**概要**

Groupmax にオフラインで接続中は、Groupmax にログイン中のユーザ情報の一部が取得できないので注意してください。

**詳細説明**

Groupmax にオフラインで接続中は、Groupmax にログイン中のユーザ情報のうち、次に示す情報のみが取得できます。

- ¥GUSERID：ユーザのユーザ ID
- ¥GPASSWORD：ユーザのパスワード

例えば、オフラインで接続中に「@ ログインチェック」コマンドをニックネーム指定で実行すると、実行結果は Groupmax にログインしているユーザのニックネームとは一致しないので注意してください（この場合、コマンドの結果受取項目には「1」が設定されます）。

**(5) 伝票定義時に使用したフォントが、伝票実行時に組み込まれていないときは組み込まれているフォントで処理される**

伝票発行機能で定義時に使用したフォントが伝票実行時に組み込まれていない場合、そのパーソナルコンピュータに組み込まれているフォントで処理されるので注意してください。

**(6) ローカルデータベースの内容を同時に更新しないこと**

ローカルデータベースは排他制御処理されません。したがって、ローカルデータベースの内容を同時に更新操作をすると、データベースが破壊されることがあります。サーバ上にローカルデータベースを置いて同時に複数のクライアントから更新するような使い方は絶対にしないでください。

ただし、ローカルデータベースを複数のクライアントから同時に参照することはできます。

**(7) 伝票ファイルから外部データベースに登録する値が NULL やスペースであるとうなるか**

**概要**

伝票ファイルから外部データベースに値を登録して外部データベースを更新又は追加する場合、値が NULL やスペースであると、Form の文字列後部スペースカットオプションによって外部データベースに書き込まれる値が変わります。

**詳細説明**

値が NULL やスペースであるときの文字列後部スペースカットオプション別の書き込まれる値を、表 2-15 に示します。

## 2. クライアント運用時のノウハウ

表 2-15 値が NULL やスペースの場合に外部データベースに書き込まれる値

文字列後部 スペースカット オプション	データベース操 作時に使用する 処理コマンド	登録する値の 属性	登録する値 スペース, 0 (ゼ ロ) 又は未設定 (≠NIL)	データベースに 書き込まれる値
あり	「@DB 更新」 などデータバ ース系のコマンド	文字属性	スペース	NULL
			未設定	NULL
		数値属性	0	0
			未設定	0
	「@SQL 実行」	文字属性	スペース	NULL
			未設定	NULL
		数値属性	0	0
			未設定	NULL
なし	「@DB 更新」 などデータバ ース系のコマンド	文字属性	スペース	スペース
			未設定	スペース
		数値属性	0	0
			未設定	0
	「@SQL 実行」	文字属性	スペース	スペース
			未設定	NULL
		数値属性	0	0
			未設定	NULL

### (8) データベース処理では特殊扱いされ、条件式で使用できなくなる文字があるので注意する

#### 概要

Form のデータベース処理では、「\* (アスタリスク)」「? (クエスチョンマーク)」「' (シングルクォーテーション)」「\_ (アンダーバー)」などの文字が特殊扱いされます。特殊扱いされる文字は、操作するデータベースやその他の条件で異なります。

#### 詳細説明

Form のデータベース処理で特殊扱いされる文字は、ローカルデータベースと外部データベースで異なります。また、操作するコマンドの指定によっても異なります。

- ローカルデータベース  
コマンドのオプションでメタ文字扱いを指定 (M0 など) した場合、「\*」及び「?」は特殊扱いの文字となり、条件式にはそのままでは使用できなくなります。「\*」や「?」を条件式で使いたい場合は、文字の直前に「% (パーセント)」を付けて「%\*」及び「%?」と指定します。
- 外部データベース (HiRDB, ORACLE 及び SQL Server)  
「'」は、データとしても条件式でも使用できません。その他にも @SQL 実行コマンドとそれ以外で特殊扱いされる文字が異なります。  
@SQL 実行コマンド以外  
コマンドのオプションでメタ文字扱いを指定 (M0 など) した場合、「%」及び「\_」は特殊扱いの文字となり、条件式にはそのままでは使用できなく

なります。「%」及び「\_」を条件式で使用したい場合は、文字の直前に「%」や「&(アンパサンド)」を付けて「%%」及び「&\_」と指定します。

### @SQL 実行コマンド

ユーザが記述した SQL 文中の文字は、各 DBMS 対応の ODBC ドライバやネットワークプログラムを経由して DBMS サーバ側へ送られます。その結果、ユーザの記述がどのように処理されるかは各 DBMS の仕様や環境設定によって異なるので、個別にご確認ください。

## (9) ローカルデータベースに対してレコードの更新又は追加実行中にファイルが未クローズ状態になったときは、そのままの状態でも業務を続行しない

### 概要

Form のローカルデータベースに対してレコードの更新又は追加を実行しているときになんらかの理由でファイルが未クローズ状態になることがあります。このような場合、そのままの状態でも業務を続行するとファイルが破壊されることがあるので注意してください。

### 詳細説明

ファイルの未クローズ状態を検出するには、レジストリを次のように指定します。

1. ディレクトリ「Windows」の REGEDIT.EXE を起動する
2. HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥Gmax Form Client¥0210 の下に「Fms\_Opt」キーを追加する
3. 2のキーの下に値「FMS\_OPCK」に、値「ON」を設定する

## (10) 電子印のパスワードを忘れたときの処置について

セキュリティ保護のため、電子印のパスワードを調べる手段は提供されていません。

電子印の認証に Groupmax Address Server を使用しない形式の電子印で、電子印のパスワードを忘れてしまった場合は、電子印を新規に作成し直してください。

電子印の認証に Groupmax Address Server を使用する形式の電子印では、Groupmax にログインするためのパスワード（Address サーバに登録しているパスワード）が電子印のパスワードになります。

## (11) Workflow 帳票欄の伝票のダウンロードはファイルの更新日時によって決まる

### 概要

サーバの Workflow 帳票欄から伝票がダウンロードされるかどうかは、伝票の更新日時によって決まります。

### 詳細説明

ワークフローではワークフロー案件を処理するときに、サーバ側の伝票とクライアント（エンドユーザのパーソナルコンピュータ）側の伝票を、ファイルの更新日時によってチェックしています。

更新日時が同じならばクライアント側にある伝票がそのまま使われ、異なっていればサーバからクライアントに伝票がダウンロードされます。

## 2. クライアント運用時のノウハウ

### (12) Document Manager のフォーム文書データベースに日付を含んだ伝票を登録する場合は、日付を指定できる範囲内で指定する

Document Manager の日付型を利用してフォーム文書データベースに伝票を登録する場合、指定できる日付の範囲は万国標準時間で 1970 年 01 月 01 日 00 時 00 分 00 秒 ~ 2038 年 01 月 19 日 12 時 14 分 07 秒です。基本的には、その範囲外の日付を指定した登録はできません。範囲外の日付を指定すると、日付はデフォルト値「19700101090000」になります。

### (13) Document Manager のフォーム文書データベースの日付型に何も入力していないとデフォルト値が仮定される

Document Manager の日付型に何も入力しないでフォーム文書データベースに伝票を登録した場合、日付には日本時間標準のデフォルト値「19700101090000」が設定されます。

### (14) 小数を含んだ伝票データを Document Manager のフォーム文書データベースに登録すると、小数点以下は切り捨てられる

Document Manager フォーム文書データベースの数値属性は LONG 型で定義されているため、伝票のデータを数値型データに登録・更新する場合、小数点以下は切り捨てられます。このため、小数のデータは登録できません。

小数のデータを扱う場合は、Document Manager のフォーム文書データベースの文字属性を利用してください。

### (15) Form と Document Manager のフォーム文書データベースの属性には項目属性に違いがある

#### 概要

Form の数値属性は PACK 型（最大 18 桁で小数表現もできる）であるのに対して、Document Manager のフォーム文書データベースの数値属性は LONG 型（最大 10 桁で -2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 の範囲、小数表現はできない）なので、数値を含んだ伝票を共用キャビネットに登録する場合は注意が必要です。

数値属性以外の項目の属性にも違いがあります。

#### 詳細説明

Form の数値型と Document Manager のフォーム文書データベースの数値型には上記のような違いがあるので、Form の数値を取り込むと Document Manager のフォーム文書データベースではデータの切り捨てが発生することがあります。このため、Document Manager では Form の数値型データをすべて文字属性で返すようになっています。

また、その他の項目の属性にも違いがあるので、Document Manager のフォーム文書データベースではすべてを文字属性で返すようになっています。

Form の伝票上の属性と Document Manager で返される値の対応を、表 2-16 に示します。



表 2-16 Form の伝票上の属性と Document Manager で返される値

伝票ファイル上の項目属性	DLL が出力するデータ型	DLL が出力するデータ型宣言長
文字属性の項目 (見出し, 明細, 総括, メモ)	文字型	項目桁数 + 1 (「¥0」の長さ 1 を加える)
数値属性の項目 (見出し, 明細, 総括)	文字型	伝票上の数値項目を出力したときのデータ型宣言長 1. 小数桁がない場合: 項目桁数 + 2 (「¥0」の長さ及び負の符号の文字列長を加える) 2. 小数桁がある場合: 項目桁数 + 3 (「¥0」の長さ, 負の符号の文字列長及び小数点の文字列長を加える) 3. 小数桁があり, 整数桁がない場合: 項目桁数 + 4 (「¥0」の長さ, 負の符号の文字列長, 小数点の文字列長及び「0」の文字列長を加える)
チェックボックス項目	文字型	項目桁数 1 (固定) + 1 (「¥0」の長さ 1 を加える)
ラジオボタン項目	文字型	項目桁数 2 (固定) + 1 (「¥0」の長さ 1 を加える)

注 この「0」は「0.111」の整数の 0 です。

#### (16) 共用キャビネットに添付ファイル付き文書を登録するには、AP 情報管理ファイルの設定を変更する

##### 概要

「@ 文書登録」コマンドを実行しても、AP 情報管理ファイルの AP 情報の文書データベース関連ファイルリスト及び文書関連ファイルリストに「%ALL」が設定されていないと添付ファイルは登録されません。

##### 詳細説明

Document Manager の一般文書のプロパティで指定している AP 情報管理ファイル (AP.CFG) にある、AP 情報の文書データベース関連ファイルリスト及び、文書関連ファイルリストに「%ALL」の指定がないと、添付ファイル (関連ファイル) は登録されません。

添付ファイルが登録されない場合は、AP 情報管理ファイルの設定を見直してください。

#### (17) 共用キャビネットに文書の作成者名を登録するには、AP 情報管理ファイルの設定を変更する

「@ 文書登録」コマンドで作成者名の指定だけでは、Document Manager に作成者名は登録されません。AP 情報管理ファイル (AP.CFG) の登録用属性ファイルフィールドの内容を「\*.arf」に設定してください。

## 2. クライアント運用時のノウハウ

### 2.11.2 知っておきたい機能

#### (1) 伝票のメモリ常駐を解除するには

##### 概要

業務の起動性能を向上させるため、伝票は標準ではメモリに常駐されています。メモリに伝票が常駐されている場合、タスクトレイのインジケータに常駐アイコンが表示されます。(OSがNT3.51の場合を除く)ただし、この状態では伝票を起動していないときのリソース消費量が大きくなります。以下の操作で伝票の常駐を抑止することができます。

##### 詳細説明1：伝票常駐設定ダイアログの設定

伝票常駐設定ダイアログの設定により、伝票の常駐を抑止します。

1. 開発ウィンドウで [ オプション ] - [ 伝票常駐設定 ] を選択し、伝票常駐設定ダイアログボックスを表示する
2. 常駐方式を選択する
3. [ OK ] ボタンを押下する

この指定により、伝票の常駐 / 非常駐を制御するレジストリ情報を設定することができます。このダイアログで設定した情報は、Groupmax Integrated Desktop の「カスタマイズ情報配布機能」で配布することができます。

##### 詳細説明2：ユーザごとの設定

伝票常駐設定ダイアログで常駐方式に「ユーザごとの設定に従う」を選択した場合、以下のようにユーザごとに伝票の常駐指定を設定することができます。

1. ディレクトリ「Windows」の REGEDIT.EXE を起動する
2. HKEY\_CURRENT\_USER¥Software¥HITACHI¥Gmax Form Client¥0210 の下に「STAY」キーを追加する
3. 2のキーの下の値「ETDSP」という DWORD 値を作成し、値「0」を設定する
4. HKEY\_CURRENT\_USER¥Software¥HITACHI¥Gmax Form Client¥0210 の下に「ETDSP」キーを追加する
5. 4のキーの下の値「DisableDaemon」という DWORD 値を作成し、値「1」を設定する

この指定は伝票常駐設定ダイアログで「ユーザごとの設定に従う」以外を選択したときは無効となります。

#### (2) フォーム画面の表示倍率を変更するには

フォーム画面の表示倍率を変更するには、レジストリを次のように指定します。

1. ディレクトリ「Windows」の REGEDIT.EXE を起動する
2. HKEY\_CURRENT\_USER¥Software¥HITACHI¥Gmax Form Client¥0210 の下に「FormDefaultValue」キーを新規作成する
3. 2で作成したキーの下に「DisplayMagnification」という DWORD 値を作成し、縮小・拡大倍率を設定する  
倍率は、100を基準として 50 ~ 150 (単位：%) で指定します。

### (3) コマンドラインで伝票を起動する場合のパラメタファイルの指定方法

#### 概要

コマンドラインで伝票を起動する場合、コマンドの引数としてパラメタファイルを指定すると印刷部数などの情報を設定できます。

#### 詳細説明

印刷部数などの情報を記述した、PARAM.PRM というパラメタファイルを作成します。

これを、ETDSP32.EXE の引数として次のように指定します（ は半角スペースを示します）。

「ETDSP32.EXE 伝票ファイル名 /K PARAM.PRM」

### (4) Form で使用する年の、西暦 2000 年代の範囲を設定するには

#### 概要

日付関数などで年を西暦下 2 桁で設定する場合、何年までを西暦 2000 年代とするかを設定できます。西暦の桁数は [ 日付関数情報設定 ] ダイアログボックスで指定します。

#### 詳細説明

次に示す手順で設定します。

1. 開発ウィンドウで [ オプション ] - [ 日付関数情報設定 ] を選択し、[ 日付関数情報設定 ] ダイアログボックスを表示する
2. ダイアログボックス中の「西暦 2000 年の仮定をする年」テキストボックスに、西暦 2000 年代とする年を入力する
3. [ OK ] ボタンを指定する

### (5) 外部データベースの更新を確定させる「自動コミット」及び「終了時の自動コミット」を使用するときと使用しないとき

#### 概要

「自動コミット」及び「終了時の自動コミット」は、外部データベースオプションで選択する機能です。

データベースを操作する処理コマンド (@DB 更新など) や SQL 文を実行する処理コマンド (@SQL 実行) を実行したとき、データの更新確定や取り消しをどのように実行するかを取り決めます。

#### 詳細説明 1 : 自動コミット

「自動コミット」を選択した場合、処理コマンドの実行結果が正常でも異常でも、処理コマンドが終了した時点で更新が確定されます。

「自動コミット」を選択していない場合は、次に示すように処理されます。

- 処理コマンドが正常終了したとき  
処理コマンドが終了した時点では更新は確定されません。以降の処理で「@SQL コミット」コマンドを実行すると更新が確定されます。更新を取り消す場合は「@SQL ロールバック」コマンドを実行します。  
ただし、次に示す 12 個の処理コマンドで、出力先に ODBC ファイルを指定した場合は、「自動コミット」を選択していなくても処理コマンドが終了

## 2. クライアント運用時のノウハウ

した時点で更新が確定されます。

@ 抽出, @ 対話検索, @ DB 加工, @ DB 検索, @ レコード併合,  
@ 項目併合, @ 突合併合, @ 項目選択, @ 項目削除, @ DB 削除,  
@ DB 消去, @ ファイル変換

- 処理コマンドが異常終了したとき

データベースを操作する処理コマンド (@DB 更新など) が異常終了した場合, 更新は取り消されます。

SQL文を実行する処理コマンド (@SQL 実行) の場合は, 処理コマンドが終了した時点では更新は取り消されません。「@SQL コミット」コマンド又は「@SQL ロールバック」コマンドを使って, 更新を確定したり, 取り消したりできます。

「自動コミット」を選択していない場合の更新の確定や取り消しは, 直前に確定又は取り消しをした後の更新に対して実行されます。例えば, 以前に「@SQL コミット」コマンドで更新を確定していた場合, その後の処理で「@SQL ロールバック」コマンドを実行すると, 「@SQL コミット」コマンドを実行したときの状態に戻ります。

「@SQL コミット」及び「@SQL ロールバック」を実行しなかった場合は, データベースとの接続を解除するときに, 「終了時の自動コミット」の指定に従って更新の確定又は取り消しが実行されます。

### 詳細説明 2 : 終了時の自動コミット

「終了時の自動コミット」には, 「自動コミット」を選択していない場合に, データベースとの接続を解除するときに更新を確定するか取り消すかを指定します。「終了時の自動コミット」の選択と, データベースとの接続解除時及び伝票処理の終了時のデータ更新の扱いを, 表 2-17 に示します。

この表での「データ更新」は, 該当する接続識別子に対するデータ更新で「@SQL コミット」コマンド及び「@SQL ロールバック」コマンドが実行されていないものです。

表 2-17 終了時の自動コミットの選択に対応するデータ更新

「終了時の自動コミット」の選択	データベースとの接続解除時のデータ更新	伝票処理の正常終了時のデータ更新	伝票処理の異常終了時のデータ更新
選択した	確定される	確定される	確定される
選択しない	取り消される	取り消される	取り消される

伝票処理が正常終了した場合だけデータ更新を確定させて, エラーが起きた場合 (Form の異常終了も含む) はデータ更新を取り消したいときは, 自動コミット及び終了時の自動コミットは選択しないでおきます。データ更新を確定させるには, 伝票上の一連の処理が正常終了した後, 後処理又は最終処理で伝票処理が終了する直前に「@SQL コミット」コマンドを実行するようにしてください。

### (6) ダブルクリック操作で電子印を読み込むには

#### 概要

伝票上の捺印項目をダブルクリックして電子印を捺印するには、電子印ファイル名を設定しておく必要があります

### 詳細説明

電子印ファイルを作成しただけでは、ダブルクリックで捺印することはできません。Form の開発ウィンドウから [ オプション ] - [ 電子印ファイル名設定 ] を選択して、使用する電子印ファイル名を設定してください。

## (7) Form Client だけがインストールされている場合での電子印のパスワード変更について

### 概要

電子印の認証に Groupmax Address Server を使用しない形式の電子印では、Form Client だけがインストールされている場合でも、電子印のパスワードは変更できます。ただし、電子印定義ウィンドウに [ 編集 ] メニューは表示されません。したがって、電子印の編集や削除はできません。電子印の認証に Groupmax Address Server を使用する形式の電子印では、[ パスワードの変更 ] メニューがグレーアウトされ変更できません。

### 詳細説明

電子印の認証に Groupmax Address Server を使用しない形式の電子印のパスワードは次の手順で変更します。

1. 開発ウィンドウで、電子印ファイルのアイコンをダブルクリックする
2. 表示された電子印定義ウィンドウで、[ オプション ] - [ パスワードの変更 ] を選択してパスワードを変更する

## (8) 添付ファイル操作ダイアログボックスで添付ファイルを実行しても「更新」状態に変更しない方法は

### 概要

ワークフロー案件やメールなどに添付されてきた伝票ファイルを添付ファイル操作ダイアログボックスで実行すると、状態表示が「更新」状態に変わります。これを変更したくない場合は、レジストリを変更してください。

### 詳細説明

レジストリを次のように指定します。

1. ディレクトリ「Windows」の REGEDIT.EXE を起動する
2. HKEY\_CURRENT\_USER¥Software¥HITACHI¥Gmax Form Client¥0210 の下に「ETDSP」キーを追加する
3. 2のキーの下に「UpdateRunFile」という DWORD 値を作成し、値「0」を設定する

## (9) Workflow 帳票棚の伝票を、ダウンロードされる前にユーザに配布するには

### 概要

サーバの Workflow 帳票棚から伝票がダウンロードされる場合、ダウンロードに時間がかかるときは事前に同じ伝票をユーザに配布することができます。

### 詳細説明

ユーザへは次に示す方法で配布できます。

## 2. クライアント運用時のノウハウ

1. アーカイブファイルを作成する  
ワークフローサーバの配布したい伝票とデータ及び更新日時が同じ伝票を、ファイル圧縮ツールを使って自己解凍形式に圧縮し、アーカイブファイルを作成します。  
アーカイブファイルを作成するときは、更新日時が変更されないファイル圧縮ツールを使ってください。例えば、フリーソフトウェアの LHA で作成されるアーカイブファイルは更新日時が変わりません。
2. 作成したアーカイブファイルを、各パーソナルコンピュータのダウンロード先に配布する  
ダウンロード先のディレクトリは、ユーザ ID ごとに異なります。  
例えば「C:\GMAXCL\COMMON\USERS\ユーザ ID\WORKFLOW」のようなディレクトリになります。  
配布手段には、FTP による転送、フロッピーディスクからのコピー、ファイルサーバからのコピーなどがあります。
3. 配布されたアーカイブファイルを解凍して、伝票を格納する

### (10) 共用キャビネットの添付ファイル付き文書を、添付ファイルと同時に起動するには

#### 概要

「@ 文書登録」コマンドで共用キャビネットに登録した文書を起動するときに、その添付ファイルも同時に起動させることができます。

#### 詳細説明

次の手順で設定します。

1. 文書を起動する（開く）指定をすると、[ ファイルを開く ] ダイアログボックスが表示される
2. ダイアログボックスのファイル一覧表示から、起動する文書と一緒に添付ファイルを選択する

### (11) 帳票印刷時に白紙を出力させないようにするには

帳票印刷時に白紙を出力させないようにするには、次のどちらかを設定してください。

継続印刷指定を「なし」にする

用紙属性の余白サイズを大きくする

## 2.11.3 トラブル対処方法

### (1) 伝票の定義でアプリケーションエラーが発生するとき

#### 現象

伝票を定義しているときに、アプリケーションエラーが発生したり、Form の動作が不正になることがあります。

#### 要因と対処方法

インストールされている Form Client（実行するためのプログラム）と Form Client - Design（定義するためのプログラム）のバージョンが異なっている場合に、このようなエラーが発生します。それぞれのバージョンを確認してください

い。二つのプログラムのバージョンは特例まで完全に一致している必要があります。

### (2) 伝票の新規作成ができないとき

#### 現象

開発ウィンドウから伝票を新規作成する場合、[ 新規作成 ] ダイアログボックスの [ 種類 ] に「伝票」がないことがあります。

#### 要因と対処方法

Form Client - Design がインストールされていません。Form Client - Design をインストールしてください。

### (3) Form Client の最新バージョンをインストールしたのに、ヘルプが最新にならないとき

#### 現象

事故対策版の Form Client がインストールされている状態で、最新バージョンの Form Client をインストールすると、ヘルプの内容が最新にならないことがあります。

#### 要因と対処方法

事故対策版から最新バージョンに切り替える場合、事故対策版のヘルプファイルの更新日時の方が最新バージョンのヘルプファイルよりも新しいことがあります。そのような場合、ヘルプファイルは最新バージョンのものには置き替わりません。

事故対策版から最新バージョンに切り替える場合は、事故対策版の Form Client をいったんアンインストールしてから最新バージョンをインストールしてください。

### (4) 「@ 外部呼出」で、存在する DLL を呼び出すと「DLL がありません」というメッセージが表示されるとき

#### 現象

「@ 外部呼出」コマンドで自作の DLL を呼び出すと「DLL がありません」というエラーが発生することがあります。

#### 要因と対処方法

次に示す三つの内容を確認してください。

1. 次のディレクトリのどれかに DLL があるか
  - Windows がインストールされたディレクトリ
  - 環境変数 PATH で指定されたディレクトリ
  - Form がインストールされたディレクトリ
  - 起動する Form の伝票があるディレクトリ
2. DLL から呼び出す他の DLL が、参照できる環境にあるか  
例えば、作成した DLL から他のライブラリ製品での DLL の関数を呼び出している場合、前提としている DLL が参照できる環境にあるかを確認してください。
3. DLL がデバッグ版で作成されていないか

## 2. クライアント運用時のノウハウ

DLL がデバッグ版で作成されている場合、DLL を作成する環境がないパーソナルコンピュータでは「DLL がありません」のエラーになる可能性があります。

呼び出した自作の DLL に、コンパイラが提供するデバッグ版のランタイム DLL（例えば Visual C++ 5.0 による MSVCRTD.DLL など）をリンクさせている場合、コンパイラをインストールしていないマシンではリンクしている DLL が見つからないため、「DLL がありません」のエラーになります。この場合、DLL をリリース版で作成すれば、コンパイラがない環境でも正常に動作します。

### (5) INBOX から案件を表示しようとしたら「ファイルパスが見つかりません」というメッセージが表示されたとき

#### 現象

INBOX から案件を表示（起動）しようとするとき「...ファイルパスが見つかりません」というメッセージが表示され、Form が終了します。

#### 要因と対処方法

案件の添付ファイルをダウンロードするディレクトリの名称が間違っているときにこのエラーが発生します。Form の開発ウィンドウの [ オプション ] - [ 添付ファイルダウンロード先設定 ] で指定しているディレクトリを正しい名称に修正してください。

### (6) サブノードからワークフロー案件として伝票を投入しようとしたら「指定ノードからは新規 ID は指定できません」というメッセージが表示されたとき

#### 現象

サブノードからワークフロー案件として伝票を投入しようとするとき「( KMWMJ ) ( 11796 ) 指定ノードからは新規ワーク ID は指定できません」というエラーが発生することがあります。

#### 要因と対処方法

サブノードからワークフロー案件を投入する場合は、既にメインノードでそのワークフロー案件が投入されている必要があります。メインノードでワークフロー案件を投入した後、その案件識別子を指定してサブノードからワークフロー案件を投入してください。

このとき、案件識別子が自動採番されている場合、メインノードでの投入時に指定した案件識別子と、実際にワークフロー案件に付加された案件識別子が異なる場合があるので注意が必要です。

### (7) 伝票をワークフロー案件として投入しようとしたら「指定されたビジネスプロセスに案件を投入できません」というメッセージが表示されたとき

#### 現象

伝票をワークフロー案件として投入しようとするとき「指定されたビジネスプロセスに案件を投入できません。ビジネスプロセス名、バージョン番号、ノード名称を確認してください」というエラーが発生することがあります。



### 要因と対処方法

次の二つのことが考えられるので、確認してください。

- ビジネスプロセス名称の指定に誤りがないかどうか
- そのビジネスプロセスの状態が「投入許可」になっているかどうか

### (8) 伝票をワークフロー案件として投入しようとしたら「データメモのサイズが上限を超えました」というメッセージが表示されたとき

#### 現象

伝票をワークフロー案件として投入しようとする「データメモのサイズが上限を超えました」というエラーが発生することがあります。

#### 要因と対処方法

「@ 案件データ出力」コマンドで出力したデータが大きすぎるため、ワークフロー案件が投入できません。データ量が上限を超える要因として、電子印のビットマップデータが考えられます。

### (9) INBOX でワークフロー案件にデータを入力しようとしたら「案件処理中でない場合は使用できないコマンドです」というメッセージが表示されたとき

#### 現象

Integrated Desktop でアプリケーションの関連付けを設定しているのに、ワークフロー案件の伝票にデータを入力しようとする「案件処理中でない場合は使用できないコマンドです」というメッセージが表示され、データが入力できないことがあります。

#### 要因と対処方法

伝票を案件処理として起動するには、ETDSP32.EXE の起動スイッチに「/W」を追加してください。「/W」が設定されていないと案件処理として起動されません。  
また、ワークフロー案件の連続処理を実行する場合は、[アプリケーションの関連付け] ダイアログボックスで「案件処理 (一括)」を選択してください。

### (10) 共用キャビネットに文書を登録しようとしたら「TS サーバが使用できません」というメッセージが表示されたとき

#### 現象

「@ 文書登録」コマンドで文書を共用キャビネットに登録しようとする「TS サーバが使用できません」というメッセージが表示されることがあります。

#### 要因と対処方法

「@ 文書登録」コマンドは、Infoshare/TS 又は Bibliotheca2/TS の全文検索機能と連携するために、文書の情報をテキストファイルに変換して共用キャビネットに登録します。このとき、Document Manager が上記のテキストサーチ機能を利用しない設定になっていると、このようなメッセージが表示されます。しかし、文書自体は正常に登録されています。メッセージが表示されたらダイアログボックスで [ 続行 ] ボタンを指定してください。

## 2. クライアント運用時のノウハウ

### (11) プリンタドライバのバージョン変更後に印刷に関する操作でメモリ不足になったとき

#### 現象

プリンタドライバのバージョンを変更した後に、次の操作をするとメモリ不足のメッセージが表示されることがあります。

- 伝票・書式印刷
- 伝票・書式定義での用紙属性の変更
- 伝票・書式定義での定義印刷及び定義印刷プレビュー
- 伝票・書式定義での定義内容の保存

#### 要因と対処方法

この現象は、プリンタドライバの変更前後で互換が保たれていない場合に発生します。この現象が発生した場合には、メッセージが表示された伝票・書式の定義を次の手順で設定し直してください。

1. プリンタドライバを削除する
2. 定義の用紙属性を「プリンタに依存しない指定」にする
3. プリンタドライバをインストールする。
4. 定義の用紙属性を元に戻す

### (12) 伝票が、設定した用紙サイズで印刷されないとき

#### 現象

伝票を印刷するとき、パーソナルコンピュータによっては伝票の印刷情報ではなく Form のプリンタ既定処理が採用されるので、伝票に設定した印刷情報どおりの用紙サイズで印刷されないことがあります。

また、印刷情報設定時の用紙属性が「プリンタに依存しない指定」になっているときも、設定した用紙サイズで印刷されません。

#### 要因と対処方法

次に示すパーソナルコンピュータから伝票を印刷すると Form のプリンタ既定処理が採用されます。

- 該当するプリンタドライバがインストールされていないパーソナルコンピュータ
- 伝票を作成した OS と異なる OS がインストールされているパーソナルコンピュータ

Form では作成した伝票のサイズをミリメートル単位で保持しています。プリンタ既定処理が採用された場合、Form はプリンタドライバから取得した用紙サイズ一覧の情報と保持している伝票サイズとを比較し、一覧から最初に見付けた伝票が収まる用紙サイズを採用します。このため、印刷情報とは異なる用紙サイズで印刷されることがあります。

また、「プリンタに依存しない設定」の場合、OS のプリンタ属性の設定に従って印刷されます。例えば、Form の用紙サイズが A4 横で設定されていても、OS のプリンタ属性が A4 縦に設定されていれば、A4 縦で印刷されます。この場合、[ 伝票発行 ] - [ プリンタの設定 ] から OS のプリンタ属性を変更してください。また、「@プリンタ設定」コマンドでもプリンタ属性を変更できます。

### (13) 伝票が起動できないとき

#### 現象

通常、オンラインプリンタを使用している場合、プリンタがオンライン状態でないで伝票が起動できないことがあります。

#### 要因と対処方法

通常使用しているプリンタがオンライン状態でないと、伝票の印刷情報の取得に失敗し、伝票が起動できないことがあります。プリンタをオンライン状態にして伝票を起動してください。

通常、ローカルプリンタを使用していたり、プリンタがオンライン状態になっているのに伝票が起動できない場合は、プリンタドライバをいったん削除し、再度インストールしてください。

### (14) 印刷情報に設定したプリンタから印刷できないとき

#### 現象

伝票に印刷情報として特定のプリンタを設定しても、通常使用するプリンタでしか印刷されないことがあります。

#### 要因と対処方法

次の条件のどちらかに該当している場合、プリンタ仮定処理が採用されるので通常使用するプリンタから印刷されます。

- 伝票の用紙属性に指定したプリンタのプリンタドライバが、印刷を指定するパーソナルコンピュータにインストールされていない
- 伝票で用紙属性を指定したパーソナルコンピュータと、印刷を指定するパーソナルコンピュータの OS が異なる

### (15) 伝票の印刷を実行するとアプリケーションエラーになるとき

#### 現象

伝票の印刷を実行すると、プリンタドライバの種類によってはアプリケーションエラーが発生する場合があります。

#### 要因と対処方法

プリンタドライバの不具合が考えられるので、次の手順で対処してください。

1. 最新のプリンタドライバを入手して、印刷できるようになったかどうか確認する
2. 1. のように対処してもエラーになる場合は、プリンタのプロパティを参照し、「TrueType フォントをプリンタフォントに置き換える」チェックボックス のチェックをはずす

注 ただし、このチェックボックスはプリンタドライバのバージョンが古いと存在しない場合があります。

## 2.12 以前のバージョンの 16 ビット版クライアント製品との関連

ここでは、Groupmax Version6i のクライアント製品と以前のバージョンの 16 ビット版クライアント製品とでデータをやり取りしたりするときの注意事項を説明します。また、両者との相違点などについても説明します。

なお、ここでは、Groupmax Version6i のクライアント製品を単に「32 ビット版クライアント」、以前のバージョンの 16 ビット版クライアント製品を単に「16 ビット版クライアント」と記述します。

記載している項目と記載場所を、表 2-18 に示します。

表 2-18 記載項目と記載場所 (Groupmax 16 ビット版クライアント製品との関連)

種別	記載項目	記載場所
注意事項	同一パーソナルコンピュータで共用キャビネットの 32 ビット版クライアントと 16 ビット版クライアントを使用するときは注意する	2.12.1(1)
	32 ビット版クライアントから 16 ビット版クライアントにメールを送付すると、Tab 文字が「・(中点)」に変わる	2.12.1(2)
	16 ビット版の Facilities Manager で登録した gif ファイルは bmp ファイルに変換する	2.12.1(3)
	32 ビット版クライアントで作成したメール及び回覧を 16 ビット版クライアントに送付する場合は添付ファイルの数に注意する	2.12.1(4)
	32 ビット版クライアントと 16 ビット版クライアントで暗号化メールを送受信するときは注意する	2.12.1(5)
	16 ビット版クライアントのローカル宛先簿ファイルを 32 ビット版クライアントで使用する場合は注意する	2.12.1(6)
	リッチテキストモードの回覧の本文を、16 ビット版クライアントで変更した場合、次に受信する人からプレーンテキストモードになる	2.12.1(7)
	掲示板を削除できるユーザの 32 ビット版クライアントと 16 ビット版クライアントの相違点	2.12.1(8)
	16 ビット版クライアントだけにある機能	2.12.1(9)

### 2.12.1 注意事項

#### (1) 同一パーソナルコンピュータで共用キャビネットの 32 ビット版クライアントと 16 ビット版クライアントを使用するときは注意する

共用キャビネットの 32 ビット版クライアントと 16 ビット版クライアントが同じパーソナルコンピュータにインストールされている場合、次の二つのことに注意してください。

32 ビット版クライアントと 16 ビット版クライアントを同時に起動できない

切り替えて使用する場合は、作業領域に文書がない状態で切り替えること

**(2) 32 ビット版クライアントから 16 ビット版クライアントにメールを送付すると、Tab 文字が「・(中点)」に変わる**

32 ビット版クライアントで作成したメールを 16 ビット版のクライアントで参照する場合、メールに Tab 文字があると 16 ビット版クライアントでは「・(中点)」で表示されます。

**(3) 16 ビット版の Facilities Manager で登録した gif ファイルは bmp ファイルに変換する**

**概要**

16 ビット版の Facilities Manager で登録した gif 形式のファイルを 32 ビット版の施設情報画面で参照させる場合は、あらかじめ bmp 形式のファイルに変換してください。

**詳細説明**

32 ビット版の施設情報画面では、16 ビット版の Facilities Manager で登録した gif 形式のファイルを 32 ビット版の Scheduler の gif 形式のファイルとして参照できません。

32 ビット版の施設情報画面で参照させる場合は、あらかじめ 16 ビット版の環境で gif 形式のファイルを bmp 形式のファイルに変換してください。

**(4) 32 ビット版クライアントで作成したメール及び回覧を 16 ビット版クライアントに送付する場合は添付ファイルの数に注意する**

**概要**

32 ビット版クライアントでは、最大 24 個までファイルをメール及び回覧に添付できます。しかし、16 ビット版クライアントでは、最大 7 個までしかファイルを添付できません。そのため、32 ビット版クライアントから、ファイルを添付したメールや回覧を 16 ビット版クライアントに送信した場合、16 ビット版クライアントでは添付ファイルの一部が参照できないことがあります。

**詳細説明 1：プレーンテキストモードで作成した場合**

32 ビット版クライアントのプレーンテキストモードでメールを作成した場合、8 個以上のファイルを添付して 16 ビット版クライアントに送信しても、7 個の添付ファイルしか参照できません。

また、回覧では内部の制御情報の関係で、添付ファイルとして 7 個以上のファイルを送付しても、6 個の添付ファイルしか参照できません。

**詳細説明 2：リッチテキストモードで作成した場合**

32 ビット版クライアントのリッチテキストモードでメールを作成した場合、16 ビット版クライアントで受信すると、添付ファイルとして「RFB.rtf」ファイルが添付されます。そのため、そのメールの添付ファイルとして 7 個以上のファイルを送付しても、6 個の添付ファイルしか参照できません。

また、回覧では「RFB.rtf」ファイル及び内部の制御情報の関係で、添付ファイルとして 6 個以上のファイルを送付しても、5 個の添付ファイルしか参照できません。

## 2. クライアント運用時のノウハウ

### (5) 32 ビット版クライアントと 16 ビット版クライアントで暗号化メールを送受信するときは注意する

#### 概要

32 ビット版クライアントと 16 ビット版クライアントでは、暗号化メールの機能の一部が異なるため、送信時には注意が必要です。

#### 詳細説明

32 ビット版クライアントから 16 ビット版クライアントへ暗号化メールを送信する場合の注意と、32 ビット版クライアントが 16 ビット版クライアントからのメールを受信する場合の注意を説明します。

16 ビット版クライアントへ暗号化メールを送信する場合の注意

注意事項は次のとおりです。

- 送受信間で同じグループ鍵及びグループ ID を設定する  
グループ鍵は 16 進数で 16 桁以内にしてください。  
グループ ID は半角で 8 文字以内で、半角の「| (ストローク)」を含まない文字列としてください。また、「~ Key:」も使用しないでください。「~ Key:」を使用すると 16 ビット版クライアントで受け取れる暗号化メールかどうかの区別ができなくなります。
- メールを圧縮して送信しない  
圧縮したメールは 16 ビット版クライアントでは解凍できないので、メールは暗号化だけをして送ってください。
- 主題の先頭には「|グループ ID |」及び「| ~ Key: |」を付けない  
32 ビット版クライアントで暗号化又は圧縮化されたメールを送信すると、主題の先頭に「|グループ ID |」又は「| ~ Key: |」が自動的に付加されます。「|グループ ID |」は、そのメールが 16 ビット版クライアントで復号できるメールであることを示し、「| ~ Key: |」は 16 ビット版クライアントでは復号できないメールであることを示します。  
したがって、主題の先頭に「|グループ ID |」及び「| ~ Key: |」を記入すると、そのメールは無条件で暗号化又は圧縮化されたメールとみなされ、16 ビット版クライアントでメールが参照できなくなる場合があります。
- 添付ファイルは 6 個までとする  
添付ファイルは 6 個まで送信できます。

16 ビット版クライアントからの暗号化メールを受信する場合の注意

注意事項は次のとおりです。

- 送受信間で同じグループ鍵及びグループ ID を設定する  
グループ鍵は 16 進数で 16 桁以内にしてください。  
グループ ID は半角換算で 255 文字以内で、半角の「| (ストローク)」を含まない文字列としてください。また、「~ Key:」も使用しないでください。「~ Key:」を使用すると 32 ビット版クライアントで受け取れる暗号化メールかどうかの区別ができなくなります。

- 主題の先頭に「 | グループ ID | 」又は「 | ~ Key: | 」があると、そのメールは暗号化されたメールとみなされる  
16 ビット版クライアントから送信されたメールの主題の先頭に「 | グループ ID | 」又は「 | ~ Key: | 」があると、そのメールは暗号化されたものとみなされます。このため、そのような主題のメールが暗号化に必要な定義をしないで送付されたメールの場合、32 ビット版クライアントでは暗号化の形式不正と認識されるので、メールを参照できません。
- 受信メール表示ウィンドウでは添付ファイルが「 ~ .ssN ( N は任意の数字 ) 」と表示される  
16 ビット版クライアントから暗号化メールを受信すると、受信メール表示ウィンドウで添付ファイルが「 ~ .ssN 」と表示されます。メールを復号すると、暗号化前のファイル名になります。

### (6) 16 ビット版クライアントのローカル宛先簿ファイルを 32 ビット版クライアントで使用する場合は注意する

#### 概要

16 ビット版クライアントのローカル宛先簿ファイルは Integrated Desktop のローカル宛先台帳として使用できますが、その際の注意事項が幾つかあります。

#### 詳細説明

注意事項を次に示します。

- 16 ビット版クライアントのローカル宛先簿ファイルのグループ数と Integrated Desktop のローカル宛先台帳のグループ数との合計が 256 個を超えると、32 ビット版クライアント用に変換できません。
- 16 ビット版クライアントのローカル宛先簿ファイルのグループ名に半角の「 / ( スラッシュ ) 」が含まれている場合、Integrated Desktop のローカル宛先台帳では半角の「 \_ ( アンダーバー ) 」に変換されます。
- 16 ビット版クライアントのローカル宛先簿ファイルと Integrated Desktop のローカル宛先台帳に同じグループ名がある場合、基本的には Integrated Desktop のローカル宛先台帳の同じ名前のグループにローカル宛先簿ファイルのグループの宛先が変換されて格納されます。ただし、ローカル宛先台帳の同じ名前のグループに既に同じ宛先がある場合は、ローカル宛先台帳の宛先には上書きされません。

### (7) リッチテキストモードの回覧の本文を、16 ビット版クライアントで変更した場合、次に受信する人からプレーンテキストモードになる

リッチテキストモードで送信された回覧の本文を、16 ビット版の Mail Client で変更して回送した場合、次から受信する人の本文はプレーンテキストモードになります。

また、その回覧に添付ファイルが 24 個添付されているとき、次に 32 ビット版のメール機能で受信した場合、添付ファイルにリッチテキスト本文 ( 16 ビット版 Mail Client の 1 番目の添付ファイル ) が加わり 24 個目に設定されていた添付ファイルが参照できなくなります。

## 2. クライアント運用時のノウハウ

### (8) 掲示板を削除できるユーザの 32 ビット版クライアントと 16 ビット版クライアントの相違点

#### 概要

掲示板を削除できるユーザは、32 ビット版クライアントと 16 ビット版クライアントとでは違いがあります。

#### 詳細説明

32 ビット版クライアントと 16 ビット版クライアントの掲示板を削除できるユーザをそれぞれ説明します。

- 32 ビット版クライアントの掲示板を削除できるユーザ  
書き込み権を持ち、所有者が「組織」になるように設定した掲示板内の記事や掲示板は、その組織のユーザであるだけでは削除できません。組織が所有する掲示板を作った場合、記事を削除できるのはサーバ側だけです。
- 16 ビット版クライアントの掲示板を削除できるユーザ  
書き込み権を持ち、所有者が「組織」になるように設定した掲示板内の記事や掲示板は、その組織のユーザならば削除できます。

### (9) 16 ビット版クライアントだけにある機能

#### 概要

次に示す機能は、16 ビット版クライアントだけでサポートしています。32 ビット版クライアントでは使用できないので注意してください。

- 定型文書  
メール定型文書棚フォルダ、定型文書の登録、削除及びメールへの取り込み
- 共用キャビネットの一部機能  
文書ひな形機能、アクション実行機能、検索結果集合の論理積及び論理和、TS 未登録文書一覧機能、文書配布機能
- HOAPSERV 連携  
OFISMAIL とのメールの送受信
- 組織での記事の掲示  
組織でログインした場合の掲示板への記事の掲示

#### 詳細説明

上記の機能のうち、メール定型文書棚フォルダは Integrated Desktop の機能指向主画面のツリービューに表示されます。表示されないようにするには、レジストリを次のように変更します。

1. ディレクトリ「Windows」の REGEDIT.EXE を起動する
2. HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥Gmax Desktop Client¥0210 の下にある、[ CanUseFolder ] キーの「Mail」サブキーの ONLINE 値を「1110000000」に変更する



## 2.13 OS や他社製品との関連

ここでは、Groupmax クライアント製品とその OS である Windows 95，Windows 98，Windows NT，Windows 2000，Windows XP 及び Windows Me との関連についての注意事項を説明します。また、Groupmax クライアント製品と他社の製品とを連動して使用するときの注意事項，知っておきたい機能及びトラブル発生時の対処方法を説明します。

記載している項目と記載場所を，表 2-19 に示します。

表 2-19 記載項目と記載場所（OS や他社製品との関連）

種別	記載項目	記載場所
注意事項	comctl32.dll (バージョン 4.7) が利用されているとツールバーに不具合が発生することがある	2.13.1(1)
	comctl32.dll のバージョンによってローカル宛先エディタが正しく表示されないことがある	2.13.1(2)
	受信トレイを使用してメールを送受信するときの注意事項	2.13.1(3)
	仮想オフィス環境から PDMACE を起動するとウィンドウが見えなくなることがある	2.13.1(4)
	Word 文書をアイコン状態で送信するときの注意事項	2.13.1(5)
	Excel を起動したときにサンプルマクロが表示されることがある	2.13.1(6)
	Word や Excel からメールを送信するとメッセージエディタが後ろに回り込むことがある	2.13.1(7)
	Mail Client や Address Client を日英辞書引き君と同時に使用しない	2.13.1(8)
	メールが印刷できないプリンタドライバ	2.13.1(9)
	パーソナルコンピュータにウィルスバスター 95 又はウィルスバスター 95Lite が常駐されている場合，Document Manager の常駐プロセスを解除する	2.13.1(10)
	Form の伝票を ORACLE データベースに登録すると項目属性によってスペースデータの扱いが異なる	2.13.1(11)
	Access にアタッチする Form の数値データには倍精度浮動小数点型を使用する	2.13.1(12)
	Windows 98，Windows 2000，Windows XP 及び Windows Me では動作が異なる場合がある	2.13.1(13)
	Microsoft Office ショートカットバーのようなプログラムと Integrated Desktop を同時に起動しないようにする	2.13.1(14)
知っておきたい機能	Word，Excel 及び一太郎で作成したデータを共用キャビネットに登録したり，メールとして送信したりするには	2.13.2(1)
	外部データベースとして ORACLE を使用している場合に SQL トレースを採るには	2.13.2(2)
	ORACLE で作成したテーブルの年表示 (DATE 型) を 4 桁にするには	2.13.2(3)

## 2. クライアント運用時のノウハウ

種別	記載項目	記載場所
トラブル対処方法	一太郎 6.0 で登録した文書を一太郎 8.0 で編集し、保存するときに作業中文書一覧メニューを選択するとエラーになるとき	2.13.3(1)
	共用キャビネットに保存されている一太郎 6.3 形式の文書を開こうとすると「ファイル名が不適切です」というメッセージが表示されるとき	2.13.3(2)
	Form の伝票をワークフロー案件として投入すると ORACLE データベースから「TNS からエラーを受け取りました」というメッセージが表示されるとき	2.13.3(3)

### 2.13.1 注意事項

#### (1) comctl32.dll (バージョン 4.7) が利用されているとツールバーに不具合が発生することがある

##### 概要

Integrated Desktop がインストールされているパーソナルコンピュータで、Microsoft 社の comctl32.dll (バージョン 4.7) が利用されていると、Groupmax のツールバーに不具合が発生することがあります。

##### 詳細説明

Integrated Desktop のツールバーのボタンは「通常サイズの ( 絵の ) ボタン」, 「拡大サイズの ( 絵の ) ボタン」及び「文字列付きボタン ( 絵と文字列のボタン )」のどれかで表示できます。

ツールバーのボタンを「文字列付きボタン」の状態を表示していると、comctl32.dll に関する不具合が発生する頻度が高くなります。なるべくツールバーのボタンは絵のボタンの状態で使用してください。

また、ツールバーをウィンドウ上部から左部へ移動すると、ボタンが消えてしまうという現象が発生することもあります。その場合は、そのウィンドウをいったん最小化し、再度元の大きさで表示するとボタンが表示されます。

なお、この不具合はバージョン 4.7 の comctl32.dll を使用している場合に発生します。バージョン 4.00.950 の comctl32.dll では発生しません。

ただし、comctl32.dll は OS が持つ DLL ファイルなので comctl32.dll を含む製品のバージョンと密接な関係があります。このため、このファイル単体で入れ替えるとシステムに影響が出ます。絶対に単体での入れ替えはしないでください。

#### (2) comctl32.dll のバージョンによってローカル宛先エディタが正しく表示されないことがある

パーソナルコンピュータの Windows\System ディレクトリにある comctl32.dll のバージョンによっては、ローカル宛先台帳にグループ登録後、一度ローカル宛先エディタのウィンドウを閉じて再度開いたときに、ツリーのルートが正しく表示されないことがあります。

**(3) 受信トレイを使用してメールを送受信するときの注意事項****概要**

Windows の受信トレイを使用して Groupmax のメールを送受信する場合、受信トレイでは使用できないメールの機能や、受信トレイを使用するときの注意事項があります。

**詳細説明**

受信トレイでは使用できない機能を以下に示します。使用できない機能は、代わりに Integrated Desktop の機能などを利用してください。

- 着信監視及び着信報告（エージェントの着信メッセージ機能を利用する）
- サーバ上の送信メール削除（Integrated Desktop 又はサーバの自動削除機能を利用する）
- 送信メールの状態表示（Integrated Desktop を利用する）
- 受信者名公開（メッセージエディタを利用する）
- 受信者再指定禁止（メッセージエディタを利用する）
- 配信日時指定（メッセージエディタを利用する）
- 至急メール指定（メッセージエディタを利用する）
- 暗号化メールの送受信（Integrated Desktop を利用する）
- 代行受信設定（Integrated Desktop 又はメッセージエディタを利用する）
- OLE 貼り付け（添付ファイルとして設定する）

受信トレイを使用するときの注意事項を以下に示します。

- Groupmax Mail アドレス帳の表示名（ニックネーム）のソート順はコード順  
表示名が日本語名でも五十音順にはなりません。
- Groupmax Mail アドレス帳の検索は表示名（ニックネーム）の部分一致検索
- Groupmax Mail アドレス帳からの検索結果一覧は、Groupmax Mail アドレス帳を再表示すると内容がクリアされる
- Windows NT 4.0 では一太郎 7.0 の [ ファイル ] - [ 送信 ] メニューからの送信ができない  
一度ファイルに保存後、メールの添付ファイルとして送信してください。
- [ ツール ] - [ オプション ] の [ 送信 ] タブで、確認を受け取るタイミングに開封されたタイミングを設定しても開封確認メールは発行されない
- 「Hitachi Groupmax Mail」の設定されたプロファイル中にヘルプで説明されている以外のインフォメーションサービスを追加する場合は、プロファイルのプロパティを表示して [ アドレス帳 ] タブの「送信時に名前を確認するアドレス一覧の順番」を確認する  
「Groupmax Mail アドレス帳」の設定が消えてしまうことがあります。  
「Groupmax Mail アドレス帳」の設定がない場合は、アドレス一覧の追加ダイアログボックスから「Groupmax Mail アドレス帳」を追加してください。  
設定されていないと Groupmax のアドレス帳を利用できないことがあります。
- 親展パスワードチェックを実行してダウンロードした受信メールは、親展パスワードチェックしないで開くことができる

## 2. クライアント運用時のノウハウ

- Groupmax Mail アドレス帳では、マウスでスクロールバーを使用してスクロールした場合の複数選択はできない
- 他社のアプリケーションから送信した場合、Groupmax のログイン画面で [キャンセル] ボタンを押しても再度ログイン画面が表示されてしまうことがある
- 電子アドレス帳の宛先から受信トレイのメッセージ作成ウィンドウの宛先にドラッグ & ドロップすると、受信トレイのメッセージ作成ウィンドウが一番後ろに表示されることがある
- プロファイルのプロパティ画面の操作をすると、タスクバーに「Groupmax ログイン」というタイトルのアイコンが表示されることがある
- 受信トレイで重要度を設定するとそれに対応して優先度も設定される  
例えば、重要度を「高」にすると優先度は「至急」になります。
- 受信時動作モードで「ダウンロード後サーバからメールを削除」を設定していない場合、サーバ上の受信メールは削除されない  
Integrated Desktop を利用するかサーバの自動削除機能を利用して削除してください。
- 添付ファイルを設定して送信した場合、添付ファイルの設定位置情報は保存されない  
Integrated Desktop で受信した場合は添付ファイルとして受信され、受信トレイを使用して受信した場合は本文の先頭に付加されて受信されます。
- 添付ファイル付きのメールを受信した場合、そのメールを転送しても添付ファイルが正しく送信されないことがある  
一度添付ファイルをローカルディスクに保存後、転送時に再度添付ファイルを設定し直してください。
- Windows 標準の「Microsoft Exchange」や「Windows Messaging」を使用する  
WordMail や Outlook などを受信トレイを拡張した場合、本文が正しく送受信されなかったり画面表示が不適切になることがあります。
- 本文だけのメールサイズが 15 キロバイトを超えたメールの場合、本文が正常に送信されないことがある  
重要なメールは本文だけのメールサイズを確認後送信してください。

### (4) 仮想オフィス環境から PDMACE を起動するとウィンドウが見えなくなることがある

仮想オフィス環境のエンジニアリング書庫メタファから PDMACE を起動した場合、[ブローカの指定] ダイアログボックスや [データベースの指定] ダイアログボックスが最小化した状態で表示されたり、他のアプリケーションウィンドウの背面に移動したりして見えなくなることがあります。

### (5) Word 文書をアイコン状態で送信するときの注意事項

Word の文書を Groupmax のメールとして送信するとき、送信文書が Word 画面でアイコン状態であっても、送信後はアイコンを開いた状態に変わります。

### (6) Excel を起動したときにサンプルマクロが表示されることがある

Excel を起動したとき、以前に実行した Mail のサンプルマクロ

(GMMXINST.XLS) が残っていて表示されることがあります。その場合でも Mail 及びサンプルマクロには何も影響はありません。マクロを閉じて作業を続行してください。

### (7) Word や Excel からメールを送信するとメッセージエディタが後ろに回り込むことがある

メッセージエディタのウィンドウサイズを最大にしている場合、Word 又は Excel からメール本文や添付ファイルとしてメールを送信すると、メッセージエディタのウィンドウが Word や Excel の後ろに回り込むことがあります。

このような場合は、メッセージエディタのウィンドウを前面に切り替えて使用してください。

### (8) Mail Client や Address Client を日英辞書引き君と同時に使用しない

Mail Client 又は Address Client を日英辞書引き君と同時に使用すると、Mail Client や Address Client の動作が不正になることがあります。Mail Client 又は Address Client と日英辞書引き君とは同時に使用しないでください。

### (9) メールが印刷できないプリンタドライバ

Windows NT 上からメールを印刷する場合、次のプリンタドライバでは印刷できないので注意してください。

Fuji Xerox DocuStation DP300Ex ( PostScript プリンタドライバ Version 1.2.0 )

### (10) パーソナルコンピュータにウィルスバスター 95 又はウィルスバスター 95Lite が常駐されている場合、Document Manager の常駐プロセスを解除する

#### 概要

パーソナルコンピュータに、トレンドマイクロ社のウィルスバスター 95 又はウィルスバスター 95Lite が常駐されている場合、Document Manager の常駐プロセスを解除しないで Windows を終了したり、文書のアップロード及びダウンロードをしたりすると Document Manager の常駐プロセス (GDMCDIS.EXE) が異常終了することがあります。

#### 詳細説明

パーソナルコンピュータに、トレンドマイクロ社のウィルスバスター 95 又はウィルスバスター 95Lite が常駐されている場合、Windows を終了したり、文書をアップロード又はダウンロードしたりする前に、Document Manager の常駐プロセスを解除してください。

なお、トレンドマイクロ社のウィルスバスター 97 ではこの現象は発生しません。ただし、ウィルスバスター 97 を使用する場合は、必ず Groupmax の設定で起動モジュールをスタートアップに登録してください。

### (11) Form の伝票を ORACLE データベースに登録すると項目属性によってスペースデータの扱いが異なる

#### 概要

Form で作成した伝票の項目にスペースデータを入力して ORACLE データベースに登録すると、項目属性によってスペースデータの扱いが変わります。

## 2. クライアント運用時のノウハウ

### 詳細説明

ORACLE テーブルの項目属性が CHAR 型の場合、スペースの項目には項目長分のスペースが登録されます。

ORACLE テーブルの項目属性が VARCHAR 型の場合は、外部データベースオプションの文字列後部スペースカットの値が「ON」か「OFF」かでスペースデータの扱いは次のようになります。

- ON (スペースカットする)  
スペースはすべてカットされ、NULL 値となります。
- OFF (スペースカットしない)  
項目長分のスペースが登録されます。

### (12) Access にアタッチする Form の数値データには倍精度浮動小数点型を使用する

#### 概要

Form で作成した伝票の数値データを Access にアタッチさせる場合は、数値データに倍精度浮動小数点型を使用してください。

#### 詳細説明

Access の数値型は、Form では倍精度浮動小数点型となります。

通常、Form の数値型は固定小数点型です。Form の固定小数点型の数値データは、Access にアタッチすると通貨型となります。

### (13) Windows 98 , Windows 2000 , Windows XP 及び Windows Me では動作が異なる場合がある

Windows 98 , Windows 2000 , Windows XP 及び Windows Me で Groupmax クライアントを使用した場合、次に示す三つの現象が発生する場合がありますので御注意ください。

仮名文字が半角から全角に変わる

Windows システムが持っている仮名文字が、半角 (Windows 95) から全角 (Windows 98 , Windows 2000 , Windows XP 及び Windows Me) に変わっているため、Windows 95 で半角を指定しても Windows 98 , Windows 2000 , Windows XP 及び Windows Me のウィンドウによっては全角に見える場合があります。

ダイアログボックスに表示されるデフォルトパスが異なる ([ スタート ] メニューから起動した場合)

ファイルを保存するダイアログボックスに表示されるデフォルトパスには、Windows 95 では「Groupmax をインストールしたディレクトリ \Desktop」と表示されます。しかし、Windows 98 , Windows 2000 , Windows XP 及び Windows Me では「マイドキュメント」と表示される場合があります。

ダイアログボックスやメッセージが最前面に表示されない

プログラムの起動や終了時に表示されるダイアログボックスや作業中に発生したエラーを知らせるメッセージなどが、Windows 98 , Windows 2000 , Windows XP 及び Windows Me の場合、最前面に表示されない場合があります。

なお、最前面に表示されない場合、タスクバーのプログラムのアイコンが点滅します。

#### (14) Microsoft Office ショートカットバーのようなプログラムと Integrated Desktop を同時に起動しないようにする

Microsoft Office ショートカットバーのような Windows デスクトップ領域の端（一部の領域）を占有し、Windows デスクトップ領域全体の位置（原点）やサイズを変更するプログラムと Integrated Desktop を同時に起動すると、Integrated Desktop の画面が通常利用しているサイズとは異なったサイズで表示される場合があります。

### 2.13.2 知っておきたい機能

#### (1) Word, Excel 及び一太郎で作成したデータを共用キャビネットに登録したり、メールとして送信したりするには

##### 概要

Document Manager 及び Mail は、Word, Excel 又は一太郎のマクロ機能を組み合わせることで、そのアプリケーションから共用キャビネットへの文書登録や、Groupmax のメールの発信ができます。

この機能をご利用いただくために、Word, Excel 及び一太郎に対応したサンプルマクロを Document Manager 及び Mail のクライアント製品に標準添付しています。

##### 詳細説明

Document Manager 及び Mail が提供しているサンプルマクロを表 2-20 及び表 2-21 に示します。

これらのサンプルマクロはそのままでも使用できますが、ユーザの業務に応じて変更することもできます。

なお、この機能は WWW 環境では動作いたしませんので、ご注意ください。

表 2-20 Document Manager が提供しているサンプルマクロ

Document Manager バージョン	Word			Excel			一太郎 <sup>1</sup>	
	6.0	7.0	97/ 2000	5.0	7.0	97/ 2000	6.3	8.1
06-00 版	-			-			-	- <sup>2</sup>

（凡例） : 対応するアプリケーションのサンプルマクロを提供しています。

- : 対応するアプリケーションのサンプルマクロを提供していません。

注 1 一太郎 7.x では（株）ジャストシステムからマクロ機能が提供されていないため、サンプルマクロは提供していません。

注 2 一太郎 8.1 以降の対応については、一太郎 8.1（一太郎 8 Office Edition を含む）が提供しているマクロ機能に不具合があるため、今後のサンプルマクロの提供については未定です。

## 2. クライアント運用時のノウハウ

表 2-21 Mail が提供しているサンプルマクロ

Mail バージョン	Word			Excel			一太郎 <sup>2</sup>	
	6.0	7.0	97/98/ 2000	5.0	7.0	97/ 2000	6.3	8.1
06-00 版	-		- 1	-		- 1	-	- 1

(凡例) : 対応するアプリケーションのサンプルマクロを提供しています。

- : 対応するアプリケーションのサンプルマクロを提供していません。

注 1 サンプルマクロの提供は致しませんが、マクロからコールするインタフェース情報を公開しています。

注 2 一太郎 7.x では (株) ジャストシステムからマクロ機能が提供されていないため、サンプルマクロは提供していません。

### (2) 外部データベースとして ORACLE を使用している場合に SQL トレースを採るには

外部データベースとして ORACLE を使用している場合に、SQL トレースを採る方法は次のとおりです。

1. [コントロールパネル] の「ODBC」アイコンをダブルクリックする
2. [データソース] ダイアログボックスの [オプション] ボタンをクリックし、「ODBC 呼び出しのトレース」をチェックする
3. ORACLE をインストールしたディレクトリ (¥NETWORK¥ADMIN) の下にある SQLNET.ORA を開き、「TRACLE\_LEVEL\_CLIENT=OFF」の値を「ON」にする

### (3) ORACLE で作成したテーブルの年表示 (DATE 型) を 4 桁にするには

Form で、ORACLE データベースで作成したテーブルをアタッチすると、年 (DATE 型) が 2 桁で表示されます。これを 4 桁にするには次のようにします。

- Form の開発ウィンドウで [オプション] - [日付関数情報設定] を選択し、年の桁数を 4 桁に設定する

## 2.13.3 トラブル対処方法

### (1) 一太郎 6.0 で登録した文書を一太郎 8.0 で編集し、保存するときに作業中文書一覧メニューを選択するとエラーになるとき

#### 現象

共用キャビネットに登録してある一太郎 6.0 形式の文書を一太郎 8.0 で開き、文書を編集した後に一太郎 8.0 形式で保存する場合があります。このとき元の一太郎 6.0 形式の文書を削除すると、[作業中文書一覧] メニューを選択したときにエラーとなり、文書の再編集やサーバへの保存ができなくなります。

#### 要因と対処方法

この現象は、Document Manager がファイル更新の有無などをチェックするとき、一太郎 6.0 形式ファイルと 8.0 形式ファイルでは拡張子が異なるので、文書の管理情報の不整合とみなすために発生します。

次の手順で回避してください。

1. 一太郎 8.0 形式で文書を保存するときに表示される [ファイルの保存] ダイ



アログボックスで、いったん Groupmax 管理の作業領域以外のディレクトリに保存する

2. 旧バージョンのファイルを削除するかどうかのメッセージに対しては「削除しない」を選択する
3. 開いている文書ファイルを閉じる
4. 共用キャビネットの [ 作業中文書一覧 ] で目的の文書の [ ファイル一覧 ] ダイアログボックスを表示し、作業領域ディレクトリに保存した一太郎 8.0 形式のファイルを追加する  
このとき、旧バージョンのファイルが不要なら、[ ファイル一覧 ] ダイアログボックスから削除してください。  
旧バージョンのファイルが「主ファイル」になっている場合は、主ファイルを新しく追加したファイルに変更してください。
5. 共用キャビネットの [ 作業中文書一覧 ] で、ファイルをサーバに保存する

### (2) 共用キャビネットに保存されている一太郎 6.3 形式の文書を開こうとすると「ファイル名が不適切です」というメッセージが表示される時

#### 現象

Document Manager の共用キャビネットに保存されている一太郎 6.3 形式の文書を開こうとすると「ファイル名が不適切です」というメッセージが表示され、ファイルが開けないことがあります。

#### 要因と対処方法

開こうとしている文書のパス名やファイル名が 64 バイトを超えていると、一太郎 6.3 の制限のためにファイルが開けません。

このような場合、次に示す操作で対処してください。

- 統合セットアップの「Desktop の環境」の設定で、個人フォルダ用のデフォルトパスのパス名を短くする
- ファイル名が長い場合、ファイル名を変更して 64 バイト以内に収まるようにする

### (3) Form の伝票をワークフロー案件として投入すると ORACLE データベースから「TNS からエラーを受け取りました」というメッセージが表示される時

#### 現象

Form で作成した伝票をワークフロー案件として投入する場合、Integrated Desktop の INBOX から ORACLE に接続する Form の伝票を起動すると、「[ Oracle ][ ODBC Oracle Driver ][ Oracle OCI ] ORA-12196:TNS: TNS からエラーを受け取りました」というメッセージが表示されることがあります。

#### 要因と対処方法

この現象は、ワークフロー連携機能のビジネスプロセス内作業机（ユーザ処理リスト）で「Groupmax フォーム表示」と定義されたノード上で上記のような案件投入処理をすると発生します。

レジストリを次のように指定すると、エラーを回避できます。

1. ディレクトリ「Windows」の中の REGEDIT.EXE を起動する

## 2. クライアント運用時のノウハウ

2. [ HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥Gmax Desktop Client¥0210 ] の下に [ WfEdit ] キー及び [ Form ] キーを作成する
3. 文字列 [ EncloseCommand ] に「OFF」を設定する

---

## 3 . クライアント環境の保守

---

この章では、Groupmax クライアント製品の障害時に採取していただく障害情報を説明しています。また、障害報告時に併せて連絡していただきたい項目を説明しています。

- 
- 3.1 障害対策の概要及び詳細説明の記載場所
  - 3.2 障害報告時に併せて連絡していただきたい項目
  - 3.3 共通して採取する障害情報
  - 3.4 機能別に採取する障害情報
  - 3.5 レジストリキーの設定方法

### 3.1 障害対策の概要及び詳細説明の記載場所

クライアント製品に障害が発生した場合は、障害情報を採取して、弊社問い合わせ窓口ご連絡してください。ほかに採取の必要な情報があれば、それぞれの採取方法に従って各情報を採取してください。

ここでは、機能別の採取する情報と採取するファイルの一覧を、表 3-1 に示します。

実際の採取方法及び詳細説明は、表 3-2 の各機能の採取情報の記載場所を参考に、3.2 節以降の本文を参照してください。

なお、表 3-1 のファイルで、ファイルのパスが「¥」から始まっているものは、Integrated Desktop のインストールディレクトリ下であることを示します。

表 3-1 機能ごとの採取する情報とファイル

機能	採取情報	ファイル
各機能で共通に採取する項目	スナップショット情報	¥Desktop¥Log¥Debug.log 及び ¥common¥Log¥Debug.log 又は ¥Desktop¥Log 下の全ファイル及び ¥common¥Log 下の全ファイル
	トレース情報	¥Desktop¥Log¥Trace.log 及び ¥common¥Log¥Trace.log 又は ¥Desktop¥Log 下の全ファイル及び ¥common¥Log 下の全ファイル
	(Integrated Desktop の作業環境で発生した障害の) プロファイル情報	¥Desktop¥Log¥Profile.log 及び ¥common¥Log¥Profile.log 又は ¥Desktop¥Log 下の全ファイル及び ¥common¥Log 下の全ファイル
メール	エラーログ情報	¥Address¥Trace¥gmail.ras
	(電子アドレス帳などの) エラーログ情報	¥Address¥Trace¥gmail.ras
	(外部宛先台帳の) エラーログ情報	Directory Client インストールディレクトリ ¥Log ¥gadirxx.trc (xx は 2 桁の数字)
エージェント	関数トレースなどのトレース情報	レジストリキー「FILENAME」のファイル
	アプリケーションエラーの種類	Windows ディレクトリ下の AgtExcp.log
	エージェント定義情報	個人フォルダのパス ¥Agent 下の全ファイル
	テンプレート定義データ解析結果情報	レジストリキー「HTMLTraceFilename」のファイル
電子帳票	電子帳票コマンドトレース	レジストリ「Path」に指定したディレクトリ下のファイル

機能	採取情報	ファイル
	案件情報トレース	Form Client インストールディレクトリ ¥Log¥WfTrace ¥Wftrxxxx.log ( xxxx は 10 進数の通し番号 )
	共用キャビネット 連携処理トレース	Form Client インストールディレクトリ ¥Log¥DocMan ¥dmtrxxxx.log ( xxxx は 10 進数の通し番号 )
	Form メモリ管理ロ グ	システムのテンポラリディレクトリ ¥ETErrLog32.tmp
	エラーメッセージロ グ	Form Client インストールディレクトリ ¥Log¥Message¥Messagex.log ( x は 0 から 9 までの通 し番号 )
	情報取得ツールで 採取する情報	取得後、特定のファイルに格納する
	ODBC トレース	ODBC トレース実行時に指定したファイル
共用キャビ ネット	エラーログ情報	¥DocMan¥spool¥gdmcbcd.log , ¥DocMan¥spool¥gdmcbcd2.log , ¥DocMan¥spool¥gdmcapi.log 及び ¥DocMan¥spool¥gdmcapi2.log
ワーク フロー	エラーログ情報	¥Workflow¥Log¥wfcltrc.cur , ¥Workflow¥Log¥wfcltrc.pre , Windows ディレクトリ下の wfcltrc.cur , wfcltrc.pre , wfclapi.log 及び wfclap2.log
	トレース情報	¥Workflow¥Log¥wferrinf
Groupmax Process Manager	トレース情報	¥Desktop¥Log 及び ¥common¥Log¥Mlogfile.log 又は ¥common¥Log¥gmaxprc.log ( 又はレジストリ「AccessLogFile」及び 「MessageLogFile」のファイル )

注 情報を採取する前に、Groupmax の終了やレジストリキーの変更が必要な場合があります。詳細は各情報の本文を参照してください。

3.2 節以降で説明している障害情報及びその記載場所を表 3-2 に示します。

表 3-2 障害情報とその記載場所

記載している情報	説明概要	記載場所
障害報告時に併せて連絡し ていただきたい項目	障害を弊社問い合わせ窓口に連絡するときに、併 せて連絡していただきたい項目を説明していま す。	3.2
共通して採取する障害情報	Groupmax のクライアント機能の使用中に障害が 発生した場合、ほとんどの状況で共通して採取す る Integrated Desktop のスナップショット、ト レース情報及びプロファイル情報の採取方法につ いて説明しています。	3.3
統合セットアップで障害が 発生した場合の障害情報	統合セットアップで障害が発生したときの採取情 報を説明しています。	3.4.1

### 3. クライアント環境の保守

記載している情報	説明概要	記載場所
メール機能で障害が発生した場合の障害情報	メール機能で障害が発生したときの採取情報及び採取方法を説明しています。 また、電子アドレス帳、ローカル宛先台帳又はローカル宛先ファイル変換ユーティリティ機能で障害が発生した場合、及び外部宛先台帳で障害が発生した場合の採取情報及び採取方法を説明しています。	3.4.2
エージェント機能で障害が発生した場合の障害情報	エージェント機能で障害が発生したときの採取情報及び採取方法を説明しています。	3.4.3
スケジュール管理機能で障害が発生した場合の障害情報	スケジュール管理機能で障害が発生したときの採取情報を説明しています。	3.4.4
電子帳票機能で障害が発生した場合の障害情報	電子帳票機能で障害が発生したときの採取情報及び採取方法を説明しています。	3.4.5
共用キャビネットで障害が発生した場合の障害情報	共用キャビネットで障害が発生したときの採取情報及び採取方法を説明しています。	3.4.6
ワークフロー案件処理機能で障害が発生した場合の障害情報	ワークフロー案件処理機能で障害が発生したときの採取情報及び採取方法を説明しています。	3.4.7
Groupmax Process Manager のトレース情報	Groupmax Process Manager の、トレース情報の採取方法を説明しています。	3.4.8

## 3.2 障害報告時に併せて連絡していただきたい項目

ご連絡の前に、以下の情報を控えていただくことをお願いします。

1. ハードウェアのご購入日
2. ハードウェアの機種名
3. 発生している障害の現象  
発生している現象をなるべく詳しく控えてください。エラーメッセージが表示されていればそのハードコピーを採ってください。また、詳細ボタンで dump 情報がプルダウン表示される場合は、カット & ペーストでメモ帳などに貼り付け、テキストデータとしてください。
4. 環境変更の有無
  - 新規に導入した
  - ハードを変更した
  - 定義を変更した
  - プログラムを変更した
  - 環境の変更はしていない
  - その他の変更をした
5. 障害が発生する頻度
  - 発生したままである
  - 頻発する
  - 頻発ではないが、ときどき発生する
  - もう発生しない
6. 障害が発生するユーザ
  - 特定のユーザでログインしたときだけ発生する
  - 確認したユーザすべてで発生する
7. 発生するパーソナルコンピュータ
  - 特定のパーソナルコンピュータ
  - 複数のパーソナルコンピュータ
  - わからない
8. 発生日時
  - 月 日 時 分
  - 数ヶ月前
  - その他
9. 障害が発生する前にしていた操作
10. 発生するときの条件
11. 組み込んでいるソフトウェア  
ログイン先のサーバ
  - マスタ管理サーバ又はアドレスサーバ
  - OS 名称とバージョン (ServicePack がある場合はそれも含む)
  - 使用しているデータベース
  - 使用ソフトウェアの製品名称、型名、及びバージョン
  - スタートアップに組み込まれているモジュール
  - 使用しているウィルス発見プログラムなどの名称
  - 常駐しているプログラム (ウィルス発見プログラムなど) があるかどうか

### 3. クライアント環境の保守

#### クライアント側

- OS 名称とバージョン (ServicePack がある場合はそれも含む)
- 使用ソフトウェアの製品名称, 型名, 及びバージョン
- スタートアップに組み込まれているモジュール
- 使用しているウィルス発見プログラムなどの名称
- 常駐しているプログラム (ウィルス発見プログラムなど) があるかどうか

#### 12. システム構成

##### ログイン先のサーバ

- シングルサーバの場合  
ワークステーション, 又はパーソナルコンピュータ
- マルチサーバの場合  
マスタ管理サーバがワークステーション, 又はパーソナルコンピュータ  
アドレスサーバの台数 (ワークステーションの台数, パーソナルコンピュータの台数)  
システム装置名  
CPU 名 (クロック MHz)  
搭載メモリ 標準 MB  
                  拡張 MB  
ハードディスク容量 MB/GB

##### クライアント側

##### システム装置名

CPU 名 (クロック MHz)

搭載メモリ 標準 MB

                  拡張 MB

ハードディスク容量 MB/GB

##### ネットワーク環境の情報

- NetWare サーバを使用しているか
- LAN, PPP 接続

#### 13. 特記事項

#### 14. サーバ製品の保守情報



### 3.3 共通して採取する障害情報

ほとんどの機能の障害時に共通して採取する障害情報には、主に次の二つがあります。

Integrated Desktop のスナップショット情報及びトレース情報

Integrated Desktop の各作業環境からメール、スケジュール管理、ワークフロー-案件処理及び共用キャビネットの制御環境で発生した障害のプロファイル情報

これらの情報を採取するには、障害情報採取の設定ツールで採取する情報を設定する方法と、各レジストリキーの値を変更して採取する情報を設定する方法があります。障害情報採取の設定ツールは、レジストリエディタを起動せずに情報が採取できるので、障害情報採取の設定ツールを使用して情報を採取することをお勧めします。

また、ここで採取する情報は、Integrated Desktop を起動すると上書きされるものがあるため、情報の採取が完了するまで Integrated Desktop は起動しないでください。また、これらの情報は、できるだけ障害が発生した後で時間を置かずに取り付けてください。

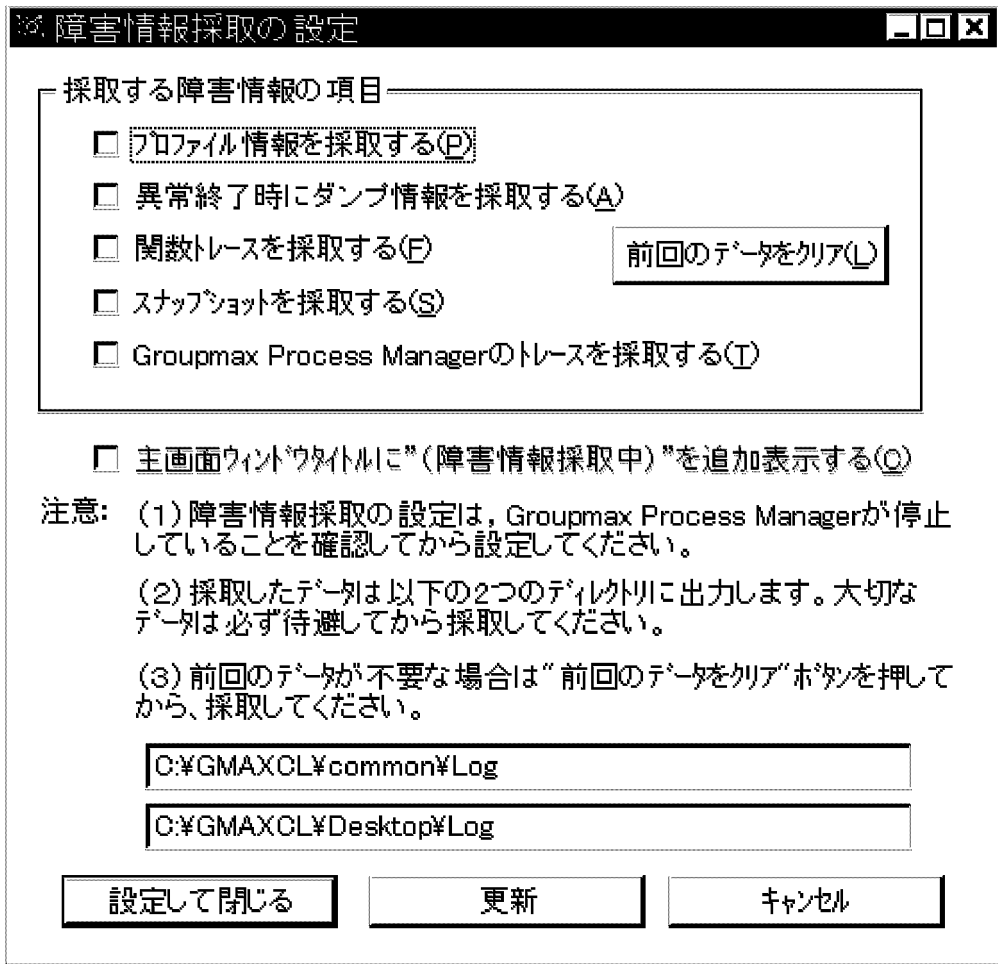
#### 3.3.1 障害情報採取の設定ツールでの障害情報採取

障害情報採取の設定ツールの起動及びウィンドウの操作方法を次に示します。

起動

エクスプローラなどで Integrated Desktop インストールディレクトリ下の Desktop\Program の下にある gmidtool.exe を実行します。図 3-1 に示す [ 障害情報採取の設定 ] ウィンドウが表示されます。

図 3-1 [ 障害情報採取の設定 ] ウィンドウ



#### ウィンドウの操作

**注意** 障害情報を採取する前に、Groupmax Process Manager が停止していること、及び、採取した情報の出力先に書き込まれては困るデータがないことを確認してください。

1. 採取したい情報のチェックボックスをチェックする  
共通して採取する情報を設定する場合は、通常「プロファイル情報を採取する」「関数トレースを採取する」及び「スナップショットを採取する」をチェックします。  
障害情報の一部（関数トレース、Groupmax Process Manager のトレース）は前回の出力データに追加して出力されます。ハードディスクの圧迫の原因ともなりますので、前回のデータが必要ない場合は [ 前回のデータをクリア ] ボタンをクリックしてから、障害情報を採取します。
2. [ 設定して閉じる ] ボタン又は [ 更新 ] ボタンをクリックする  
情報の採取が設定されます。[ 設定して閉じる ] ボタンをクリックした場合は、ウィンドウが閉じます。
3. 障害を再現させる

障害情報が採取されます。

4. 情報を採取した後は、採取する情報のチェックボックスのチェックをすべてはずしてから [ 設定して閉じる ] ボタンをクリックする

#### 障害情報の出力先

採取した障害情報は、それぞれ Integrated Desktop インストールディレクトリ下の次に示すファイルに出力されます。

- プロファイル情報  
Desktop¥Log¥Profile.log 及び common¥Log¥Profile.log
- 異常終了時のダンプ情報  
Desktop¥Log¥Abend.dmp 及び common¥Log¥Abend.dmp
- 関数トレース  
Desktop¥Log¥Trace.log 及び common¥Log¥Trace.log
- スナップショット  
Desktop¥Log¥Debug.log 及び common¥Log¥Debug.log
- Groupmax Process Manager のトレース  
common¥Log 及び common¥Log¥Mlogfile.log

### 3.3.2 レジストリキーの値の変更による障害情報採取

Groupmax のクライアントを終了させてから、regedit コマンドなどを使用して各レジストリキーの値を変更し、障害を再現させて、Integrated Desktop のインストールディレクトリ下の該当するファイルを採取してください。

**注意** レジストリを変更した場合は、各障害情報を取得する操作が終了したら、システムの負荷が大きくなるのを防ぐために変更したレジストリキーの値に「0」又はデフォルト値を設定してください。

なお、レジストリキーの設定方法については、「3.5 レジストリキーの設定方法」を参照してください。

次に、各障害情報の取得方法について説明します。

#### (1) Integrated Desktop のスナップショット情報及びトレース情報の採取

Integrated Desktop のエラーログ情報は、Integrated Desktop のインストールディレクトリの下での Desktop¥Log、及び common¥Log の下の error.log ファイルに出力されます。ただし、障害の内容によっては、エラーログが出力されない場合もあります。

##### (a) スナップショット情報

スナップショット情報の採取操作、採取する情報、及び変更するレジストリの位置と値を示します。

スナップショット情報を採取する操作が終了したら、レジストリキー「Debug」 - 「Level」の値に「0」を設定してください。

#### 操作

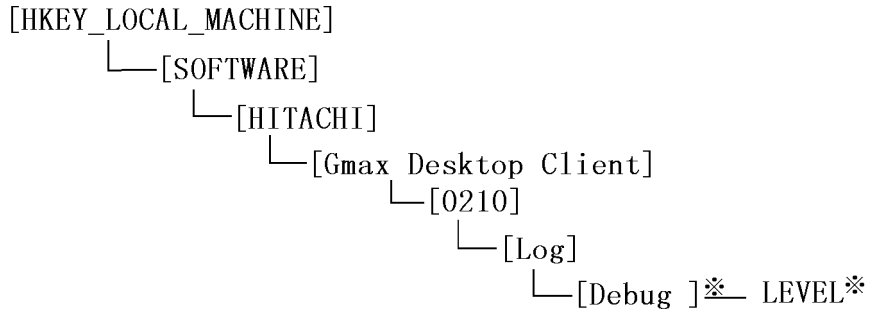
レジストリキーの追加・変更後、障害操作を再現します。

#### 採取情報

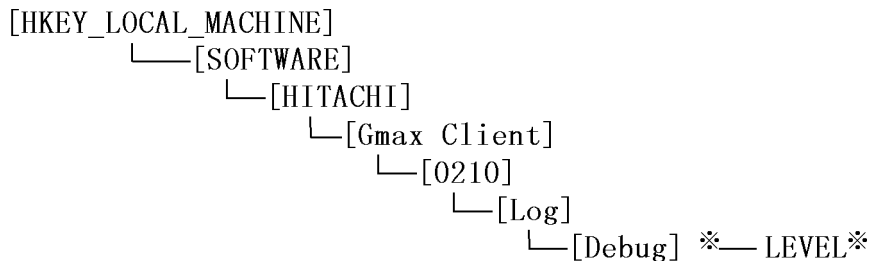
### 3. クライアント環境の保守

- Integrated Desktop のインストールディレクトリ下の ¥Desktop¥Log¥ の下の全ファイル
- Integrated Desktop のインストールディレクトリ下の ¥common¥Log¥ の下の全ファイル

レジストリの位置と値



ただし、統合セットアップで障害が発生した場合は、次に示すレジストリの位置になります。



Log レジストリ下に、「Debug」キーを作成します。

LEVEL (スナップショット採取フラグ)(デフォルト値:0)

このレジストリキーに「4」(文字列)を指定します。

注 出荷時設定では、レジストリキー「Debug」、「LEVEL」は作成されていません。スナップショット情報を採取する場合、Debug 以下のレジストリを作成してください。LEVEL にデフォルト値「0」を設定している場合には、このレジストリが存在しない場合と同様に動作します。

#### (b) トレース情報

トレース情報の採取操作、採取する情報、及び変更するレジストリの位置と値を示します。

トレース情報を採取する操作が終了したら、レジストリキー「Trace」 - 「MODE」の値にデフォルトの「None」を設定してください。

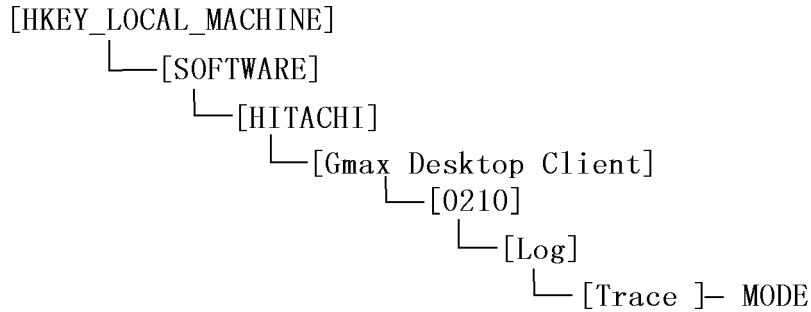
操作

レジストリキーの変更後、障害操作を再現します。

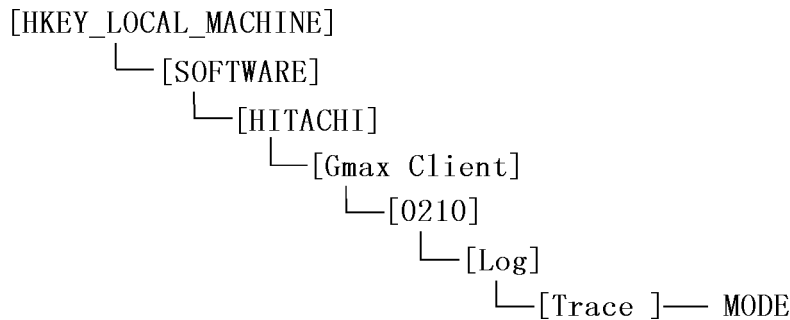
採取情報

- Integrated Desktop のインストールディレクトリ下の ¥Desktop¥Log¥ の下の全ファイル
- Integrated Desktop のインストールディレクトリ下の ¥common¥Log¥ の下の全ファイル

レジストリの位置と値



ただし、統合セットアップで障害が発生した場合は、次に示すレジストリの位置になります。



MODE (トレース対象指定) (デフォルト値: None)

トレースを採取する場合には、このレジストリキーに「FuncName」(文字列)を指定してください。

## (2) Integrated Desktop の各作業環境からメール、スケジュール管理、ワークフロー案件処理及び共用キャビネットの制御環境で発生した障害のプロファイル情報

Integrated Desktop の三つの作業環境 (機能指向環境, 業務指向環境又は仮想オフィス環境) から、メール、ワークフロー案件処理、エージェント、共用キャビネット、スケジュール管理などを使用している場合の制御関係に関する情報を採取できます。

プロファイル情報の採取操作、採取する情報、及び変更するレジストリの位置と値を示します。

プロファイル情報を採取する操作が終了したら、レジストリキー「Profile」 - 「LEVEL」の値に「0」を設定してください。

操作

レジストリキーの変更後、障害操作を再現します。

### 3. クライアント環境の保守

#### 採取情報

- Integrated Desktop のインストールディレクトリ下の ¥Desktop¥Log¥ の下の全ファイル
- Integrated Desktop のインストールディレクトリ下の ¥common¥Log¥ の下の全ファイル

#### レジストリの位置と値

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE]
├── [SOFTWARE]
│   └── [HITACHI]
│       └── [Gmax Desktop Client]
│           └── [0210]
│               └── [Log]
│                   └── [Profile] - LEVEL
```

LEVEL (プロファイル採取レベル)(デフォルト値:0)

このレジストリキーに、「4」(文字列)を指定してください。

## 3.4 機能別に採取する障害情報

この節では、障害が発生した Groupmax クライアント機能別に、「3.3 共通して採取する障害情報」で説明したものの以外に採取する障害情報について説明します。

**注意** 「3.3 共通して採取する障害情報」で説明した情報だけを採取すればよい機能については、採取する機能を説明しています。

### 3.4.1 統合セットアップで障害が発生した場合の情報採取

統合セットアップで障害が発生した場合は、一度、統合セットアップのアイコンを閉じた後で、「3.3 共通して採取する障害情報」で説明した、スナップショット情報及びトレース情報だけを採取します。

### 3.4.2 メール機能で障害が発生した場合の情報採取

メール機能使用中に障害が発生した場合の、情報採取について説明します。

メール機能に関する障害情報には次の三つがあります。障害の発生に合わせて、情報を採取してください。

メール機能のエラーログ情報

電子アドレス帳、ローカル宛先台帳、ローカル宛先ファイル変換ユーティリティ機能のエラーログ情報

外部宛先台帳のエラーログ情報

#### (1) メール機能のエラーログ情報の採取方法

メール機能で障害が発生した場合には、一度 Integrated Desktop を終了させた後で、エラーログ情報を採取してください。

ただし、ここで採取する情報は、Integrated Desktop を起動すると上書きされるものがあるため、情報の採取が完了するまで Integrated Desktop は起動しないでください。また、これらの情報は、できるだけ障害が発生した後で時間を置かずに採取してください。

メッセージエディタを使ってメールや回覧や掲示板を利用しているときに発生した、エラーログ情報を採取する方法を説明します。

操作

Integrated Desktop のインストールディレクトリの下

Address¥Program¥Gmtrput.exe を起動します。

取得情報

- Integrated Desktop のインストールディレクトリの下  
Address¥Trace¥gmail.ras ファイル及び gmailx.ras ファイル

#### (2) 電子アドレス帳、ローカル宛先台帳、ローカル宛先ファイル変換ユーティリティ機能のエラーログ情報の採取方法

電子アドレス帳、ローカル宛先台帳、又はローカル宛先ファイル変換ユーティリティを利用しているときに発生した、エラーログ情報を採取する方法を説明します。

### 3. クライアント環境の保守

障害が発生した場合には、一度 Integrated Desktop を終了させた後で、以下の情報を採取してください。

ただし、ここで採取する情報は、Groupmax のクライアントアプリケーションを起動すると上書きされるものがあるため、情報の採取が完了するまで Groupmax クライアントアプリケーションは起動しないでください。また、これらの情報はできるだけ障害が発生した後で時間を置かずに採取してください。

#### 操作

Integrated Desktop のインストールディレクトリの下の  
Address¥Program¥Gmtrput.exe を起動します。

#### 採取情報

- Integrated Desktop のインストールディレクトリの下の  
Address¥Trace¥gmail.ras ファイル及び gmail.ras ファイル

### (3) 外部宛先台帳で障害が発生した場合の情報採取

外部宛先台帳を利用しているときに障害が発生した場合、Directory Client のインストールディレクトリの下 Log ディレクトリの下 gadirxx.trc ファイル (xx は 2桁の数字) にログ情報が出力されます。

エラーログ情報を取得するときに、レジストリキーを変更する必要があります。

Groupmax のクライアントを終了させてから、レジストリキーの値を変更し、障害を再現させて、gadirxx.trc ファイルを採取してください。レジストリは regedit コマンドなどを使用して変更してください。

**注意** レジストリを変更した場合には、エラーログ情報を取得する操作が終了したら、システムの負荷が大きくなるのをためにレジストリキーの値を元に戻してください。

なお、レジストリキーの設定方法については、「3.5 レジストリキーの設定方法」を参照してください。

次に、エラーログ情報の採取操作、採取する情報、及び変更するレジストリの位置と値を示します。

#### 操作

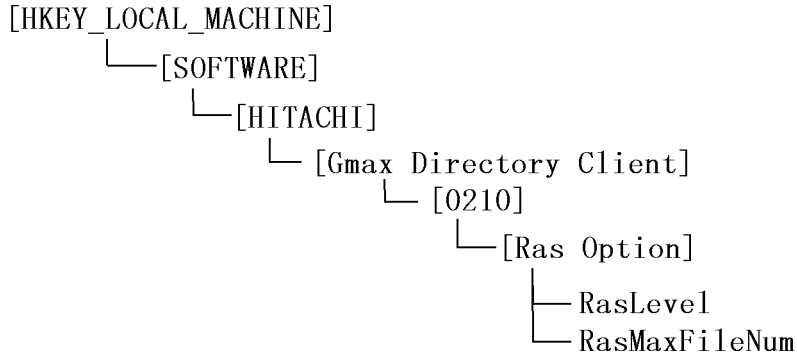
レジストリキーの変更後、障害操作を再現します。

#### 採取情報

- Directory Client インストールディレクトリの下 ¥Log¥gadirxx.trc ファイル (xx は 2桁の数字)

レジストリの位置と値





RasLevel (ログ情報の出力レベル)(デフォルト値: 1)

このキーの値を「2」(文字列)に変更してください。トレース情報を取得する操作が終了したら、必ず RasLevel の値をデフォルトの「1」に戻してください。

RasMaxFileNum (ログ情報ファイルの最大数)(デフォルト値: 10)

ログ情報ファイルの最大作成数を設定できます。1 ~ 100 の範囲で指定できます。障害の発生頻度が低い場合には、大きな値を設定してください。ただし、大きな値を設定すると、ディスクの使用量が多くなるのでご注意ください。

### 3.4.3 エージェント機能で障害が発生した場合の情報採取

エージェント機能を利用しているときに障害が発生した場合は、障害の発生に合わせて次の情報を採取してください。

#### トレース情報

エージェントのトレース情報を採取します。

採取できるトレース情報は、トレース取得時刻、関数トレース、関数のリターン値、メッセージトレース及びアプリケーションエラーの 5 種類です。

#### アプリケーションエラーの詳細情報

アプリケーションエラーが発生する前後に実行された関数のトレース及びアプリケーションエラーの種類を採取します。

#### エージェント定義情報

ユーザが作成したクライアントエージェントの定義情報を採取します。

また、サーバエージェントを利用しているときに障害が発生した場合は、上記に加えて次の情報を採取してください。

#### サーバエージェントの関数トレース情報

Agent クライアントと Agent サーバ間の関数トレースを採取します。

採取するトレース種別が設定できます。

#### テンプレート定義データ解析結果情報

HTML ベースのテンプレート定義データのタグ解析結果を採取します。

### 3. クライアント環境の保守

#### (1) トレース取得時刻・関数トレース・関数のリターン値及びメッセージトレースの採取方法

次に説明するレジストリの変更を指定した後に、障害を再現させて、レジストリに指定したトレース情報出力ファイルを採取してください。

**注意** レジストリを変更した場合は、トレース情報を取得する操作が終了したら、システムの負荷が大きくなるのを防ぐためにレジストリキー「DEBUG」 - 「TRACE」の値にデフォルトの「0」を設定してください。

なお、レジストリキーの設定方法については、「3.5 レジストリキーの設定方法」を参照してください。

次に、トレース情報の採取操作、採取する情報、及び変更するレジストリの位置と値を示します。

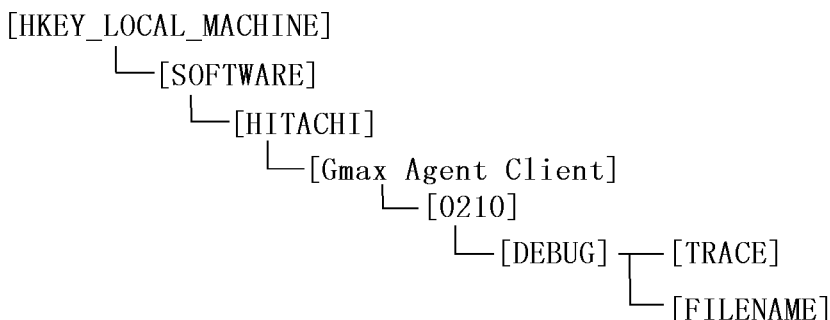
##### 操作

レジストリキーの変更後、障害操作を再現します。

##### 採取情報

レジストリキー「FILENAME」に指定したトレース出力ファイル

##### レジストリの位置と値



「TRACE」(デフォルト値: 0)

このレジストリキーに「3」(DWORD 値)を指定します。

「FILENAME」

値に、トレース情報を出力するファイルをフルパス (C:¥tmp¥trace.txt などの文字列) で指定します。

**注** 出荷時設定では、「TRACE」にデフォルト値の「0」を設定しています。

「TRACE」にデフォルト値の「0」を設定している場合には、このレジストリキーが存在しない場合と同様に動作します。

#### (2) アプリケーションエラーの詳細情報の採取方法

次に説明するレジストリの変更を指定した後に、障害を再現させて、Windows のシステムディレクトリ下の AgtExcpt.log を採取してください。

**注意** レジストリを変更した場合は、アプリケーションエラーの詳細情報を取得する操作が終了したら、システムの負荷が大きくなるのを防ぐためにレジストリキー「DEBUG」 - 「STACKTRACE」の値にデフォルトの「0」を設定してください。

次に、アプリケーションエラー詳細情報の採取操作、採取する情報、及び変更す

るレジストリの位置と値を示します。

#### 操作

レジストリキーの変更後、障害操作を再現します。

アプリケーションエラーの情報を採取するためには、レジストリキー「STACKTRACE」のレジストリ値を「1」(DWORD 値)にします。レジストリ値を設定するには、Integrated Desktop のインストールディレクトリの下  
Agent¥Tmp¥Stackon.reg 又は Stackoff.reg を起動します。

「STACKTRACE」の値に「1」を設定するには、Stackon.reg を起動します。レジストリの値を「0」に戻すには、Stackoff.reg を起動します。

#### 採取情報

- Windows ディレクトリ下の AgtExcpt.log ファイル

#### レジストリの位置と値

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE]
├── [SOFTWARE]
│   └── [HITACHI]
│       └── [Gmax Agent Client]
│           └── [0210]
│               └── [DEBUG] — [STACKTRACE]
```

「STACKTRACE」(デフォルト値: 0)

このレジストリキーに「1」を指定します。

注 「STACKTRACE」にデフォルト値の「0」を設定している場合には、このレジストリキーが存在しない場合と同様に動作します。

### (3) エージェント定義情報

ユーザが作成したクライアントエージェントの定義情報を採取します。

#### 操作

エクスプローラやファイルマネージャなどを使用して利用している「個人フォルダのパス」下の「Agent」下にある次のファイルを採取します。

#### 採取情報

- 個人フォルダのパス ¥Agent 下の全ファイル

### (4) サーバエージェントの関数トレースの採取方法(サーバエージェントを使用している場合)

サーバエージェントを使用している場合、次に示す内容をレジストリに設定すると、Agent クライアントと Agent サーバ間の関数トレースを取得できます。

関数トレース情報の採取操作、採取する情報、及び変更するレジストリの位置と値を示します。

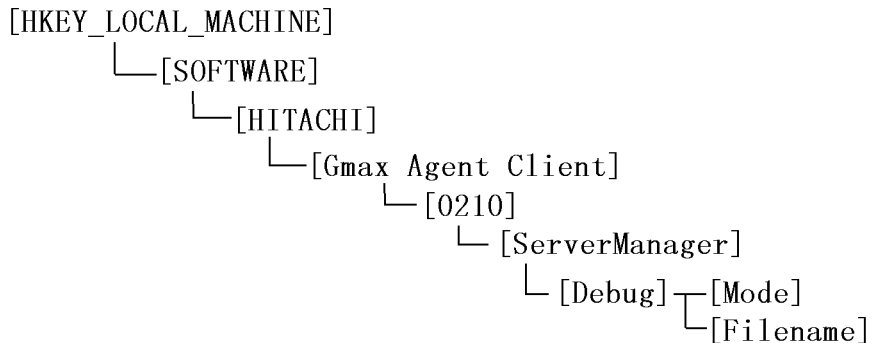
#### 操作

レジストリキーの変更後、障害操作を再現します。

### 3. クライアント環境の保守

#### 採取情報

- レジストリキー「Filename」に指定したトレース出力ファイル  
レジストリの位置と値



「Mode」(デフォルト値:0)

このレジストリキーに10進数で「31」(16進で0x0000001F)(DWORD値)を指定します。

「Filename」

値に、関数トレース情報を出力するファイルをフルパス(C:\tmp\trace.logなどの文字列)で指定します。

注 出荷時設定では、Modeにデフォルト値の「0」を設定しています。Modeにデフォルト値の「0」を設定している場合には、このレジストリキーが存在しない場合と同様に動作します。

#### (5) テンプレート定義データ解析結果情報(サーバエージェントを使用している場合)

サーバエージェントを使用している場合、HTMLベースのテンプレート定義データのタグ解析結果を採取できます。採取した解析結果を見ることで、タグの解析時のエラーログ情報を簡単に知ることができます。解析結果情報を出力するには、レジストリの以下のオプションを指定してください。

レジストリの設定を指定した後に、障害を再現させて、レジストリに指定したトレース情報出力ファイルを採取してください。

**注意** レジストリを変更した場合は、解析結果情報を取得する操作が終了したら、システムの負荷が大きくなるのを防ぐためにレジストリキー「Debug」 - 「HTMLTraceMode」の値にデフォルトの「0」を設定してください。

なお、レジストリキーの設定方法については、「3.5 レジストリキーの設定方法」を参照してください。

次に、解析結果情報の採取操作、採取する情報、及び変更するレジストリの位置と値を示します。

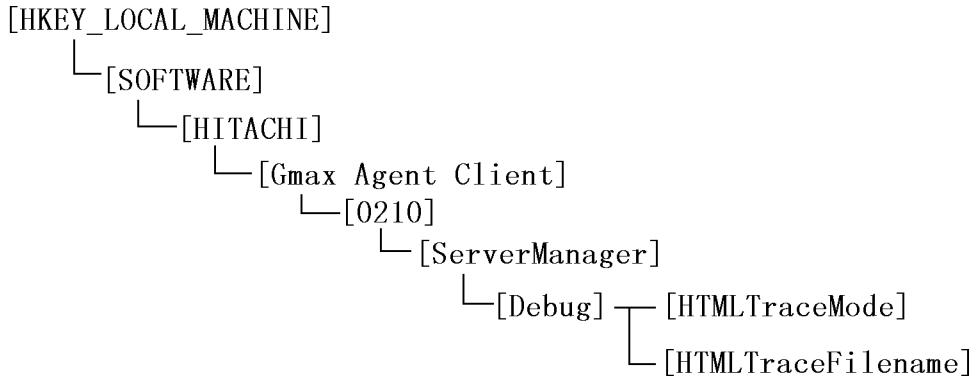
#### 操作

レジストリキーの変更後、障害操作を再現します。

#### 採取情報

- レジストリキー「HTMLTraceFilename」に指定したトレース出力ファイル

レジストリの位置



「HTMLTraceMode (トレース採取開始フラグ)」(デフォルト値: 0)

値に「1」(DWORD 値)を設定します。

「HTMLTraceFilename」

値に、トレース情報を出力するファイルをフルパス (C:¥tmp¥HTMLtrace.txt など文字列) で指定します。

#### 3.4.4 スケジュール管理機能で障害が発生した場合の情報採取

スケジュール管理機能で障害が発生した場合は、一度クライアントプログラムを終了した後で、「3.3 共通して採取する障害情報」で説明した、スナップショット情報だけを採取します。

#### 3.4.5 電子帳票機能で障害が発生した場合の情報採取

電子帳票 (Form) を使用中に障害が発生した場合は、障害の発生に合わせて、次の情報を採取してください。

電子帳票コマンドトレース情報

Form 実行時のコマンドトレースを出力します。

案件情報トレース機能

案件コマンド、及び Workflow Client の API 関数のトレースと内容の記録を残します。

共用キャビネット連携処理トレース情報

業務文書コマンド、及び Document Manager の API 関数のトレースと内容の記録を残します。

Form メモリ管理ログ出力機能

Form メモリ管理ログ機能は、Form メモリ管理の記録を残します。

エラーメッセージログ出力機能

Form が画面に表示するエラー等のメッセージの記録を残します。

各トレース情報の採取方法について以下に説明します。また、障害が発生した場

### 3. クライアント環境の保守

合にバージョンレビジョンなどの情報を取得するためのツール（情報採取ツール）、及び ODBC のトレース情報を取得する方法について説明します。

注 電子帳票で障害が発生した場合、弊社にて障害を再現させて調査します。そのため、トレース情報以外に以下の資料の提供をお願いします。

- 電子帳票で障害が発生したときのエラーメッセージ（ハードコピー）
- 再現調査を実施するために必要な伝票のファイルなど
- 現象が発生するまでの詳細な手順

#### (1) 電子帳票コマンドトレース機能

帳票実行時のコマンドトレースを取得するときには、次のようにレジストリキーを設定・変更する必要があります。

**注意** ログ情報を取得する操作が終了したら、システムの負荷が大きくなるのを防ぐためにレジストリキーの Command を「OFF」にしてください。

レジストリキーの設定方法については「3.5 レジストリキーの設定方法」を参照してください。

次に、トレース情報で採取する情報及び変更するレジストリの位置と値を示します。

##### 採取情報

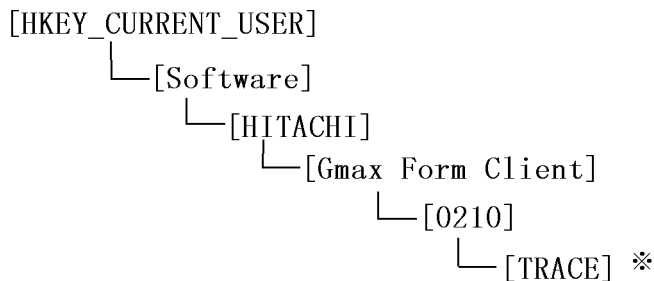
採取したログファイルは、レジストリの「Path」に指定したディレクトリ下に格納されます。

採取したログファイルのファイル名はログを取得した日時が付加されます。例えば、電子帳票を 1998 年 8 月 4 日 18 : 00 : 00 に起動した場合、  
\_\_980804\_180000.txt となります。

下記キーの FileSizeMax で指定したサイズを超えた場合は、それ以降のコマンドトレースは出力しません。

注 ログファイル名の先頭の「\_」は三つです。

##### レジストリの位置と値



Command : コマンドトレーススイッチ 文字列

ON : 出力する

OFF : 出力しない

Path : トレースファイル出力先指定 文字列

FileSizeMax : トレースファイル最大サイズ（単位はバイト） DWORD 値

設定値の意味は、次のとおりです。障害発生時には、「0」を設定してください。

0：無限に出力する

その他の数値：指定した数値を上限にする

注 出荷時の設定では、このレジストリキーは作成されていません。トレース情報を取得する場合には、regedit コマンドなどを使用してこのキーを作成してください。また、電子帳票コマンドトレースのログは、Form が完全に終了した時点で出力されます。ログファイルは、Form が完全に終了した後で参照してください。

Command に「OFF」を設定している場合は、このレジストリキーが存在しない場合と同様に処理します。

## (2) 案件情報トレース機能

案件情報トレース機能は、案件コマンド及び Workflow Client の API 関数のトレースと内容の記録を残します。

案件情報トレースを取得するときには、次のようにレジストリキーを設定・変更する必要があります。

**注意** ログ情報を取得する操作が終了したら、システムの負荷が大きくなるのを防ぐためにレジストリキーの TraceLevel を「0」又は「1」にしてください。

レジストリキーの設定方法については「3.5 レジストリキーの設定方法」を参照してください。

次に、トレース情報で採取する情報及び変更するレジストリの位置と値を示します。

### 採取情報

採取したエラーログ情報は、Form Client のインストールディレクトリの下に Log\WfTrace\ の下に格納します。採取したエラーログ情報のファイル名は、wftrxxxx.log (xxxx は 4 桁の 10 進数の通し番号) となります。

ディレクトリが存在しない場合には初回の伝票起動時に新規作成されます。

(例) C:\Gmaxcl\Form に Form Client をインストールした場合

C:\Gmaxcl\Form\Log\WfTrace

ログファイルの保存は新しいものからデフォルトで 4 個とします。

ファイルが最大数まで達した場合、通し番号の若いファイルから順に上書きされます。上書きされたファイルの内容は削除されます。

(例) 最大数 10 の場合、wftr0009.log の次は wftr0000.log に上書きされる。

### レジストリの位置と値

```
[HKEY_CURRENT_USER]
├── [Software]
│   └── [HITACHI]
│       └── [Gmax Form Client]
│           └── [0210]
│               └── [RAS] ※
│                   └── [WfTrace]
```

### 3. クライアント環境の保守

Folder : ログファイル出力先フォルダ 文字列  
値のデータ設定では、終端に「¥」を付加しない。また「"」で囲まないでください。

TraceLevel : ログファイルの出力レベル DWORD 値  
設定の意味は次のとおりです。障害発生時には、1 又は 3 を設定してください。

- 0 : 出力しない
- 1 : エラーが発生したときにレベル 3 の履歴を出力 (デフォルト)
- 2 : 常に履歴を出力
- 3 : Workflow Client の関数とそのパラメータも加え常に履歴出力
- 4 : Workflow Client の関数の所要時間も加え常に履歴出力
- 5 : 4 までの情報を即時出力

MaxFiles : 最大履歴数 (最大 9999 ・ 最小 2 ・ デフォルト 4) DWORD 値

FileNumber : 次に使用するログファイル番号を内部的に使用 DWORD 値

FileSize : ログファイルのサイズをキロバイト数で設定する DWORD 値

TraceLevel が 2 以上の場合はログファイルがこのサイズを超えたときに新しいログファイルを作成します (デフォルト 128)。

注 出荷時には、このレジストリキーは存在しません。しかし、案件処理が最初  
に実行されたときに作成されます。TraceLevel に「0」を設定している場合は、この  
レジストリキーが存在しない場合と同様に動作します。

#### (3) 共用キャビネット連携処理トレース機能

共用キャビネット連携処理トレース機能は、業務文書コマンドおよび Document  
Manager の API 関数のトレースと内容の記録を残します。

共用キャビネット連携処理トレースを取得するときには、次のようにレジストリ  
キーを設定・変更する必要があります。

**注意** ログ情報を取得する操作が終了したら、システムの負荷が大きくなるのを防  
ぐためにレジストリキーの TraceLevel を「0」又は「1」にしてください。

レジストリキーの設定方法については「3.5 レジストリキーの設定方法」を参照  
してください。

次に、トレース情報で採取する情報及び変更するレジストリの位置と値を示しま  
す。

##### 採取情報

採取したエラーログ情報は、Form Client のインストールディレクトリの下  
の Log¥DocMan の下に格納します。採取したエラーログ情報のファイル名は、  
dmtrxxxx.log (xxxx は 4 桁の 10 進数の通し番号) となります。

ディレクトリが存在しない場合には初回の伝票起動時に新規作成されます。

(例) C:¥Gmaxcl¥Form に Form Client をインストールした場合

C:¥Gmaxcl¥Form¥Log¥DocMan

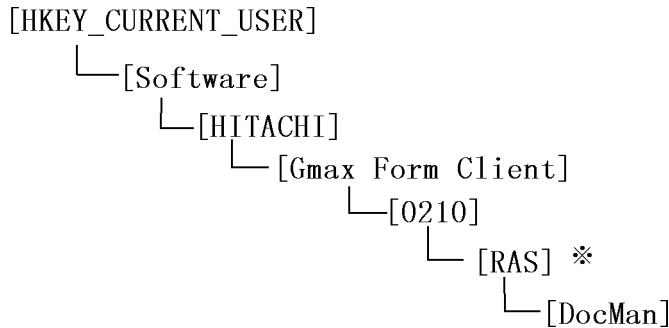
ログファイルの保存は新しいものからデフォルトで 4 個とします。

ファイルが最大数まで達した場合、通し番号の若いファイルから順に上書きさ  
れます。上書きされたファイルの内容は削除されます。

(例) 最大数 10 の場合、dmtr0009.log の次は dmtr0000.log に上書きされる。



## レジストリの位置と値



Folder：ログファイル出力先フォルダ 文字列

終端に「¥」を付加しないでください。また、「"」で囲まないでください。

TraceLevel：ログファイルの出力レベル DWORD 値

設定値の意味は次のとおりです。障害発生時には、1 又は 3 を設定してください。

0：出力しない

1：エラーが発生したときにレベル 3 の履歴を出力（デフォルト）

2：常に履歴を出力

3：Document Manager の関数とそのパラメータも加え常に履歴出力

4：Document Manager の関数の所要時間も加え常に履歴出力

5：4 までの情報を即時出力

MaxFiles：最大履歴数（最大 9999・最小 2・デフォルト 4） DWORD 値

FileNumber：次に使用するログファイル番号を内部的に使用 DWORD 値

FileSize：ログファイルのサイズをキロバイト数で設定する DWORD 値

TraceLevel が 2 以上の場合はログファイルがこのサイズを超えたときに新しいログファイルを作成します（デフォルト 128）

注 出荷時の設定では、このレジストリキーは存在しません。トレース情報を採取する場合には、regedit コマンドなどを使用してこのキーを作成してください。

TraceLevel に「0」を設定している場合は、このレジストリキーが存在しない場合と同様に動作します。

#### (4) Form メモリ管理ログ出力機能

Form メモリ管理ログ機能は、Form メモリ管理の記録を残します。

この機能は、Form のメモリ関数でエラー発生時に自動出力します。

**注意** ログ情報を取得する操作を行うと、システムの負荷が大きくなります。レジストリキーの MemoryManager は「0」又は「1」にしてください。

レジストリキーの設定方法については「3.5 レジストリキーの設定方法」を参照してください。

次に、ログ情報で採取する情報及び変更するレジストリの位置と値を示します。

##### 採取情報

採取したログ情報は、システムのテンポラリディレクトリの下に格納します。

### 3. クライアント環境の保守

採取したログ情報のファイル名は、ETErrLog32.tmp となります。

ログ情報の内容は、Form メモリ管理関数名、エントリ番号、ハンドル値、及びアドレス値などです。

ログファイルの最大サイズは無制限としますが、ディスク容量が不足した場合はログ出力機能を中断します。

レジストリの位置と値

```
[HKEY_CURRENT_USER]
├── [Software]
│   └── [HITACHI]
│       └── [Gmax Form Client]
│           └── [0210]
│               └── [RAS] ※
```

MemoryManager : ログファイルの出力レベル DWORD 値

設定の意味は次のとおりです。

0 : 出力しない

1 : Form のメモリ管理関数でエラー発生時に出力 (デフォルト)

2 : Form のメモリ管理関数使用時に履歴出力

注 出荷時には、このレジストリキーは存在しません。

#### (5) エラーメッセージログ出力機能

Form が画面に表示するエラー等のメッセージの記録を残します。

この機能は、Form がメッセージ出力時に自動出力します。

**注意 ログ情報は自動で出力します。レジストリキーの設定は、メッセージログファイルの最大サイズを変更するために用意しています。**

レジストリキーの設定方法については「3.5 レジストリキーの設定方法」を参照してください。

次に、ログ情報で採取する情報及び変更するレジストリの位置と値を示します。

採取情報

採取したログ情報は、Form Client インストールディレクトリ下の

Log¥Message に格納します。採取したログ情報のファイル名は、Messagex.Log (x は 0 から 9 までの通し番号) となります。

ログファイルの保存は、新しいものから 2 個です。

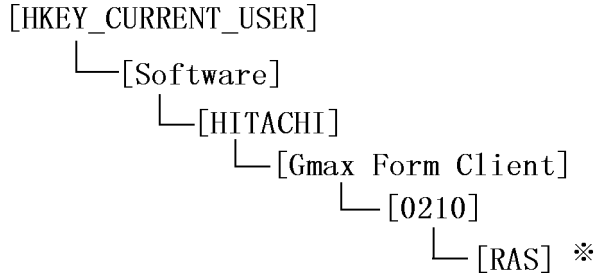
ログファイルが 2 個まで達した場合、通し番号の若いファイルから順に上書きされます。上書きされたファイルの内容は削除されます。

(例) 現在 Message9.Log の場合、2 個目は Message0.Log になります。

ログ情報の内容は、日付、時間、プロセス番号、メッセージ内容です。

ログ情報を出力中にディスク容量が不足した場合は、ログ出力機能を中断します。

レジストリの位置と値



MessageLogFileMaxSize : メッセージログファイル最大サイズ DWORD 値  
設定値の意味は次のとおりです。

単位はバイトで、0 を設定した場合は無限に出力します。

デフォルトサイズは 20K バイト (およそ 100 メッセージ分) です。

注 出荷時には、このレジストリキーは存在しません。

#### (6) 情報取得ツールの実行方法

電子帳票では、障害調査時などに利用する情報取得ツールを提供しています。

このツールの名称は、INVEST32.EXE です。Form Client をインストールしたディレクトリのサブディレクトリ TOOLS の下に INVEST32.EXE が格納されています。

INVEST32.EXE を起動して必要な情報を取得した後、ファイルに格納又は印刷をしてください。

このツールには 11 個の機能があります。各機能を以下に説明します。

機能 1 : 電子帳票の情報

電子帳票関連の PP バージョンやレジストリ情報を取得します。

機能 2 : Groupmax の情報

Groupmax 関連の PP バージョン情報を取得します。

機能 3 : OS の情報

OS の情報を取得します。

機能 4 : 環境の情報

環境設定の情報を取得します。

機能 5 : プリンタの情報

プリンタの情報を取得します。

機能 6 : ソケットの情報

ソケットの情報を取得します。

機能 7 : ODBC の情報

ODBC のレジストリ情報やファイルバージョン情報を取得します。

機能 8 : Notes の情報

Notes のレジストリ情報を取得します。

### 3. クライアント環境の保守

#### 機能 9：画面の情報

画面の情報を取得します。

#### 機能 10：再配布 DLL の情報

再配布 DLL のファイル情報を取得します。

#### 機能 11：電子帳票ファイルの情報

電子帳票製品ファイルのバージョン情報を取得します。

注 この情報は、Notes を使用する場合だけ採取できます。

#### (7) ODBC トレースの採取方法

[コントロールパネル] から「(32 ビット) ODBC」のアイコンを選択し、インストールされている ODBC ドライバに対して、「ODBC トレースの実行」を ON にしてください。電子帳票から ODBC 経由でデータベースアクセスを実行すると、指定したファイルに ODBC トレース (ログ) が出力されます。

ODBC トレース採取後は、「ODBC トレースの実行」を OFF にしてください。

#### 3.4.6 共用キャビネットで障害が発生した場合の情報採取

共用キャビネットで障害が発生した場合は、エラーログ情報を採取します。エラーログ情報を取得するときには、レジストリキーを変更する必要があります。

レジストリキーの値を変更し、パーソナルコンピュータを再起動させてから、障害を再現させて、Integrated Desktop のインストールディレクトリ下の各ファイルを採取してください。レジストリは regedit コマンドなどを使用して変更してください。

**注意** レジストリを変更した場合は、エラーログ情報を取得する操作が終了したら、システムの負荷が大きくなるのを防ぐためにレジストリキー「LogLevel」の値にデフォルト「Warn」を設定し、パーソナルコンピュータを再起動させてください

なお、レジストリキーの設定方法については、「3.5 レジストリキーの設定方法」を参照してください。

エラーログ情報の採取操作、採取する情報、及び変更するレジストリの位置と値を示します。

#### 操作

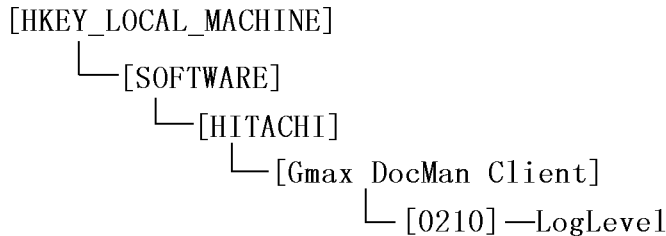
ログ情報の種類 (レベル) 及びログファイルのサイズを設定するためのレジストリキーを変更し、パーソナルコンピュータを再起動させてから、障害現象を再現します。

#### 採取対象

- Integrated Desktop のインストールディレクトリ下の
  - ¥DocMan¥Spool¥gdmcbcd.log
  - ¥DocMan¥Spool¥gdmcbcd2.log
  - ¥DocMan¥Spool¥gdmcapi.log
  - ¥DocMan¥Spool¥gdmcapi2.log

注 このうち、gdmcbcd.log 及び gdmcapi.log に最新のログ情報が出力されます。gdmcbcd.log 及び gdmcapi.log が一定のサイズ（ログファイルのサイズとして設定した値）を超えた時点で、ログ情報を gdmcbcd2.log や gdmcapi2.log に待避して、gdmcbcd.log 及び gdmcapi.log の先頭からログ情報を出力します。

レジストリの位置と値（ログ情報の種類）



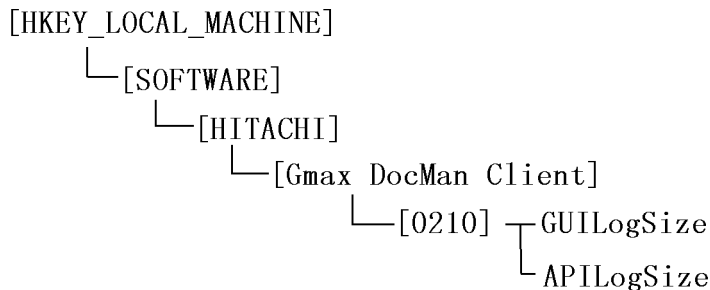
LogLevel（ログレベル指定フラグ）（デフォルト値：Warn） 文字列  
設定できる値とその意味は次のとおりです。

Debug：操作ごとに発行された関数情報を出力する。

Param：関数の引数を出力する。

Dump：フロントエンドとバックエンド間のインタフェース部分をダンプ出力する。

レジストリの位置と値（ログファイルのサイズ）



GUILogSize（フロントエンドのログファイルサイズ） DWORD 値

APILogSize（バックエンドのログファイルサイズ） DWORD 値

どちらもバイト数で設定します。

デフォルトは 100000（10 キロバイト）です。これよりも大きい値を指定してください。

（例）GUILogSize に 1000000（1 メガバイト）を指定すると、1 ファイルの大きさが 1 メガバイトとなる。ログファイルは最大二つまで作成されるので、合計 2 メガバイトまでログを取得できる。

### 3.4.7 ワークフロー案件処理機能で障害が発生した場合の情報採取

ワークフロークライアントで障害が発生した場合、Integrated Desktop のエラーログ情報およびワークフロー障害情報取得してください。

### 3. クライアント環境の保守

#### (1) エラーログ情報の採取

ワークフロー機能を利用している場合に発生したエラーログ情報は以下のファイルです。

ただし、障害の内容によってはエラーログ情報が出力されない場合もあります。

操作

障害発生時にエラーログ情報ファイルを採取します。

採取情報

- Integrated Desktop のインストールディレクトリ下の Desktop¥Log の下の error.log ファイル
- Integrated Desktop のインストールディレクトリ下の common¥Log の下の error.log ファイル
- Integrated Desktop のインストールディレクトリ下の Workflow¥Log の下の wfcltrc.cur 及び wfcltrc.pre ファイル
- Windows ディレクトリ下の wfcltrc.cur , wfcltrc.pre , wfclapi.log , wfclap2.log ファイル

#### (2) ワークフロー障害情報の取得

以下の手順でワークフローの障害情報を取得してください。

##### (i) 障害情報の収集ツールの実行

Groupmax クライアントのインストールディレクトリ下の ¥workflow¥tools¥bwfcras.exe ツールを実行します。

プログラム起動後「Groupmax Workflow Client 用の情報収集します。」とメッセージがでます。「実行」を選択すると情報を収集します。「キャンセル」を選択すると処理を中断します。

##### (ii) 障害情報の収集先ディレクトリ

のツールを実行すると Integrated Desktop のインストールディレクトリ下の ¥workflow¥log¥wferrinf に収集した情報（ファイル）を格納します。

取得したファイルは自動的に削除されませんので不要になった時点で削除していただきますようお願いします。

### 3.4.8 Groupmax Process Manager のトレース情報の採取

Groupmax Process Manager のトレース情報は、障害情報採取の設定ツールを起動して採取を指定することができます。障害情報採取の設定ツールを使用すると、レジストリエディタを起動せずに情報が採取できるので便利です。障害情報採取の設定ツールの操作方法及び情報の出力先については、「3.3.1 障害情報採取の設定ツールでの障害情報採取」を参照してください。

Groupmax Process Manager のトレース情報は、障害情報採取の設定ツールで設定する他に、コントロールキー操作での設定方法とレジストリからの設定方法があります。ここではそれぞれの方法について説明します。

**(1) コントロールキー操作での設定方法**

## 操作

Groupmax Process Manager を選択した状態にして

[ Ctrl ] + [ Alt ] + [ Shift ] + [ O ( アルファベットのオー ) ] を同時に押します。

## 採取情報

- Integrated Desktop インストールディレクトリ下の Common¥Log¥ の下の Gmaxprc.log ファイル

**(2) レジストリからの設定方法**

Groupmax のクライアントを終了させてから、regedit コマンドなどを使用して各レジストリキーの値を変更し、障害を再現させて、レジストリに指定したファイルを採取してください。

**注意** レジストリを変更した場合は、トレース情報を取得する操作が終了したら、レジストリ「AccessLogFile」と「MessageLogFile」を削除してください。

なお、レジストリキーの設定方法については、「3.5 レジストリキーの設定方法」を参照してください。

次に、トレース情報の採取操作、採取する情報、及び変更するレジストリの位置と値を示します。

## 操作

レジストリキーの追加・変更後、障害操作を再現します。

## 採取情報

レジストリ「AccessLogDir」に指定したディレクトリ下のすべてのファイルと「MessageLogFile」に指定したファイル

## レジストリの位置

```

[HKEY_LOCAL_MACHINE]
├── [SOFTWARE]
│   └── [HITACHI]
│       └── [Gmax Client]
│           └── [0210]
│               └── [ProcessManager]
│                   ├── [AccessLogDir]
│                   └── [MessageLogFile]

```

AccessLogDir : DLL のログファイルを出力するディレクトリ 文字列

ディレクトリはフルパスで指定します。

MessageLogFile : Groupmax Process Manager のログを出力するファイル名

文字列

ファイル名はフルパスで指定します。

注 AccessLogDir に指定したディレクトリが存在しない場合、そのディレクトリ名

### 3. クライアント環境の保守

をエクスプローラやファイルマネージャなどで作成しておいてください。



## 3.5 レジストリキーの設定方法

障害情報の採取を設定するときに必要な、レジストリキーの値の設定・変更方法を説明します。

レジストリキーに値を設定・変更する方法は、次の三つの場合で違います。

レジストリキーの値を変更する方法

レジストリキーに値の項目を追加して値を設定する方法

レジストリキーを追加・作成して値を設定する方法

### 3.5.1 レジストリキーの値を変更する方法

既存のレジストリキーの値を変更する方法を説明します。

1. [スタート] ボタンをクリックして [ファイル名を指定して実行] メニューを選択する  
[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが表示されます。
2. 「regedit」を指定する  
レジストリエディタが起動されます。
3. キー [HKEY\_LOCAL\_MACHINE] 又は [HKEY\_CURRENT\_USER] を選択する
4. 障害情報の採取を設定するレジストリキーのツリービューを順番に開く
5. リストビューから変更したい項目を選択して、[編集] - [変更] を選択する  
[文字列の編集](DWORD 値の場合は [DWORD 値の編集]) ダイアログボックスが表示されます。
6. ダイアログボックスの「値のデータ」のテキストボックスに値を設定する

### 3.5.2 レジストリキーに値の項目を追加して値を設定する方法

レジストリキーに値の項目を追加・作成して、値を設定する方法を説明します。

1. [スタート] ボタンをクリックして [ファイル名を指定して実行] メニューを選択する  
[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが表示されます。
2. 「regedit」を指定する  
レジストリエディタが起動されます。
3. キー [HKEY\_LOCAL\_MACHINE] 又は [HKEY\_CURRENT\_USER] を選択する
4. 障害情報の採取を設定するレジストリキーのツリービューを順番に開く
5. 最後のキーを選択して、[編集] - [新規作成] - [文字列](DWORD 値の場合は [編集] - [新規作成] - [DWORD 値]) を選択する
6. リストビューに、値の項目を追加・作成する
7. 作成した項目を選択して [編集] - [変更] を選択する  
[文字列の編集](DWORD 値の場合は [DWORD 値の編集]) ダイアログボックスが表示されます。
8. ダイアログボックスの「値のデータ」のテキストボックスに値を設定する

#### 3.5.3 レジストリキーを追加・作成して値を設定する方法

レジストリキーのツリーに新しいレジストリキーを追加・作成して、そのキーに値を設定する方法を説明します。

1. [スタート] ボタンをクリックして [ファイル名を指定して実行] メニューを選択する  
[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが表示されます。
2. 「regedit」を指定する  
レジストリエディタが起動されます。
3. キー [HKEY\_LOCAL\_MACHINE] 又は [HKEY\_CURRENT\_USER] を選択する
4. 障害情報の採取を設定するレジストリキーのツリービューを順番に開く
5. ツリービューの最後のキーを選択して [編集] - [新規作成] - [キー] を選択する
6. ツリービューに追加するキーを作成する
7. 作成したキーを選択して、追加する値の属性を指定するために [編集] - [新規作成] - [文字列] (DWORD 値の場合は [編集] - [新規作成] - [DWORD 値]) を選択する
8. リストビューに新しい値の項目を追加・作成する
9. 作成した項目を選択して、[編集] - [変更] を選択する  
[文字列の編集] (DWORD 値の場合は [DWORD 値の編集]) ダイアログボックスが表示されます。
10. ダイアログボックスの「値のデータ」のテキストボックスに値を設定する

---

# 付録

---

## 付録 A メニューのカスタマイズ

## 付録 A メニューのカスタマイズ

Desktop 主画面から表示されるメニュー項目，ツールバーのボタン及びツールヒントのカスタマイズについて説明します。

### 付録 A.1 メニューのカスタマイズ方法

メニュー項目，ツールバーのボタン及びツールヒント（ボタン上にマウスポインタを位置付けると表示される名前）は，レジストリにキーを追加し，そのキーに文字列を設定する操作でカスタマイズできます。

**注意** レジストリキーを設定したり，値を設定したりする際は，注意して操作してください。操作を誤った場合は，Windows が起動されなくなることがありますので，変更を加えるレジストリファイルのバックアップをあらかじめ作成しておくことをお勧めします。

1. [スタート] ボタンをクリックして [ファイル名を指定して実行] メニューを選択し，「regedit」を指定する  
レジストリエディタが起動される
2. キー「HKEY\_LOCAL\_MACHINE」を選択する
3. ツリービューの「SOFTWARE」，「HITACHI」，「Gmax Desktop Client」，「0210」の順に開く
4. [編集] - [新規作成] - [キー] を選択する
5. ツリービューに，キー「Menu」を作成する
6. キー「Menu」を選択して，[編集] - [新規作成] - [文字列] を選択し，リストビューに文字列「MenuCustomizeFlag」を作成する
7. リストビューの文字列「MenuCustomizeFlag」を選択して，[編集] - [変更] を選択する  
[文字列の編集] ダイアログボックスが表示されます。
8. ダイアログボックスの「値のデータ」テキストボックスに「ON」を設定する  
「ON」を設定すると，メニューのカスタマイズが有効になります。  
「OFF」を設定すると，レジストリに設定したメニューのカスタマイズは無効になります。
9. ツリービューのキー「Menu」を選択して，[編集] - [新規作成] - [キー] を選択し，メニュー項目に対応するレジストリキーをツリービューに作成する  
メニュー項目に対応するレジストリキーについては，「付録 A.2 メニュー項目一覧」を参照してください。
10. メニュー項目に対応するレジストリキーを選択して [編集] - [新規作成] - [文字列] を選択し，リストビューに文字列「DisplayFlag」を作成する
11. リストビューの文字列「DisplayFlag」を選択して，[編集] - [変更] を選択する  
[文字列の編集] ダイアログボックスが表示されます。
12. ダイアログボックスの「値のデータ」のテキストボックスに「ON」を設定する  
「ON」を設定すると，カスタマイズしたメニュー項目が表示されます。  
「OFF」を設定すると，メニュー項目は表示されません。

これで、カスタマイズするメニュー項目が設定できました。

メニュー文字列を変更する場合は、「(a) メニュー文字列を変更するには」を参照してください。

また、ツールバーのボタンの名前及びツールヒントを変更する場合は、「(b) ツールバーのボタン名やツールヒントの文字列を変更するには」を参照してください。

#### (a) メニュー文字列を変更するには

1. メニュー項目に対応するレジストリキーを選択して [ 編集 ] - [ 新規作成 ] - [ 文字列 ] を選択し、リストビューに文字列「MenuString」を作成する
2. リストビューの文字列「MenuString」を選択して、[ 編集 ] - [ 変更 ] を選択する  
[ 文字列の編集 ] ダイアログボックスが表示されます。
3. メニューとして表示したい文字列を設定する  
アクセスキーは「(& アクセスキー)」で設定します。例えば、[ 開く (O) ] というメニュー項目の場合、「開く (&O)」のように設定します。アクセスキーに設定できる文字は、半角のアルファベット (A ~ Z) 及び半角数字 (0 ~ 9) から 1 文字です (大文字と小文字は区別されません)。ただし、アクセスキーは、同列のメニュー内で重複しないように設定してください。  
なお、アクセラレータの設定及び変更はできません。
4. レジストリエディタを閉じ、Integrated Desktop を起動する  
Integrated Desktop を起動して、ここでカスタマイズしたメニュー名が反映されたことを確認してください。

#### (b) ツールバーのボタン名やツールヒントの文字列を変更するには

1. メニュー項目に対応するレジストリキーを選択して [ 編集 ] - [ 新規作成 ] - [ 文字列 ] を選択し、リストビューに次の文字列をそれぞれ作成する  
ボタン名を変更する場合 ButtonName  
ツールヒントの文字列を変更する場合 ToolHintString
2. ボタン名を変更する場合は、リストビューの文字列「ButtonName」を選択して、[ 編集 ] - [ 変更 ] を選択する  
[ 文字列の編集 ] ダイアログボックスが表示されます。
3. ButtonName に、ボタン名にする文字列を設定する
4. ツールヒントの文字列を変更する場合は、リストビューの文字列「ToolHintString」を選択して、[ 編集 ] - [ 変更 ] を選択する  
[ 文字列の編集 ] ダイアログボックスが表示されます。
5. ToolHintString に、ツールヒントにする文字列を設定する
6. レジストリエディタを閉じ、Integrated Desktop を起動する  
Integrated Desktop を起動して、ここでカスタマイズしたツールバーのボタン名やツールヒント名が反映されたことを確認してください。

## 付録 A.2 メニュー項目一覧

カスタマイズできるメニュー項目は、機能指向環境、業務指向環境及び仮想オ

フィス環境で異なります。以下に、カスタマイズできるメニュー項目一覧を環境ごとに示します。

(1) 機能指向環境のメニュー項目一覧

機能指向環境のメニュー項目に対応するレジストリキー一覧を表 A-1 に示します。

表 A-1 機能指向環境のメニュー項目に対応するレジストリキー一覧

メニュー	サブメニュー	メニュー項目に対応する レジストリキー	ツールバー の ボタン名の デフォルト	ツールバー のツールヒ ントのデ フォルト
ファイル (F)	新規作成 (N)	-	-	-
	- フォルダ (F) ...	File_New_Folder	フォルダ作 成	フォルダの 新規作成
	- 掲示板 (B) ...	File_New_BulletinBoard	掲示板作成	掲示板の新 規作成
	- 文書 (D) ...	File_New_Document	文書作成	文書の新規 作成
	- <フォーム文書 1 >	File_New_Form1	-	-
	- <フォーム文書 2 >	File_New_Form2	-	-
	- <フォーム文書 3 >	File_New_Form3	-	-
	- <フォーム文書 4 >	File_New_Form4	-	-
	- <フォーム文書 5 >	File_New_Form5	-	-
	- その他のフォーム (Q) ...	File_New_OtherForm	フォーム作 成	フォームの 新規作成
	応答文書作成 (F)	-	-	-
	- <フォーム文書 1 >	File_Answer_Form1	-	-
	- <フォーム文書 2 >	File_Answer_Form2	-	-
	- <フォーム文書 3 >	File_Answer_Form3	-	-
	- <フォーム文書 4 >	File_Answer_Form4	-	-
	- <フォーム文書 5 >	File_Answer_Form5	-	-
	- その他のフォーム (Q) ...	File_Answer_OtherForm	応答作成	応答フォー ムの作成
	開く (O)	File_Open	開く	開く
	編集モードで開く (E)	File_EditInEditMode	編集モード	編集モード で開く
	送信 (G)	File_Send	送信	送信
	名前を付けて保存 (A) ...	File_SaveAs	保存	名前を付け て保存
	移動 (V) ...	File_Move	移動	移動
	格納 (C) ...	File_CopyToGroupmaxFol der	格納	格納
削除 (D)	File_Delete	削除	削除	
一覧のファイル出力 (H)	File_OutputList	一覧出力	一覧のファ イル出力	

メニュー	サブメニュー	メニュー項目に対応するレジストリキー	ツールバーのボタン名のデフォルト	ツールバーのツールヒントのデフォルト
	アクセス権 (S)	File_ChangeAccessPremi ssion	アクセス権	アクセス権
	印刷 (P)	File_Print	印刷	印刷
	名前の変更 (M) ...	File_Rename	名前の変更	名前の変更
	プロパティ (R)	File_Properties	プロパティ	プロパティ
	エイリアスの作成 (L) ...	File_CreateAlias	エイリアス作成	エイリアスの作成
	文書の登録 (I) ...	File_Import	文書の登録	文書の登録
	ファイル一覧 (U)	File_FileList	-	-
	共用キャビネットの作業中文書一覧 (W)	File_ListWorkingDocume nts	作業中文書	共用キャビネットの作業中文書一覧
	サーバから取り出す (J)	File_LoadFromServer	取り出し	サーバから取り出す
	Millemasse へ取り出す (Z)	File_SaveToMillemasse	Millemasse へ	Millemasse へ取り出す
	サーバへ保存 (Y)	File_SaveToServer	サーバへ保存	サーバへ保存
	集計 (B)	-	-	-
	- < 集計フォーム 1 >	File_Addup_Form1	-	-
	- < 集計フォーム 2 >	File_Addup_Form2	-	-
	- < 集計フォーム 3 >	File_Addup_Form3	-	-
	- < 集計フォーム 4 >	File_Addup_Form4	-	-
	- < 集計フォーム 5 >	File_Addup_Form5	-	-
	- その他の集計フォーム (Q) ...	File_Addup_OtherForm	集計	集計フォームの起動
	終了 (X)	File_ExitIntegratedDeskt op	終了	終了
	Groupmax の終了 (T)	File_ExitGroupmax	Gmax 終了	Groupmax の起動
編集 (E)	コピー (C)	Edit_Copy	-	-
	貼り付け (P)	Edit_Paste	-	-
	すべて選択 (A)	Edit_SelectAll	すべて選択	すべて選択
	タブの作成 (N) ...	Edit_NewTab	-	-
	タブの複写 (Y) ...	Edit_CopyTab	-	-
	タブの削除 (D)	Edit_DeleteTab	-	-
	タブの名前変更 (M)	Edit_RenameTab	-	-
	分類定義の新規作成 (W)...	Edit_NewGrouping	-	-

付録 A メニューのカスタマイズ

メニュー	サブメニュー	メニュー項目に対応する レジストリキー	ツールバー の ボタン名の デフォルト	ツールバー のツールヒ ントのデ フォルト
	分類定義の上書き保存 (S)	Edit_SaveGrouping	-	-
	分類定義の名前を付け て保存 (V) ...	Edit_SaveAsGrouping	-	-
	分類定義名の変更 (H) ...	Edit_RenameGrouping	-	-
	分類定義の削除 (R)	Edit_DeleteGrouping	-	-
	分類の並べ替え (T)	-	-	-
	- 項目で昇順に並べ る (U)	Edit_GroupingSortUp	-	-
	- 項目で降順に並べ る (W)	Edit_GroupingSortDown	-	-
	- 件数で昇順に並べ る (N)	Edit_GroupingNumberSo rtUp	-	-
	- 件数で降順に並べ る (M)	Edit_GroupingNumberSo rtDown	-	-
	分類条件の詳細設定 (E)	-	-	-
	- 月ごとに分類 (M)	Edit_GroupingMonthly	-	-
	- 週ごとに分類 (W)	Edit_GroupingWeekly	-	-
	- 日ごとに分類 (D)	Edit_GroupingDaily	-	-
	- 等しいもので分類 (S)	Edit_GroupingEqual	-	-
	- 似たもので分類 (L)	Edit_GroupingNear	-	-
	- キーワードで分類 (K)	Edit_GroupingKeyword	-	-
	- キーワードの設定 (E) ...	Edit_GroupingSetKeywor d	-	-
	分類条件の移動 (O) ...	Edit_MoveGroupingCondi tion	-	-
	分類条件を上挿入 (I)	-	-	-
	- 主題 (T)	Edit_GroupingInsertToU pTitle	-	-
	- 発信者 (P)	Edit_GroupingInsertToU pSender	-	-
	- 到着 (発信) 日時 (D)	Edit_GroupingInsertToU pMailTime	-	-
	- ファイルの種類 (K)	Edit_GroupingInsertToU pFileType	-	-
	- 更新日時 (U)	Edit_GroupingInsertToU pUpdate	-	-



メニュー	サブメニュー	メニュー項目に対応するレジストリキー	ツールバーのボタン名のデフォルト	ツールバーのツールヒントのデフォルト
	- 格納場所 (S)	Edit_GroupingInsertToUpPlace	-	-
	分類条件を下に挿入 (L)	-	-	-
	- 主題 (T)	Edit_GroupingInsertToDownTitle	-	-
	- 発信者 (P)	Edit_GroupingInsertToDownSender	-	-
	- 到着 (発信) 日時 (D)	Edit_GroupingInsertToDownMailTime	-	-
	- ファイルの種類 (K)	Edit_GroupingInsertToDownFileType	-	-
	- 更新日時 (U)	Edit_GroupingInsertToDownUpdate	-	-
	- 格納場所 (S)	Edit_GroupingInsertToDownPlace	-	-
	分類条件の削除 (B)	Edit_DeleteGroupingCondition	-	-
表示 (V)	フォルダ (E)	View_Folders	-	-
	ツールバー (T) ...	View_Toolbar	-	-
	ステータスバー (B)	View_StatusBar	-	-
	ツールバーの再表示 (H)	View_RedrawToolbar	-	-
	大きいアイコン (G)	View_LargeIcons	大きいアイコン	大きいアイコン
	小さいアイコン (M)	View_SmallIcons	小さいアイコン	小さいアイコン
	一覧 (L)	View_List	一覧	一覧
	詳細 (D)	View_Details	詳細	詳細
	分類 (U)	View_Grouping	分類	分類
	分類定義 (I)	View_GroupingDefinitionArea	-	分類定義の表示
	プレビュー (Q)	View_PreviewArea	-	プレビューの表示
	すべての分類を展開する (N)	View_GroupingExpand	-	すべての分類を展開する
	すべての分類を折り畳む (X)	View_GroupingReduction	-	すべての分類を折り畳む
下位階層フォルダを含める (K)	View_GroupingSubFolder	-	下位階層フォルダを含む	

付録 A メニューのカスタマイズ

メニュー	サブメニュー	メニュー項目に対応するレジストリキー	ツールバーのボタン名のデフォルト	ツールバーのツールヒントのデフォルト
	分類定義の切り替え ( <u>↓</u> )	-	-	-
	- < 分類定義 1 >	View_GroupingDefinition1	-	-
	- < 分類定義 2 >	View_GroupingDefinition2	-	-
	- < 分類定義 3 >	View_GroupingDefinition3	-	-
	- < 分類定義 4 >	View_GroupingDefinition4	-	-
	- < 分類定義 5 >	View_GroupingDefinition5	-	-
	- その他の分類定義 ( <u>L</u> ) ...	View_GroupingOtherDefinition	-	-
	表示項目の設定 ( <u>C</u> ) ...	View_Columns	-	-
	表示条件の設定 ( <u>Q</u> ) ...	View_Conditions	-	-
	目的別一覧 ( <u>F</u> )	-	-	-
	- < 定義 1 >	View_Purpose1	-	-
	- < 定義 2 >	View_Purpose2	-	-
	- < 定義 3 >	View_Purpose3	-	-
	- < 定義 4 >	View_Purpose4	-	-
	- < 定義 5 >	View_Purpose5	-	-
	- その他の目的別一覧 ( <u>L</u> ) ...	View_OtherPurpose	目的別一覧	目的別一覧
	フィルタリング ( <u>F</u> )	-	-	-
	- 未処理 ( <u>N</u> )	View_Filter_Unprocessed	未処理	未処理と未読の案件を表示
	- 至急 ( <u>G</u> )	View_Filter_Urgent	至急	至急案件を表示
	- 未読 ( <u>U</u> )	View_Filter_Unread	未読	未読記事を表示
	- 重要 ( <u>I</u> )	View_Filter_Important	重要	重要記事を表示
	- 条件 ( <u>C</u> ) ...	View_Filter_Custom	フィルタ条件	フィルタリング条件の指定
	- 解除 ( <u>R</u> )	View_Filter_ReleaseCustom	フィルタ解除	すべてのフィルタリングの解除
	並べ替え ( <u>S</u> ) ...	View_Sort	-	-
	タブの切り替え ( <u>V</u> ) ...	View_ViewOtherTab	-	-
	タブ順序の設定 ( <u>A</u> ) ...	View_ChangeTabArrangement	-	-

メニュー	サブメニュー	メニュー項目に対応するレジストリキー	ツールバーのボタン名のデフォルト	ツールバーのツールヒントのデフォルト
	Workflow 案件をまとめる (P)	View_GroupSimilarWorkItems	案件まとめ	Workflow 案件をまとめる
	Workflow ユーザ属性 (W) ...	View_CustomizeWorkflowView	-	-
	ロールトレイ案件の設定 (Y)	View_SetRoleTray	ロール設定	ロールトレイ案件の設定
	最新の情報に更新 (R)	View_Refresh	最新情報	最新の情報に更新
ツール (T)	共用キャビネットの検索 (E) ...	Tool_Find	キャビネ検索	共用キャビネットの検索
	共用キャビネットの分類索引 (I) ...	Tool_SearchWithClassIndex	分類索引	共用キャビネットの分類索引
	共用キャビネットの文書データベース管理 (D) ...	Tool_DocumentDatabaseManagement	文書 DB 管理	共用キャビネットの文書データベース管理
	共用キャビネットの一時切断 (T)	Tool_DetachDocumentDatabase	-	-
	Workflow アプリケーションの関連付け (A) ...	Tool_AssociateWorkflowApplications	-	-
	不在者のトレイを開く (S) ...	Tool_OpenTrayAsSubstitute	不在者トレイ	不在者のトレイを開く
	ロールトレイを開く (R)	Tool_OpenRoleTray	ロールトレイ	ロールトレイを開く
	パスワードの変更 (P) ...	Tool_ChangePassword	-	-
	環境の移行 (E)	-	-	-
	- ファイルへ保存 (S) ...	Tool_CustomizeEnvironment_SaveToFile	-	-
	- ファイルから読み込み (R) ...	Tool_CustomizeEnvironment_ReadFromFile	-	-
	Groupmax の設定 (G)	-	-	-
	- Mail の設定 (M) ...	Tool_CustomizeGroupmax_Mail	Mail 設定	Mail の設定
	- Document Manager の設定 (D) ...	Tool_CustomizeGroupmax_DocumentManager	DocMan 設定	Document Manager の設定
	- Workflow の設定 (W) ...	Tool_CustomizeGroupmax_Workflow	Workflow 設定	Workflow の設定

付録A メニューのカスタマイズ

メニュー	サブメニュー	メニュー項目に対応するレジストリキー	ツールバーのボタン名のデフォルト	ツールバーのツールヒントのデフォルト
	- Agent の設定 (A) ...	Tool_CustomizeGroupmax_Agent	Agent 設定	Agent の設定
	オプション (O) ...	Tool_Options	-	-
メッセージ (M)	Mail の作成 (M)	-	-	-
	- メール (M)	Message_NewMessage_Mail	メール作成	新規メール作成
	- 回覧 (C)	Message_NewMessage_MailCircular	回覧作成	新規回覧作成
	- 記事 (N)	Message_NewMessage_NewsItem	記事作成	新規記事作成
	案件の投入 (W)	Message_NewWorkItem	案件の投入	案件の投入
	返信 (R)	Message_Reply	返信	返信
	転送 (F)	Message_Forward	転送	転送
	履歴 (L)	Message_ViewWorkItemLog	履歴	履歴
	経路表示 (P)	Message_ViewWorkItemPath	経路表示	経路表示
	引き戻し (D)	Message_Withdraw	引き戻し	引き戻し
	キャンセル (C)	Message_CancelWorkItem	キャンセル	キャンセル
	作業状態の設定 (T) ...	Message_SetWorkItemStatus	作業状態	作業状態の設定
	属性設定 (A) ...	Message_SetWorkItemAttributes	属性設定	属性設定
	案件の操作 (O)	-	-	-
	- ロールトレイに戻す (R)	Message_OperationsOnWorkItem_ReturnToRoleTray	ロールトレイへ	ロールトレイに戻す
	- ユーザトレイに移す (U)	Message_OperationsOnWorkItem_MoveToUserTray	ユーザトレイへ	ユーザトレイに移す
	- 相談 (S) ...	Message_OperationsOnWorkItem_Consult	相談	相談
	- 差し戻し (B) ...	Message_OperationsOnWorkItem_SendBack	差し戻し	差し戻し
	- 振り替え (T) ...	Message_OperationsOnWorkItem_Transfer	振り替え	振り替え
	- 再投入 (E)	Message_OperationsOnWorkItem_Rethrow	再投入	再投入
	- 完了 (C) ...	Message_OperationsOnWorkItem_Complete	完了	完了
	スケジュール予約回答 (S)	-	-	-

メニュー	サブメニュー	メニュー項目に対応する レジストリキー	ツールバー の ボタン名の デフォルト	ツールバー のツールヒ ントのデ フォルト
	- 承認 (A)	Message_RespondToSuggestedRequest_Accept	予約承認	予約承認
	- 非承認 (Q)	Message_RespondToSuggestedRequest_Decline	予約非承認	予約非承認
	- 保留 (T)	Message_RespondToSuggestedRequest_TentativelyAccept	予約保留	予約保留
	取り消し (N)	Message_CancelSentMail	取り消し	取り消し
	再送 (R)	Message_Resend	再送	再送
モバイル (B)	送信と格納 (A)	Mobile_SendAndReceive	送信と格納	送信と格納
	OUTBOX から一括送信 (S)	Mobile_SendAll	モバイル送信	OUTBOX から一括送信
	受信控えに一括格納 (C)	Mobile_ReceiveAll	モバイル格納	受信控えに一括格納
	処理結果の表示 (H) ...	Mobile_Result	-	-
	設定 (T) ...	Mobile_Specify	-	-
	送信 (E)	Mobile_Send	-	-
	受信控えに格納 (R)	Mobile_SaveToReceiveCopyBox	-	-
	オンライン (N)	Mobile_OnLine	オンライン	オンライン
	オフライン (F)	Mobile_OffLine	オフライン	オフライン
エージェント (A)	新規作成 (N) ...	Agent_NewAgent	Agent 作成	エージェントの新規作成
	ログ (L)	Agent_ViewLog	-	-
	活動 (A)	Agent_Activate	Agent 活動	エージェントを活動させる
	停止 (S)	Agent_Stop	Agent 停止	エージェントを停止する
	作業即時実行 (E)	Agent_ExecuteAtOnce	-	-
ヘルプ (H)	トピックの検索 (H)	Help_Topics	-	-
	このウィンドウの説明 (W)	Help_HelpOnCurrentWindow	-	-
	バージョン情報 (A)	Help_AboutIntegratedDesktop	-	-

(凡例) - : 該当しないことを示します。

## (2) 業務指向環境のメニュー項目一覧

業務指向環境のメニュー項目に対応するレジストリキー一覧を表 A-2 に示します。

表 A-2 業務指向環境のメニュー項目に対応するレジストリキー一覧

メニュー	サブメニュー	メニュー項目に対応する レジストリキー	ツールバー の ボタン名の デフォルト	ツールバー のツールヒ ントのデ フォルト
ファイル (F)	開く (O)	File_OpenIcon	開く	開く
	移動 (V) ...	File_MoveIcon	移動	移動
	削除 (D)	File_DeleteIcon	削除	削除
	プロパティ (R)	File_Properties	プロパティ	プロパティ
	共用キャビネットの 作業中文書一覧 (W)	File_ListWorkingDocu ments	作業中文書	共用キャビ ネットの作 業中文書一 覧
	終了 (X)	File_ExitIntegratedDesk top	終了	終了
	Groupmax の終了 (T)	File_ExitGroupmax	Gmax 終了	Groupmax の終了
	複写 (C) ...	File_CopyIcon	複写	複写
登録 (G) ...	File_RegisterIcon	登録	登録	
編集 (E)	ワークスペースの作成 (N) ...	Edit_NewWorkplace	WP 作成	ワークブ レースの作 成
	ワークスペースの複写 (C) ...	Edit_CopyWorkplace	WP 複写	ワークブ レースの複 写
	ワークスペースの削除 (D)	Edit_DeleteWorkplace	WP 削除	ワークブ レースの削 除
	ワークスペースの名前 変更 (M) ...	Edit_RenameWorkplace	WP 名の変 更	ワークブ レースの名 前変更
表示 (V)	ツールバー (T) ...	View_Toolbar	-	-
	ステータスバー (B)	View_StatusBar	-	-
	ツールバーの再表示 (H)	View_RedrawToolbar	-	-
	ワークスペースの切り替 え (Y) ...	View_ViewOtherWorkpla ce	-	-
	ワークスペースの順序設 定 (A) ...	View_ChangeWorkplace Arrangement	-	-
ツール (I)	編集モード (M)	Tool_Busiess_EditMode	編集モード	編集モード
	パスワードの変更 (P) ...	Tool_ChangePassword	-	-
	環境の移行 (E)	-	-	-
	- ファイルへ保存 (S) ...	Tool_CustomizeEnviron ment_SaveToFile	-	-

メニュー	サブメニュー	メニュー項目に対応するレジストリキー	ツールバーのボタン名のデフォルト	ツールバーのツールヒントのデフォルト
	- ファイルから読み込み (R) ...	Tool_CustomizeEnvironment_ReadFromFile	-	-
	Groupmax の設定 (G)	-	-	-
	- Mail の設定 (M) ...	Tool_CustomizeGroupmax_Mail	Mail 設定	Mail の設定
	- Document Manager の設定 (D) ...	Tool_CustomizeGroupmax_DocumentManager	DocMan 設定	Document Manager の設定
	- Workflow の設定 (W) ...	Tool_CustomizeGroupmax_Workflow	Workflow 設定	Workflow の設定
	- Agent の設定 (A) ...	Tool_CustomizeGroupmax_Agent	Agent 設定	Agent の設定
	オプション (O) ...	Tool_Options	-	-
メッセージ (M)	Mail の作成 (M)	-	-	-
	- メール (M)	Message_NewMessage_Mail	メール作成	新規メール作成
	- 回覧 (C)	Message_NewMessage_MailCircular	回覧作成	新規回覧作成
	- 記事 (N)	Message_NewMessage_NewsItem	記事作成	新規記事作成
	案件の投入 (W)	Message_NewWorkItem	案件の投入	案件の投入
モバイル (B)	送信と格納 (A)	Mobile_SendAndReceive	送信と格納	送信と格納
	OUTBOX から一括送信 (S)	Mobile_SendAll	モバイル送信	OUTBOX から一括送信
	受信控えに一括格納 (C)	Mobile_ReceiveAll	モバイル格納	受信控えに一括格納
	処理結果の表示 (H) ...	Mobile_Result	-	-
	設定 (T) ...	Mobile_Specify	-	-
	オンライン (N)	Mobile_OnLine	オンライン	オンライン
	オフライン (F)	Mobile_OffLine	オフライン	オフライン
ヘルプ (H)	トピックの検索 (H)	Help_Topics	-	-
	このウィンドウの説明 (W)	Help_HelpOnCurrentWindow	-	-
	バージョン情報 (A)	Help_AboutIntegratedDesktop	-	-

(凡例) - : 該当しないことを示します。

### (3) 仮想オフィス環境のメニュー項目一覧

仮想オフィス環境のメニュー項目に対応するレジストリキー一覧を表 A-3 に示し

ます。

表 A-3 仮想オフィス環境のメニュー項目に対応するレジストリキー一覧

メニュー	サブメニュー	メニュー項目に対応する レジストリキー	ツールバー の ボタン名の デフォルト	ツールバー のツールヒ ントのデ フォルト
ファイル ( <u>F</u> )	開く ( <u>O</u> )	File_OpenIcon	開く	開く
	共用キャビネットの 作業中文書一覧 ( <u>W</u> )	File_ListWorkingDocu ments	作業中文書	共用キャビ ネットの作 業中文書一 覧
	終了 ( <u>X</u> )	File_ExitIntegratedDeskt op	終了	終了
	Groupmax の終了 ( <u>T</u> )	File_ExitGroupmax	Gmax 終了	Groupmax の終了
編集 ( <u>E</u> )	イラストの変更 ( <u>I</u> ) ...	Edit_ChangeIrastration	イラストの 変更	イラストの 変更
	メタファの変更 ( <u>M</u> ) ...	Edit_ChangeMetaphor	メタファの 変更	メタファの 変更
	メタファの削除 ( <u>D</u> )	Edit_DeleteMetaphors	メタファの 削除	メタファの 削除
表示 ( <u>V</u> )	ツールバー ( <u>T</u> ) ...	View_Toolbar	-	-
	ステータスバー ( <u>B</u> )	View_StatusBar	-	-
	ツールバーの再表示 ( <u>H</u> )	View_RedrawToolbar	-	-
	常に画面を下に表示 ( <u>G</u> )	View_KeepWindowBackgr ound	画面を下に	常に画面を 下に表示
ツール ( <u>T</u> )	編集モード ( <u>M</u> )	Tool_ChangeMode_EditM ode	編集モード	編集モード
	パスワードの変更 ( <u>P</u> ) ...	Tool_ChangePassword	-	-
	環境の移行 ( <u>E</u> )	-	-	-
	- ファイルへ保存 ( <u>S</u> ) ...	Tool_CustomizeEnvironm ent_SaveToFile	-	-
	- ファイルから読み込 み ( <u>R</u> ) ...	Tool_CustomizeEnvironm ent_ReadFromFile	-	-
	Groupmax の設定 ( <u>G</u> )	-	-	-
	- Mail の設定 ( <u>M</u> ) ...	Tool_CustomizeGroupma x_Mail	Mail 設定	Mail の設定
	- Document Manager の設定 ( <u>D</u> ) ...	Tool_CustomizeGroupma x_DocumentManager	DocMan 設 定	Document Manager の 設定
	- Workflow の設定 ( <u>W</u> ) ...	Tool_CustomizeGroupma x_Workflow	Workflow 設定	Workflow の設定



メニュー	サブメニュー	メニュー項目に対応するレジストリキー	ツールバーのボタン名のデフォルト	ツールバーのツールヒントのデフォルト
	- Agent の設定 (A) ...	Tool_CustomizeGroupmax_Agent	Agent 設定	Agent の設定
	オプション (O) ...	Tool_Options	-	-
モバイル (B)	送信と格納 (A)	Mobile_SendAndReceive	送信と格納	送信と格納
	OUTBOX から一括送信 (S)	Mobile_SendAll	モバイル送信	OUTBOX から一括格納
	受信控えに一括格納 (C)	Mobile_ReceiveAll	モバイル格納	受信控えに一括格納
	処理結果の表示 (H) ...	Mobile_Result	-	-
	設定 (T) ...	Mobile_Specify	-	-
	オンライン (N)	Mobile_OnLine	オンライン	オンライン
	オフライン (F)	Mobile_OffLine	オフライン	オフライン
ヘルプ (H)	トピックの検索 (H)	Help_Topics	-	-
	このウィンドウの説明 (W)	Help_HelpOnCurrentWindow	-	-
	バージョン情報 (A)	Help_AboutIntegratedDesktop	-	-

(凡例) - : 該当しないことを示します。



## 記号

- [Oracle][ODBC Oracle Driver][Oracle OCI]ORA-12196:TNS: TNS からエラーを受け取りました 99
- ¥workflow¥log¥wferrinf 128
- ¥workflow¥tools¥bwfcras.exe 128
- ××× (クライアント製品名) の一覧取得に失敗しました。サーバに接続できません 9
- ××× が処理中です。終了処理を中断します。××× の終了を確認して再度終了してください 23

## 数字

- 2 回目以降は [Groupmax ログイン] ダイアログを表示しない 20

## A

- Access 96
- AgtExcpt.log 116
- AgtLfSrv.dat 36
- AgtPtMem.dat 36
- AP.CFG 75
- APPOAREA.INI ファイル 55
- appomous.ini ファイル 55
- appouenv.ini ファイル 53, 54, 55
- AP 情報管理ファイル 75
- autoexec.bat ファイル 21

## B

- Bibliotheca2/TS 83

## C

- comctl32.dll 92

## D

- DLL がありません 81
- dmtrxxxx.log 122
- docmancl.rtd ファイル 57
- Document Manager Client , 又は Workflow Client をインストールする 5

- Document Manager サービスプロセスを終了しました 32

## E

- E-mail 45
- error.log 128
- error.log ファイル 109
- Errors-To ヘッダ 45
- ETDSP32.EXE 83
- ETErrLog32.tmp 124
- Excel 94, 95, 97

## F

- Form のデータベース処理で特殊扱いされる文字 72
- Form をインストールする 5
- FTP 80

## G

- gadirxx.trc ファイル 114
- gauninst.exe 32
- gdmcapi.log 126
- gdmcapi2.log 126
- gdmcbcd.log 126
- gdmcbcd2.log 126
- GDMCDIS.EXE 95
- GDMCE\_FILEVERSIONERROR ( 6073 ) 57
- GDMCE\_INVALIDFILENAME ( 6083 ) 57
- GDMCFDR.exe 62
- GDMCRST.EXE 32
- GMAIL.EXE 42
- gmail.ras ファイル 113, 114
- gmailex.ras ファイル 113, 114
- Gmaxprc.log ファイル 129
- gmidtool.exe 107
- GMMXINST.XLS 95
- Gmtrput.exe 113, 114
- GroupInfoshare/Gateway 58
- Groupmax Process Manager のトレース情報の採取 128

## 索引

Groupmax WWW や以前のバージョンの 16  
ビット版クライアントと混在する環境で  
運用する 9  
Groupmax 統合インストーラ 4

## H

HiRDB 72  
HOAPSERV 連携 90  
HOSTS ファイル 51

## I

Infoshare/TS 83  
Integrated Desktop の各作業環境からメー  
ル、スケジュール管理、ワークフロー案  
件処理及び共用キャビネットの制御環境  
で発生した障害のプロファイル情報 111  
Integrated Desktop のスナップショット情報  
及びトレース情報の採取 109  
INVEST32.EXE 125

## K

Keymate/Multi 11, 43

## L

LHA 80

## M

Mail ( 回覧 ) の一覧の取得に失敗しました  
47  
Mail ( 個人 ) システムとの接続に失敗しまし  
た。同一ユーザでログインされています  
21  
Messagex.Log 124

## O

ODBC トレースの採取方法 126  
ORACLE 72, 95, 98  
Outlook Express 45

## P

PARAM.PRM 77  
PC-9800 シリーズへインストールする 6  
PDMACE 94

## R

regedit 131, 132  
Reply-To ヘッダ 45  
Roomenv.ini ファイル 54

## S

Scheduler, 又は Facilities Manager をイン  
ストールする 5  
SERVICES ファイル 51  
SQLNET.ORA 98  
SQL Server 72  
SQL トレース 98  
Stackoff.reg 117  
Stackon.reg 117  
SYSTEM.INI ファイル 5, 28

## T

TS サーバが使用できません 83  
TS 未登録文書一覧機能 90

## U

URL 作成機能 58

## V

Version2.0 または Version3 から Version 6  
にバージョンアップした場合 8

## W

wfclap2.log 128  
wfclapi.log 128  
wfcltre.cur 128  
wfcltre.pr 128  
wfcltre.pre 128  
wfrxxxx.log 121  
Windows 3.1 から Windows 95 又は  
Windows 98 にアップデートした環境に  
インストールする 5  
Windows 98, Windows 2000, Windows XP  
及び Windows Me 96  
Word 94, 95, 97

## あ

アクション実行機能 90  
アラーム機能 53

案件処理中でない場合は使用できないコマンドです 83  
暗号化メール 88

## い

一太郎 93, 97  
一太郎 6.0 形式 98  
一太郎 6.3 形式 99  
一太郎 8.0 形式 98  
インストールする 3  
インストールに関する注意事項 4  
インストールの概要 4

## え

エージェント機能で障害が発生した場合の情報採取 115  
エージェントシステムの初期化ファイルが壊れています 36

## か

外部宛先台帳で障害が発生した場合の情報採取 114  
カスタマイズ 7  
カスタマイズ情報 3, 4, 7  
カスタマイズ情報の作成手順 4  
カスタマイズ情報の配布機能の概要 15  
カスタマイズ情報マスタ作成ツール 15  
カスタマイズ情報を作成する 3  
カスタマイズ情報をユーザに配布する 3  
カスタマイズの概要 7  
環境変数 TZ 28  
環境を統一する 2

## き

共通して採取する障害情報 107  
共用キャビネットで障害が発生した場合の情報採取 126

## け

掲示に失敗しました。許可されたサイズを超えています 49  
掲示板フォルダが作成できません。同一ユーザが既にログインしています 22  
検索結果集合の論理積及び論理和 90

## こ

更新インストール 14

## さ

サーバに接続されていません。INBOX, 送信ログまたは掲示板を開いてください 33  
サービスプロセスで入出力エラーが発生しました 58  
作業環境のカスタマイズ 3  
サンプルマクロ 97

## し

システムフォント 52  
指定されたビジネスプロセスに案件を投入できません。ビジネスプロセス名, バージョン番号, ノード名称を確認してください 82  
指定したファイルが見つかりませんでした 58  
指定ノードからは新規ワーク ID は指定できません 82  
自動コミット 77  
終了時の自動コミット 77  
受信トレイ 93  
障害情報採取の設定ツール 107, 128  
障害情報採取の設定ツールでの障害情報採取 107  
障害報告時に併せて連絡していただきたい項目 105  
情報取得ツールの実行方法 125  
新規インストール 14

## す

スケジューラセットアップアイコン 51  
スケジュール管理機能で障害が発生した場合の情報採取 119

## せ

接続システムを選択する 9  
セットアップに関する注意事項 6  
セットアップの概要 6

## 索引

### そ

送信処理に失敗しました。許可されたサイズを超えています 48

### た

タイムアウト時間 55

### て

定型文書 90

データメモのサイズが上限を超えました 83

デフォルトフォント 42

電子アドレス帳，ローカル宛先台帳，ローカル宛先ファイル変換ユティリティ機能のエラーログ情報の採取方法 113

電子帳票機能で障害が発生した場合の情報採取 119

### と

同一ユーザで既にログインされています 22

統合セットアップ 6

統合セットアップで Groupmax 設定プロパティの項目を設定する 6

統合セットアップで障害が発生した場合の情報採取 113

統合セットアップでユーザを削除する 7

統合セットアップの権限 6

登録用属性ファイルフィールド 75

### に

日英辞書引き君 95

日本標準時 28

### は

バージョンアップしてインストールする 5

### ひ

表示条件 8

### ふ

ファイルパスが見つかりません 82

ファイル名が不適切です 99

フォーム文書データベース修復ツール 62

プレーンテキストモード 89

プログラム開始エラー 21

文書関連ファイルリスト 75

文書データベース関連ファイルリスト 75

文書配布機能 90

文書ひな形機能 90

### へ

ベクタグラフィックス 53

### ほ

ホスト名が登録されていません。Groupmax Scheduler Client のセットアップを実行して下さい 51

### ま

マージン値 41

### め

メール機能で障害が発生した場合の情報採取 113

メール機能のエラーログ情報の採取方法 113

メール定型文書棚フォルダ 90

メタ文字扱い 72

メニューのカスタマイズ方法 134

メモリ不足のため，一部表示できませんでした 58

### も

文字列後部スペースカットオプション 71

### ら

ラスタグラフィックス 53

### り

リッチテキストモード 89

リモートインストーラ 3

リモートインストール 14

リモートインストールに関する注意事項 14

### れ

レジストリキーに値の項目を追加して値を設定する方法 131

レジストリキーの値を変更する方法 131

レジストリキーを追加・作成して値を設定する方法 132

**ろ**

ローカル宛先エディタ 44

ローカル宛先簿ファイル 89

**わ**

ワークフロー案件処理機能で障害が発生した  
場合の情報採取 127





# ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内

ソフトウェアマニュアルについて、3種類のサービスをご案内します。ご活用ください。

## 1. マニュアル情報ホームページ

ソフトウェアマニュアルの情報をインターネットで公開しております。

URL <http://www.hitachi.co.jp/soft/manual/>

ホームページのメニューは次のとおりです。

Web提供マニュアル一覧	インターネットで参照できるマニュアルの一覧を提供しています。(詳細は「2. インターネットからのマニュアル参照」を参照してください。)
CD-ROMマニュアル情報	複数マニュアルを格納したCD-ROMマニュアルを提供しています。どの製品に対応したCD-ROMマニュアルがあるか、を参照できます。
マニュアルに関するご意見・ご要望	マニュアルに関するご意見、ご要望をお寄せください。

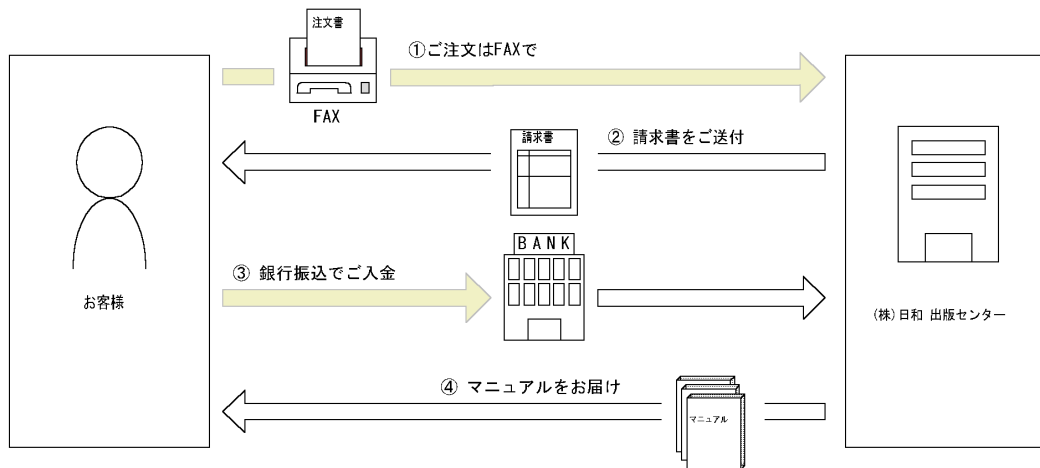
## 2. インターネットからのマニュアル参照(ソフトウェアサポートサービス)

ソフトウェアサポートサービスの契約をしていただくと、インターネットでマニュアルを参照できます。(本サービスの対象となる契約の種別、及び参照できるマニュアルは、マニュアル情報ホームページでご確認ください。参照できるマニュアルは、クライアント/サーバ系の日立オープンミドルウェア製品を中心に順次対象を拡大予定です。)

なお、ソフトウェアサポートサービスは、マニュアル参照だけでなく、対象製品に対するご質問への回答、問題解決支援、バージョン更新版の提供など、お客様のシステムの安定的な稼働のためのサービスをご提供しています。まだご契約いただいていない場合は、ぜひご契約いただくことをお勧めします。

## 3. マニュアルのご注文

裏面の注文書でご注文ください。



マニュアル注文書に必要事項をご記入のうえ、FAXでご注文ください。

ご注文いただいたマニュアルについて、請求書をお送りします。

請求書の金額を指定銀行へ振り込んでください。なお、送料は弊社で負担します。

入金確認後、7日以内にお届けします。在庫切れの場合は、納期を別途ご案内いたします。

(株) 日和 出版センター 行き

FAX 番号 0120-210-454 (フリーダイヤル)

## 日立マニュアル注文書

ご注文日	年 月 日
送付先ご住所	〒 _____ _____ _____
お客様名 (団体名, 又は法人名など)	
お名前	
電話番号	( )
FAX 番号	( )

資料番号	マニュアル名	数量
合計		

マニュアルのご注文について、ご不明な点は  
(株) 日和 出版センター (TEL 03-5281-5054) へお問い合わせください。